

平成29年度第13回 地域連携推進機構運営会議 議事次第

日 時：平成30年3月2日（金） 10:00～12:00

場 所：本部管理棟 2階 第2会議室

【議題】

＜審議事項＞	資料番号
1 平成30年度非常勤講師の委嘱について	審議1
2 沖縄市と国立大学法人琉球大学との包括連携協定の締結について	審議2
3 国立大学法人琉球大学職務発明等規程の改正について	審議3
4 国立大学法人琉球大学発明審査委員会規程の改正について	審議4
5 平成30年度公開講座の実施について	審議5
6 平成30年度公開授業の実施について	審議6
7 地域連携推進機構生涯学習推進部門研究紀要について	審議7
8 その他	
＜報告事項＞	
1 （進捗報告）地域貢献型大学としてのブランド確立に向けた地域貢献事業循環型モデルに関する具体的方策等について（第二次答申）	（資料なし）
2 第2回ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果等検証委員会について	報告2
3 平成30年度地域連携推進機構共用研究室等使用申請審査結果について	報告3
4 地域創生科目の全学履修体制について	報告4
5 2018年「オーキッドバウンティ」贈呈（知のふるさと納税）について	報告5
6 第97回琉大21世紀フォーラムの開催について	報告6
7 各室・部門の当面の活動予定（主要事項）について	報告7
8 その他	

※参考資料

- ・ 地域連携推進機構運営会議 委員名簿（平成30年1月1日時点）（参考資料1）
- ・ 平成29年度第13回地域連携推進機構運営会議 座席表（参考資料2）

※今後の日程

- ・ 第14回 … 3月23日（金） 10:00～12:00 於：本部管理棟 2階 第2会議室

平成29年度第12回 地域連携推進機構運営会議 議事要旨

日 時：平成30年2月2日（金） 13：30～15：30

場 所：本部管理棟 2階 第2会議室

出席者：須加原 一博（議長（機構長））、屋 宏典（副機構長 兼 産学官連携部門長）、背戸 博史（地域連携企画室長）、遠藤 光男（生涯学習推進部門長）、玉城 理（産学官連携部門 専任教員）、柴田 聡史（生涯学習推進部門 専任教員）、宮里 大八（地域連携企画室 特命教員）、下地 みさ子（産学官連携部門 特命教員）、空閑 睦子（生涯学習推進部門 特命教員）瀬名波 出（産学官連携部門 併任教員）、新田 早苗（総合企画戦略部長）、金城 邦夫（総合企画戦略部 地域連携推進課長）

欠席者：小島 肇（地域連携企画室 特命教員）、島袋 亮道（地域連携企画室 特命教員）、糸数 温子（生涯学習推進部門 特命教員）、新川 武（産学官連携部門 併任教員）、

陪席者：嘉目 克彦（監事）、下地 孝之（総合企画戦略部 地域連携推進課 課長代理）、大城 光雄（総合企画戦略部 地域連携推進課 地域連携推進係長）、與儀 あゆみ（総合企画戦略部 地域連携推進課 産学連携推進係長）、菅野 達之（総合企画戦略部 地域連携推進課 課員）、仲嶺 天展（総合企画戦略部 地域連携推進課 地域連携推進係員）、天願 翔太（総合企画戦略部 地域連携推進課 産学連携推進係員）

※審議に先立ち、12月22日開催の平成29年度第11回運営会議の議事要旨案について確認があり、了承された。

<審議事項>

議長から、次の4つの事項について機構の今後の対応について審議を行う旨提案があり、各担当から説明の上、審議を行った。

1. 地域貢献型大学としてのブランド確立に向けた地域貢献事業循環型モデルに関する具体的方策等について（第二次答申）

背戸室長から、資料（審議1）に基づき答申の策定について説明があった。主な意見は以下のとおり。

- ・ III. のアクション5について、「IT・エネルギー」のほか、「工業技術」も追加すれば工学部全体の教員が関わりやすいように思われる。（瀬名波教授）
- ・ IV. について、研究推進機構との関連性については整理する必要がある、西田理事とも相談したい。（須加原議長）
- ・ 沖縄県としては国際的な取組に関する諸策が乏しいという現状がある。国際的な学術交流とMICEは親和性があり、県が単独で取り組めない分野・施策について本学と協力していくことは有効であると考えられるため、「沖縄と世界」の観点のIV. の柱を立てることは有用である。（新田部長）
- ・ 本答申が今後の地域貢献型大学としての一つの指針になるため、本学の理念やミッション、中期

目標及び中期計画等を踏まえた内容となるよう留意されたい。また、沖縄21世紀ビジョンも踏まえると、より現実味が増すのではないか。(嘉目監事)

- ・ 第一次答申において本学の理念やミッションとの整合性は考慮しているが、第二次答申においても、もう少し関係性が明確になるよう検討したい。また、沖縄21世紀ビジョンについても現実的な課題との関連性などに関して盛り込みたい。戦略的経費の公募における審査においても、中期目標の達成に向けて不足している点を考慮することとしたい。(背戸室長)
- ・ 理念やミッション等との整合性を踏まえた上で、初めての試みであるフェアについては小さくまとまらないよう、最適な見せ方を求めている。(須加原議長)

審議の結果、引き続きWGを中心に審議を進め、本答申の策定については機構長に一任した上で了承された。

2. 平成30年度非常勤講師の委嘱及び客員教授等の名称付与について

屋部門長から、資料(審議2)に基づき委嘱及び名称付与について説明があった。

審議の結果、原案どおり了承された。

3. AMED知財リエゾンとの覚書締結について

事務局から、資料(審議3)に基づき覚書締結について説明があった。

審議の結果、原案どおり了承され、役員会に報告することとした。

4. 公開講座に関する規程制定等について

遠藤部門長及び事務局から、資料(審議4)に基づき規程の制定等について説明があった。主な意見は以下のとおり。

- ・ 不適切と思われる公開講座の事例が今年度発生したが、公開講座は質の保証が重要である。「琉球大学」の冠が付く全ての公開講座を事前に機構においてチェックするのは現実的ではないため、部局独自で行う公開講座については部局に責任をもって取り組んでもらいたい。(背戸室長)
- ・ 実施方針を部局にも定めてもらうことで、質の保証を求めることはできるのではないか。(新田部長)
- ・ 機構で定める全学的な公開講座に関する実施方針はひとつの参考になると思うが、各部局は各部局において実施方針を定めてもらうこととしたい。(背戸室長)
- ・ 機構の方で何でも責任を取ることはないが、公開講座に関する情報は一元化して集約しておくべきである。(嘉目監事)
- ・ 公開講座に関する報告ないしは調査をルーチン化することで情報集約はできるのではないか。(新田部長)

審議の結果、原案を一部修正の上で了承され、地域連携推進会議の議を経て、教育研究評議会に諮ることとした。

<報告事項>

議長から、次の3つの事項について機構の現状の認識と情報の共有を図るため、各担当から報告を行うよう発言があった。

1. 「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」総括シンポジウムの開催について
遠藤部門長から、資料（報告１）に基づきシンポジウムの開催について報告があった。
2. 第９６回琉大２１世紀フォーラムの開催について
金城課長から、資料（報告２）に基づきフォーラムの開催について報告があった。
3. 各室・部門の当面の活動予定（主要事項）について
各室・部門から、資料（報告３）に基づきそれぞれ報告があった。

※次回運営会議：３月２日（金）１０：００～１２：００ 於：本部管理棟 ２階 第２会議室

平成30年2月8日

非常勤講師の委嘱について（案）

1. 非常勤講師委嘱（継続・予算変更）・予定者

- ・合同会社コア・プロジェクション 代表社員 田場 誠
- ・オフィス瑞雲 代表 名幸 穂積

※現在、H27年度～H29年度 「次世代アントレプレナー人材育成推進事業」（沖縄県委託事業）にて
非常勤講師（コーディネーター）として従事

【参考】

田場氏・名幸氏の雇用金額(4月～5月分)の試算

(1) 田場 誠 氏

○公募事業の提案書作成、学内調整(学内会議運営)

4時間×4回/月→16時間

○公募説明会対応、プレゼン対応

2時間×2回/月→4時間

○ベンチャー起業講座運営支援(大角先生と調整中)

2時間×5回/月→10時間

(2) 名幸 穂積 氏

○公募事業の提案書作成、学内調整(学内会議運営)

4時間×4回/月→16時間

○公募説明会対応、プレゼン対応

2時間×2回/月→4時間

○ラボ運営(支援対象者のメンタリング等)

2時間×5回/月→10時間

(3) 人件費予算

田場：5,230円×20時間＝104,600円/月

名幸：5,730円×20時間＝114,600円/月 計 219,200円/月

支出予定合計 438,400円 (4月～5月2名分)

※H29年度非常勤教員人件費予定配分額：1,155,000円

非常勤講師（地域連携推進機構）委嘱について（案）

1. 非常勤講師委嘱（継続・予算変更）・予定者

合同会社コア・プロジェクション 代表社員 田場 誠

2. 理由

地域連携推進機構（以下「機構」という。）は、琉球大学（以下「本学」という。）における地域連携、産学官連携及び生涯学習推進に関わる戦略を全学的かつ一体的な観点から確立し、地域社会における人材の育成、産業振興に貢献するとともに地域連携の諸活動を通して本学における教育研究活動の活性化を図ることを目的としている。

機構産学官連携部門（以下「部門」という。）では、起業家人材育成を目的として、平成24年度～平成26年度 「産学人材育成ネットワーク形成促進事業」（沖縄県委託事業）及び平成27年度～平成29年度 「次世代アントレプレナー人材育成推進事業」（沖縄県委託事業）を実施している。これらの事業を実施するために、田場氏には平成24年度から本学の非常勤講師（コーディネーター）として従事いただいている。田場氏のこれまでの職務実績や知見、ノウハウを活用して、本学において、さらなる教育研究活動の活性化（起業家人材育成）を図りたい。

3. 根拠規程

- ・国立大学法人琉球大学非常勤講師人事規程（千原事業場）（第4条第3項、第5条第3項）

4. 委嘱期間 平成30年4月1日から平成31年度3月31日

5. 補足

平成30年度に「次世代アントレプレナー人材育成推進事業」の後継事業（沖縄県委託事業）が予定されているため、後継事業に本学が採択された場合は、この事業費で雇用予定。

非常勤講師（地域連携推進機構）委嘱について（案）

1. 非常勤講師委嘱（継続・予算変更）・予定者

オフィス瑞雲 代表 名幸 穂積

2. 理由

地域連携推進機構（以下「機構」という。）は、琉球大学（以下「本学」という。）における地域連携、産学官連携及び生涯学習推進に関わる戦略を全学的かつ一体的な観点から確立し、地域社会における人材の育成、産業振興に貢献するとともに地域連携の諸活動を通して本学における教育研究活動の活性化を図ることを目的としている。

機構産学官連携部門（以下「部門」という。）では、起業家人材育成を目的として、平成24年度～平成26年度 「産学人材育成ネットワーク形成促進事業」（沖縄県委託事業）及び平成27年度～平成29年度 「次世代アントレプレナー人材育成推進事業」（沖縄県委託事業）を実施している。これらの事業を実施するために、名幸氏には平成27年度から本学の非常勤講師（コーディネーター）として従事いただいている。名幸氏のこれまでの職務実績や知見、ノウハウを活用して、本学において、さらなる教育研究活動の活性化（起業家人材育成）を図りたい。

3. 根拠規程

- ・国立大学法人琉球大学非常勤講師人事規程（千原事業場）（第4条第3項、第5条第3項）

4. 委嘱期間 平成30年4月1日から平成31年度3月31日

5. 補足

平成30年度に「次世代アントレプレナー人材育成推進事業」の後継事業（沖縄県委託事業）が予定されているため、後継事業に本学が採択された場合は、この事業費で雇用予定。

国立大学法人琉球大学非常勤講師人事規程（千原事業場）

〔平成28年3月28日〕
制 定

（目的）

第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学非常勤職員就業規則（以下「規則」という。）第7条第2項の規定に基づき琉球大学（以下「本学」という。）の教育の充実を図るため雇用する者（以下「非常勤講師」という。）の人事に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（定義）

第2条 この規程において「部局等」とは、学部（附属施設及び附属学校を含む。）、大学院研究科、グローバル教育支援機構、地域連携推進機構、熱帯生物圏研究センター及び学内共同教育研究施設をいう。

2 この規程において「部局等の長」とは、前項に規定する部局等の長をいう。

（身分等）

第3条 非常勤講師の身分は、規則第2条第2号に規定するパートタイム職員とし、名称は、講師、講師（カウンセラー）又は講師（コーディネーター）とする。

（職務内容）

第4条 講師は、専攻分野に係る教授又は研究に従事する。

2 講師（カウンセラー）は、本学学生、生徒又は児童のもつ悩みや不安などの心理的問題について話し合い、解決のための援助・助言を行う。

3 講師（コーディネーター）は、本学教員が行っている研究と産業界・行政の研究ニーズを結びつけるための活動を行う。

（選考等）

第5条 講師は、部局等の長が、次条に定める事項により選考する。

2 講師（カウンセラー）は、臨床心理士などの資格を有する者のうちから保健管理センター所長が選考する。

3 講師（コーディネーター）は、産業界や公的な研究施設の研究ニーズを熟知している者のうちから地域連携推進機構長が選考する。

第6条 講師の選考に当たっては、国立大学法人琉球大学教員選考基準第4条を準用するものとする。

2 本学において講師となる者については、原則として資格審査を行うものとするが、以下に掲げる者については、資格審査を省略することができる。

- (1) 本学において非常勤講師（講師（カウンセラー）及び講師（コーディネーター）を除く。）として雇用された経歴のある者
- (2) 大学で専任講師以上の職にある者又はその職にあった者

（採用手続等）

第7条 医学部以外の学部，大学院法務研究科，大学院教育学研究科（専門職学位課程に限る。）及びグローバル教育支援機構（共通教育運営部門に限る。）の非常勤講師の採用計画書の作成及びその手続きについては，年度ごとに定める「非常勤講師採用手続きについて」によるものとする。

2 学長は，医学部以外の学部，大学院法務研究科，大学院教育学研究科（専門職学位課程に限る。）及びグローバル教育支援機構（共通教育運営部門に限る。）から提出された非常勤講師採用申請書に基づき次に掲げる書類の提出を依頼し，当該書類の提出を受けて，採用する。

- (1) 略歴書
- (2) 承諾書
- (3) 在留カードの写し（外国籍の場合に限る。）

3 医学部，大学院医学研究科，医学部附属病院，熱帯生物圏研究センター，学内共同教育研究施設，グローバル教育支援機構（国際教育支援部門及び保健管理部門に限る。）及び地域連携推進機構の非常勤講師の採用にあつては，人事異動上申書に，次の書類を添付して発令予定日の2週間前までに学長へ上申するものとし，学長は，この上申を受けて当該非常勤講師を採用する。

- (1) 略歴書
- (2) 承諾書
- (3) 国立大学法人琉球大学非常勤講師給与算定調書（医学部，医学部附属病院に限る。）
- (4) 在留カードの写し（外国籍の場合に限る。）

4 学長は，雇用の通算期間が，学内の異なる職種等から継続した雇用期間を含め，継続して5年（労働契約法第18条第2項による通算契約期間に算入しないこととされている期間は，当該講師の雇用期間に算入しない。以下同じ。）を超えることとなる講師（以下「雇用継続期間5年超過講師」という。）へ依頼を行う際は，翌年度の担当授業科目の依頼に併せて，無期労働契約への転換希望の有無及び無期転換後に担当できる授業科目について確認するものとする。

第8条 教育学部附属小・中学校の非常勤講師（以下「附属学校の非常勤講師」という。）の選考は，校長が行うものとする。

2 学長は，校長の推薦に基づき，採用するものとする。

3 前2項に定めるもののほか，附属学校の非常勤講師については，前条の規定に準じて取り扱うものとする。

（労働時間）

第9条 非常勤講師の労働時間は，その所属する部局等の長が定めるものとする。

(雇用期間)

第10条 非常勤講師の雇用期間は、4月1日から1年間とする。ただし、年度の途中で雇用する者のその終期は、当該年度末までとする。

2 次年度以降も雇用する場合は、年度毎に改めて雇用するものとする。

(雇用更新の上限)

第11条 非常勤講師の雇用契約期間は、原則として当該非常勤講師が満70歳に達した日以後における最初の3月31日までとする。

(無期労働契約への転換)

第12条 雇用継続期間5年超過講師は、次に定める手続きにより、無期労働契約への転換を申し込むことができるものとする。

(1) 雇用継続期間5年超過講師は、第7条第4項の手続きにおいて、無期労働契約への転換希望の有無及び無期労働契約転換後の担当授業科目への意見の有無について回答するものとする。

(2) 前号により無期労働契約への転換を希望する講師で、無期労働契約転換後に担当できる授業科目についての意見があった場合、学長は当該意見を参考に当該講師の無期労働契約転換後に担当できる授業科目を6年目以降の当該有期労働契約が終了する3月前までに決定し、明示するものとする。

(3) 第1号により無期労働契約への転換の希望を申し出た講師については、6年目以降の当該有期労働契約が終了する2月前までに無期労働契約転換申込書(別紙様式1)(以下「申込書」という。)を学長へ提出しなければならない。

(4) 学長は、前号により申込書の提出があった場合は、速やかに無期労働契約転換申込受理通知書(別紙様式2)を当該講師に送付するものとする。

2 前項第1号により無期労働契約への転換の希望を申し出なかった講師は、6年目以降の当該有期労働契約が終了する4月前までに無期転換希望変更申込書(別紙様式3)により、無期労働契約への転換希望を学長へ申出ることができる。この場合、当該無期転換希望変更申込書において、無期労働契約転換後に担当できる授業科目について意見があった場合の取扱い、前項第2号に準ずるものとする。

3 学長は、前2項に基づく手続きを踏まえ当該講師と無期労働契約を交わすこととし、当該講師は、当該有期労働契約が終了した翌日から無期労働契約へと転換するものとする。この場合、学長は労働条件通知書も併せて交付するものとする。

(無期労働契約後の手続等)

第13条 学長は、前条の規定に基づき無期労働契約へ転換した講師(以下「無期労働契約講師」という。)に対しての年度ごとの担当授業科目について、前条第3項の無期労働契約において合意した授業科目のうちから担当させるものとする。

2 学長は、前項の規定にかかわらず、前条第3項の無期労働契約において合意した担当でき

る授業科目以外の授業科目を担当させる必要がある場合は、当該無期労働契約講師と合意のうえ担当できる授業科目を変更又は追加することができるものとする。この場合、改めて労働条件通知書を交付するものとする。

- 3 学長は、規則第12条の規定にかかわらず、無期労働契約講師に対して、前条第3項及び前項において合意された担当できる授業科目以外に業務を命ずることはない。

（無期労働契約講師の定年）

第14条 無期労働契約講師に係る定年は満70歳とし、定年による退職の日は、満70歳に達した日以後における最初の3月31日とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、70歳を超えて無期労働契約講師となった場合の退職の日は、無期労働契約講師となった日以降における最初の3月31日とする。

（準用）

第15条 第12条から前条の規定については、講師（カウンセラー）、講師（コーディネーター）及び第8条に規定する附属学校の非常勤講師について準用する。

（人事異動通知書）

第16条 非常勤講師の異動については、人事異動通知書を交付するものとし、国立大学法人琉球大学非常勤職員人事規程第7条の規定に準じて行うものとする。

（雑則）

第17条 この規程に定めるもののほか、非常勤講師に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は平成28年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人琉球大学非常勤講師実施要項（平成16年4月1日制定）及び国立大学法人琉球大学非常勤講師の雇用に関する申合せ（平成16年4月1日制定）は、廃止する。
- 3 第7条第4項に規定する雇用の通算期間は、平成25年4月1日以降における最初の有期労働契約から適用する。

附 則（平成29年5月15日）

この規程は、平成29年5月15日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

<非常勤講師>

別紙様式 1

申請日 平成 年 月 日

無期労働契約転換申込書

琉球大学長 殿

所属部署

職 名

氏 名

私は、現在有期労働契約の契約期間の末日までに通算契約期間が5年を越えますので、労働契約法第18条の規定に基づき、期間の定めのない労働契約へ転換の申込みをします。

<非常勤講師>

別紙様式 2

平成 年 月 日

無期労働契約転換申込受理通知書

〇〇 〇〇 殿

琉 球 大 学 長

貴殿から平成 年 月 日付けで提出されました無期労働契約転換申込書については、受理しましたので、通知します。

別紙様式3

平成 年 月 日

琉球大学長 殿

所属部署 _____
職 名 _____
氏 名 _____

無期転換希望変更申込書

私は、現在の有期労働契約時に無期労働契約への転換を希望しませんでした。が、再度検討した結果、無期労働契約への転換を希望しますので申し出ます。

なお、平成〇〇年〇〇月〇〇日付け琉大人第〇〇号にて提示された無期労働契約となった場合に担当できる授業科目への意見については、次のとおり回答します。

- ・無期労働契約となった場合に担当できる授業科目について

※担当できる授業科目について、ご意見のある場合には具体的にお書きください。

※担当できる授業科目について、ご意見がない場合には「特になし」とお書きください。

<留意事項>

担当できる授業科目とは、開設する授業科目や専任教員の担当状況等を考慮し、毎年度相互の合意により担当する授業科目の範囲を示すものです。

沖縄市と国立大学法人琉球大学との包括連携協定書（案）

沖縄市（以下「甲」という。）と国立大学法人琉球大学（以下「乙」という。）は、相互の連携を包括的に強化し、地域社会への一層の貢献に資するため、次のとおり包括連携協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲、乙が相互に連携・協力を図り、地域社会の発展と人材育成及び学術研究の振興に寄与し、もって沖縄市の将来像である「国際文化観光都市」の実現に向けたまちづくりに資することを目的とする。

（連携・協力事項）

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる分野について連携・協力する。

- （1）まちづくりの推進に関する事
- （2）人材育成に関する事
- （3）平和活動、人権啓発に関する事
- （4）保健、医療、福祉に関する事
- （5）観光産業をはじめとする各種産業の振興に関する事
- （6）文化、交流に関する事
- （7）都市基盤に関する事
- （8）教育、学術、生涯学習に関する事
- （9）前各号に掲げるもののほか、本協定の目的を達成するために必要な事項に関する事

2 前項各号の分野において連携・協力を推進するにあたり、必要な方策等については、甲乙が協議の上、別途定める。

（意見交換）

第3条 甲及び乙は、本協定の目的を達成するため、必要に応じて意見交換を行う。

（守秘義務）

第4条 甲及び乙は、本協定に基づく活動により相手方から知り得た秘密事項について、本協定の有効期間中及び有効期間終了後を問わ

ず、その一切について守秘義務があることを確認し、漏洩してはならない。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

(有効期間)

第5条 本協定は、協定締結の日から発効し、甲及び乙のいずれかの申し出に基づき、解消の合意が成立したときに終了する。

(協議)

第6条 本協定に定めのない事項又は本協定に関し疑義が生じた場合は、甲及び乙が協議の上決定する。

本協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、甲及び乙それぞれ署名押印の上、各自1通を保有する。

平成30年3月26日

甲 沖縄県沖縄市仲宗根町26番1号
沖縄市長

乙 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
国立大学法人琉球大学長

国立大学法人琉球大学職務発明等規程（案）

平成16年4月1日
制 定

第1章 総則

（目的）

第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学（以下「本法人」という。）の職員等が行った発明等の取扱いについて規定し、その発明者としての権利を保障し、発明等及び研究意欲の向上を図ることを目的とする。

（用語の定義）

第2条 この規程において、次に掲げる用語は、次の定義によるものとする。

- (1)「発明等」とは、次に掲げるものをいう。
 - ア 特許権の対象となるものについては発明
 - イ 実用新案権の対象となるものについては考案
 - ウ 商標権の対象となるものについては商標
 - エ 意匠権、回路配置利用権及びプログラム等の著作権の対象となるものについては創作
 - オ 品種登録にかかわる権利の対象となるものについては育成
 - カ ノウハウを対象とするものについては案出
- (2)「職務発明等」とは、本法人が措置した費用や施設・設備を利用して行う研究等で創出される職員等の発明等及び民間企業等との共同研究、受託研究、奨学寄附金、政府からの研究資金に基づく職員等の発明等をいう。
- (3)「知的財産権」とは、次に掲げるものをいう。
 - ア 特許法に規定する特許権、実用新案法に規定する実用新案権、商標法に規定する商標権、意匠法に規定する意匠権、半導体集積回路の回路配置に関する法律に規定する回路配置利用権、種苗法に規定する育成者権及び外国における上記各権利に相当する権利
 - イ 特許法に規定する特許を受ける権利、実用新案法に規定する実用新案登録を受ける権利、商標法に規定する商標登録を受ける権利、意匠法に規定する意匠登録を受ける権利、半導体集積回路の回路配置に関する法律第3条第1項に規定する回路配置利用権の設置の登録を受ける権利、種苗法第9条第1項に規定する品種登録を受ける権利及び外国における上記各権利に相当する権利
 - ウ 著作権法第2条第1項第10号の2のプログラム著作物及び同号の3のデ

データベースの著作物に係る著作権法第21条から第28条に規定する著作権及び外国における上記各権利に相当する権利

エ ア、イ、又はウに掲げる権利の対象とならない技術情報のうち秘匿することが可能な財産的価値があるものであって、発明者が所属する学部長、研究科長、センター長等（以下「部局等の長」という。）が特に指定する権利（ノウハウをす。）

(4)「職員等」とは、次に掲げる者をいう。

ア 本法人の職員

イ 本法人の学生、大学院生、研究生、共同研究員、受託研究員及びその他大学の教育・研究に携わる者

(5)「出願等」とは、特許出願及び登録出願等の知的財産に関して法令で定められた権利保護のために必要な所定の手続を行うことをいう。

(6) 知的財産権の「実施」とは、特許法第2条第3項に定める行為、実用新案法第2条第3項に定める行為、意匠法第2条第3項に定める行為、商標法第2条第3項に定める行為、半導体集積回路の回路配置に関する法律第2条第3項に定める行為、種苗法第2条第5項に定める行為、著作権法第2条第1項第15条及び同項第19条に定める行為並びにノウハウの使用をいう。

(権利の帰属)

第3条 本法人は、職務発明等に係る知的財産権の全部または一部を承継し、これを所有するものとする。ただし、特別の事情があると本法人が認めるときは、職員等に帰属させることができる。

第2章 届出及び帰属の決定

(届出及び受理)

第4条 職員等は、発明等を行ったときは別記様式1（発明届出書）によって、速やかに学長に届け出るものとする。

2 学長は、前項の届出があったときは、速やかに当該職員等に受理した旨を通知しなければならない。

(発明等の審議・知的財産権の出願等)

第5条 学長は、前条第1項の規定による届出があったときは、国立大学法人琉球大学地域連携推進機構規則第17条の規定に基づき設置される国立大学法人琉球大学発明審査委員会（以下「発明審査委員会」という。）に対し、発明等に関する事項を諮問し、その答申を踏まえて、職務発明等の該当の可否、本学が承継するか否か、及び本法人

が承継する場合の知的財産権の持分割合、出願等の要否等を決定する。

- 2 学長は、前項の規定により、当該発明等に関する決定を行ったときは、速やかにその決定内容を当該職員等に通知しなければならない。
- 3 学長は、第1項の規定により職務発明等に関する決定を行ったときは、出願等を行うことができる。

(異議の申立て)

第6条 職員等は、前条第1項による決定に対し異議があるときは、通知を受けた日から2週間以内に学長に対し、異議を申立てることができる。

- 2 学長は、異議申立てがあったときは、発明審査委員会の意見を徴したうえで、異議申立ての可否を決定する。
- 3 学長が前項の決定をしたときは、当該職員等及び発明審査委員会に通知する。
- 4 職員等は、第2項による決定に対し否とされた決定については、再び異議申立てを行うことはできないものとする。

(任意譲渡)

第7条 職員等からの届出による発明等について、学長が職務発明等に該当しないと決定した場合に、当該職員等から知的財産権を本法人に譲渡する申し出があったときは、学長は、発明審査委員会の意見を徴した上で、知的財産権の承継の可否を決定する。

- 2 学長は前項の規定により、知的財産権の承継について可否を決定したときは、当該職員等に通知する。
- 3 第1項による決定に対し異議があるときは、前条の規定に準じて取り扱うものとする。

(譲渡書の提出)

第8条 職員等からの届出による発明等について、本法人が承継すると決定したときは、当該職員等は、別記様式2による権利譲渡書を学長に提出しなければならない。

(制限行為)

第9条 職員等は、本法人が発明等について職務発明等でないと決定し、又は職務発明等であるがその権利を承継しないと決定した後でなければ出願等をし、又は職務発明等の権利を第三者に譲渡してはならない。ただし、出願等を行わなければ、当該知的財産権を失う可能性がある場合には、この限りではない。この場合、職員等は、出願等を行った後、速やかに、学長に当該緊急の措置の内容について書面をもって報告し、その指示に従わなければならない。

第3章 補償

(補償金の支払)

第10条 本学は、次の各号に掲げる場合において知的財産権を取得したときは、当該知的財産権に係る発明等をした職員等に対し、別に定める補償金を支払うものとする。

- (1) 本法人が発明等を承継又は所有したとき。
 - (2) 本法人が承継した発明等が登録等知的財産に関して法令で定められた権利を受けたとき。
- 2 本法人は、その所有する発明等又は知的財産権の実施若しくは処分により収益（収入）を得たときは、当該発明等又は知的財産権に係る発明をした職員等に対し、別に定める補償金を支払うものとする。

(共同発明者に対する補償)

第11条 前条の補償金は、当該補償金を受ける権利を有する職員等が2人以上あるときは、それぞれの持分に応じて支払うものとする。

(転退職又は死亡したときの補償)

第12条 第10条及び第11条の補償金を受ける権利は、当該権利にかかわる職員等が転退職し、又は在籍関係を終了した後においても存続する。

- 2 前項の権利を有する職員等が死亡したときは、当該権利は、その相続人が承継する。

第4章 (削除)

第13条 (削除)

第14条 (削除)

第15条 (削除)

第5章 雑則

(秘密の保持)

第16条 職員等は、当該発明等の内容等の事項について、必要な期間中その秘密を

守らなければならない。ただし、本法人と職員等が合意の上、公表する場合及び本学又は職員等の責によらずして公知となった場合は除く。

(退職後の取扱い)

第17条 職員等が転退職し、又は在籍関係を終了した後においても、当該発明等が転退職又は在籍関係終了前の職務発明等に該当する場合の取扱いは、この規程によるものとする。

(庶務)

第18条 この規程に定める庶務は、総合企画戦略部地域連携推進課において処理する。

(外国出願の取扱い)

第19条 この規程は、外国の知的財産権を対象とする発明等に関してもこれを準用する。

(雑則)

第20条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、学長の承認を得て、琉球大学地域連携推進機構長が別に定める。

(改廃)

第21条 この規程の改廃は、教育研究評議会の議を経て学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から実施する。
- 2 琉球大学発明規則（昭和53年9月28日制定）、琉球大学発明委員会規程（平成11年3月30日制定）、琉球大学発明規則に関する申し合せ（昭和55年4月24日制定）は廃止する。

附 則（平成18年3月28日）

この規程は、平成18年4月1日から実施する。

附 則（平成21年6月23日）

この規程は、平成21年6月23日から施行する。

附 則（平成26年8月28日）

この規程は、平成26年8月28日から施行し、平成26年7月1日から適用する。

附 則（平成27年6月23日）

この規程は、平成２７年７月１日から施行する。

附 則（平成２８年７月１１日）

この規程は、平成２８年７月１１日から施行し、平成２８年４月１日から適用する。

附 則（平成３０年○月○日）

この規程は、平成３０年４月１日から施行する。

別記様式 1

平成 年 月 日

国立大学法人琉球大学長 殿

所属部局：

職 名：

住 所：

氏 名： _____ 印 _____

發 明 等 屆 出 書

下記の発明等について、国立大学法人琉球大学職務発明規程第4条の規定に基づき、届け出ます。

記

1. 発明等の種類 ☐特許 ☐実用新案 ☐意匠 ☐商標
(※チェックを入れてください)

2. 発明等の名称

3. 発明等の内容説明書（別記様式1－2）

4. 発明者 氏名： 所属：
氏名： 所属：
氏名： 所属：

5. 共同出願人の有無 有 ・ 無
(有の場合：共同出願人名)

6. 使用した研究費の種類

7. 使用した研究設備、備品等の名称

8. 連絡先

場所：

内 線 番 号:

E-mail Address :

9. 学会等発表予定日 平成 年 月 日
(学会名及び場所:)

別記様式 1－2

発明等の内容

1. 発明等に至る経緯

2. 1のうち、従来から知られている（公知の）発明部分

3. 1のうち新しい知見部分（権利化したい内容）

4. 今後（直近）の研究予定

5. 期待できる利用可能性（未研究部分）

6. 添付資料の有無 有 ・ 無

7. 先行技術調査のためのキーワード

別記様式2

権 利 譲 渡 書

平成 年 月 日

(譲受人)
国立大学法人琉球大学長 殿
(譲渡人)

氏名	住所等		発明寄与率%
印	自宅住所	沖縄県	
	所 属		
	職 種		
印	自宅住所		
	所 属		
	職 種		
印	自宅住所		
	所 属		
	職 種		
印	自宅住所		
	所 属		
	職 種		
計			1 0 0

上記譲渡人は、下記発明等における特許等を受ける権利を国立大学法人琉球大学に譲渡したことに相違ありません。

記

1. 発明等（知的財産である発明、考案、創作、創出等）
名称 _____
2. 出願番号等

- 以上

○国立大学法人琉球大学職務発明等規程

新	旧
(改正理由) 国立大学法人琉球大学組織規則の全部改正に併せて、規程全文を見直すとともに、別記様式などについての整合を図るため、文言等を含めた所要の改正を行う。 第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学（以下「<u>本法人</u>」という。）の職員等が行った発明等の取扱いについて規定し、その発明者としての権利を保障し、発明等及び研究意欲の向上を図ることを目的とする。 第2条 この規程において、次に掲げる用語は、次の定義によるものとする。 (1) (略) (2)「職務発明等」とは、<u>本法人</u>が措置した費用や施設・設備を利用して行う研究等で創出される職員等の発明等及び民間企業等との共同研究、受託研究、奨学寄附金、政府からの研究資金に基づく職員等の発明等をいう。 (3) (略) (4)「職員等」とは、次に掲げる者をいう。 ア <u>本法人</u>の職員	第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学（以下「<u>本学</u>」という。）の職員等が行った発明等の取扱いについて規定し、その発明者としての権利を保障し、発明等及び研究意欲の向上を図ることを目的とする。 第2条 この規程において、次に掲げる用語は、次の定義によるものとする。 (1) (略) (2)「職務発明等」とは、<u>本学</u>が措置した費用や施設・設備を利用して行う研究等で創出される職員等の発明等及び民間企業等との共同研究、受託研究、奨学寄附金、政府からの研究資金に基づく職員等の発明等をいう。 (3) (略) (4)「職員等」とは、次に掲げる者をいう。 ア <u>本学</u>の職員

イ <u>本法人及び琉球大学</u>の学生，大学院生，研究生，共同研究員，受託研究員及びその他大学の教育・研究に携わる者 (5) ～ (6) (略) 第3条 <u>本法人</u>は，職務発明等に係る知的財産権の全部または一部を承継し，これを所有するものとする。ただし，特別の事情があると<u>本法人</u>が認めるときは，職員等に帰属させることができる。 第4条 (略) 第5条 学長は，前条第1項の規定による届出があったときは，<u>国立大学法人琉球大学地域連携推進機構規則第17条の規定に基づき設置される</u>国立大学法人琉球大学発明審査委員会（以下「発明審査委員会」という。）に対し，発明等に関する事項を諮問し，その<u>答申を踏まえて</u>，職務発明等の該当の当否，<u>本法人</u>が承継するか否か，及び<u>本法人</u>が承継する場合の知的財産権の持分割合，出願等の要否等を決定する。 2 学長は，前項の規定により，当該発明等に関する決定を行ったときは，<u>速やか</u>にその決定内容を当該職員等に通知しなければならない。 3 (略) 第6条 (略)	イ <u>本学</u>の学生，大学院生，研究生，共同研究員，受託研究員及びその他大学の教育・研究に携わる者 (5) ～ (6) (略) 第3条 <u>本学</u>は，職務発明等に係る知的財産権の全部または一部を承継し，これを所有するものとする。ただし，特別の事情があると<u>本学</u>が認めるときは，職員等に帰属させることができる。 第4条 (略) 第5条 学長は，前条第1項の規定による届出があったときは，国立大学法人琉球大学発明審査委員会（以下「発明審査委員会」という。）に対し，発明等に関する事項を諮問し，その<u>報告に基づき</u>職務発明等の該当の当否，<u>本学</u>が承継するか否か，及び<u>本学</u>が承継する場合の知的財産権の持分割合，出願等の要否等を決定する。 2 学長は，前項の規定により，当該発明等に関する決定を行ったときは，<u>届出の日から1か月以内</u>にその決定内容を当該職員等に通知しなければならない。 3 (略) 第6条 (略)
---	---

第7条 職員等からの届出による発明等について、学長が職務発明等に該当しないと決定した場合に、当該職員等から知的財産権を<u>本法人</u>に譲渡する申し出があったときは、学長は、発明審査委員会の意見を徴した上で、知的財産権の承継の可否を決定する。 2 (略) 3 第1項による決定に対し異議があるときは、<u>前条</u>の規定に準じて取り扱うものとする。 第8条 職員等からの届出による発明等について、<u>本法人</u>が承継すると決定したときは、当該職員等は、別記様式2による権利譲渡書を学長に提出しなければならない。 第9条 職員等は、<u>本法人</u>が発明等について職務発明等でないと決定し、又は職務発明等であるがその権利を承継しないと決定した後でなければ出願等をし、又は職務発明等の権利を第三者に譲渡してはならない。ただし、出願等を行わなければ、当該知的財産権を失う可能性がある場合には、この限りではない。この場合、職員等は、出願等を行った後、速やかに、学長に当該緊急の措置の内容について書面をもって報告し、その指示に従わなければならない。 第10条 <u>本法人</u>は、次の各号に掲げる場合において知的財産権を	第7条 職員等からの届出による発明等について、学長が職務発明等に該当しないと決定した場合に、当該職員等から知的財産権を<u>本学</u>に譲渡する申し出があったときは、学長は、発明審査委員会の意見を徴した上で、知的財産権の承継の可否を決定する。 2 (略) 3 第1項による決定に対し異議があるときは、<u>第7条</u>の規定に準じて取り扱うものとする。 第8条 職員等からの届出による発明等について、<u>本学</u>が承継すると決定したときは、当該職員等は、別記様式2による権利譲渡書を学長に提出しなければならない。<u>前条の場合においても同様とする。</u> 第9条職員等は、<u>本学</u>が発明等について職務発明等でないと決定し、又は職務発明等であるがその権利を承継しないと決定した後でなければ出願等をし、又は職務発明等の権利を第三者に譲渡してはならない。ただし、出願等を行わなければ、当該知的財産権を失う可能性がある場合には、この限りではない。この場合、職員等は、出願等を行った後、速やかに、学長に当該緊急の措置の内容について書面をもって報告し、その指示に従わなければならない。 第10条 <u>本学</u>は、次の各号に掲げる場合において知的財産権を取
--	--

取得したときは、当該知的財産権に係る発明等をした職員等に対し、別に定める補償金を支払うものとする。 (1) <u>本法人</u>が発明等を承継又は所有したとき。 (2) <u>本法人</u>が承継した発明等が登録等知的財産に関して法令で定められた権利を受けたとき。 2 <u>本法人</u>は、その所有する発明等又は知的財産権の実施若しくは処分により収益(収入)を得たときは、当該発明等又は知的財産権に係る発明をした職員等に対し、別に定める補償金を支払うものとする。 第11条～第15条 (略) 第16条 職員等は、当該発明等の内容等の事項について、必要な期間中その秘密を守らなければならない。ただし、<u>本法人</u>と職員等が合意の上、公表する場合及び<u>本法人</u>又は職員等の責によらずして公知となった場合は除く。 第17条～第21条 (略) <u>附 則(平成30年 月 日)</u> <u>この規程は、平成30年4月1日から施行する。</u>	得したときは、当該知的財産権に係る発明等をした職員等に対し、別に定める補償金を支払うものとする。 (1) <u>本学</u>が発明等を承継又は所有したとき。 (2) <u>本学</u>が承継した発明等が登録等知的財産に関して法令で定められた権利を受けたとき。 2 <u>本学</u>は、その所有する発明等又は知的財産権の実施若しくは処分により収益(収入)を得たときは、当該発明等又は知的財産権に係る発明をした職員等に対し、別に定める補償金を支払うものとする。 第11条～第15条 (略) 第16条 職員等は、当該発明等の内容等の事項について、必要な期間中その秘密を守らなければならない。ただし、<u>本学</u>と職員等が合意の上、公表する場合及び<u>本学</u>又は職員等の責によらずして公知となった場合は除く。 第17条～第21条 (略)
---	---

別記様式 1

平成 年 月 日

国立大学法人琉球大学長 殿

所属部局：

職 名：

住 所：

氏 名： _____ 印

発 明 等 届 出 書

下記の発明等について、国立大学法人琉球大学職務発
明規程第4条の規定に基づき、届け出ます。

記

1. 発明等の種類 ☐特許 ☐実用新案 ☐意匠 ☐商標

別記様式 1

平成 年 月 日

国立大学法人琉球大学長 殿

所属部局

職 名

氏 名

印

発 明 届 出 書

下記発明について、国立学校法人琉球大学職務発明等規程
第4条の規定に基づき、届け出ます。

記

1 発明の名称

(※チェックを入れてください)

2. 発明等の名称

3. 発明等の内容説明書（別記様式 1 - 2）

4. 発明者 氏名： 所属：
氏名： 所属：
氏名： 所属：

5. 共同出願人の有無 有 ・ 無
(有の場合：共同出願人名)

6. 使用した研究費の種類

7. 使用した研究設備、備品等の名称

8. 連絡先
場 所：
内 線 番 号：
E-mail Address：

9. 学会等発表予定日 平成 年 月 日
(学会名及び場所：)

2 発明の内容等説明書（別記様式 1 - 2）

3 特許権取得及び実施（企業化）可能性調書（別紙様式 1 - 3）

4 発明に至った研究課題並びに使用した研究経費・研究設備の
名称

- (1) 研究課題名
- (2) 使用した研究経費の種類
- (3) 使用した研究設備の名称

5 その他参考事項

6 添付書類

研究計画調書等研究課題の内容を明らかにする書類の写を添
付すること。

(注) 1 枚で不足の場合は、別紙に記入し添付してください。

別記様式 1－2

発明等の内容

1. 発明等に至る経緯

2. 1のうち、従来から知られている（公知の）発明部分

3. 1のうち新しい知見部分（権利化したい内容）

4. 今後（直近）の研究予定

別記様式 1－2

発明の内容等説明書

I 発明内容

- 1 発明の名称
- 2 発明の属する技術分野
- 3 従来の技術の概要とその問題点（注1）
- 4 発明の目的（注2）
- 5 適用できる製品名
- 6 発明の具体例（注3）
 - (1) 構成（注4）
 - (2) 作用（注5）
 - (3) 効果（注6）
- 7 発明の要点（注7）

II 発明の経過

- 1 発明の名称
- 2 発明者及び共同発明者
 - ①所属部局
 - ②職名
 - ③氏名
 - ④住所
- 3 出願の緊急度(緊急に出願を行う必要がある場合に記入する)
理 由
出願期限 平成 年 月 日
- 4 発表の状況
 - (イ) 未発表
発表予定 ・有 ・無 発表予定 平成 年 月 日
 - (ロ) 発表済
①試験による発表 平成 年 月 日

5. 期待できる利用可能性（未研究部分） 6. 添付資料の有無 有 ・ 無 7. 先行技術調査のためのキーワード	②刊行物に発表 平成 年 月 日刊行物名 ③学術団体における研究集会で発表 学術団体名 研究集会名 発表年月日 予稿集発表 発行日平成 年月日 発表日平成 年月日 ④その他 5 関係のある特許公報又は公開特許公報の番号（判明している場合に記入する） 特許公報の番号_____ 公開特許公報の番号_____ 6 出願審査の請求時期（特に指定がなければ出願と同時に行う） 指定する時期 平成 年 月 日 理由 7 外国出願の必要性（外国出願の必要性がある場合に記入する（注8））。 出願希望国名 理由		
（削る）	<u>別記様式1-3</u> <table border="1"> <tr> <th data-bbox="1126 938 1951 1037">特許権取得及び実施（企業化）可能性調書</th> </tr> <tr> <td data-bbox="1126 1043 1951 1324"> 1 特許権取得の可能性について （1）新規性（公然知られていない，実施されていない，刊行物に記載されていない （2）進歩性（容易に発明をすることができない） （3）産業上の利用可能性 </td> </tr> </table>	特許権取得及び実施（企業化）可能性調書	1 特許権取得の可能性について （1）新規性（公然知られていない，実施されていない，刊行物に記載されていない （2）進歩性（容易に発明をすることができない） （3）産業上の利用可能性
特許権取得及び実施（企業化）可能性調書			
1 特許権取得の可能性について （1）新規性（公然知られていない，実施されていない，刊行物に記載されていない （2）進歩性（容易に発明をすることができない） （3）産業上の利用可能性			

	☐大きい ☐普通 ☐困難な点がある と思われる
	2 実施（企業化）の可能性について
	☐大きい ☐普通 ☐あまり無いと思 われる
	3 発明者の職名・氏名
別記様式 2	別記様式 2
権 利 譲 渡 書	権 利 譲 渡 書

平成 年 月 日			
(譲受人)			
国立大学法人琉球大学長 殿			
(譲渡人)			
氏名	住所等		発明寄与率%
印	自宅住所	沖縄県	
	所属		
	職種		
印	自宅住所	沖縄県	
	所属		
	職種		
印	自宅住所	沖縄県	
	所属		
	職種		
印	自宅住所	沖縄県	
	所属		
	職種		
計		1 0 0	
上記譲渡人は、下記発明等における特許等を受ける権利を国立大学法人琉球大学に譲渡したことに相違ありません。			
記			

平成 年 月 日	
譲受人	国立大学法人琉球大学長 殿
住所（居所） 譲渡人	
下記の発明等に関する特許等を受ける権利を貴殿に譲渡したことに相違ありません。	
記	
発明等の名称	

1. 発明等（知的財産である発明、考案、創作、創出等） 名称 2. 出願番号等 以上	<u>記入上の注意（別記様式 1－2）</u> 注1「従来の技術の概要とその問題点」は、出願しようとする発明に最も近い従来の技術を記載することとし、必要があれば図面を付して説明する。従来の技術がない場合はその旨を記載する。 注2「発明の目的」は、解決しようとする問題点、産業上の利用分野等を2項との関連において記載する。 注3「発明の具体例」は、発明者が最良の結果をもたらすと思うものとなるべく多種類掲げて記載し、必要に応じ具体的数字に基づいて事実を記載する。 方法の発明の場合は、その方法の各行程や使用の順序を作用とともに経時的（同時でもよい）に記載し、必要があれば使用装置の図面を添付して、その各部に記入した番号を参照しながら詳細に説明し、あわせてその効果も詳細に記載する。 なお、できるだけ実験データを添付する。
--	---

	注4「構成」は、 ①構造物(装置、器具、その他の物品を含む)に関する発明にあつては、その構造を成立させている各要素及びその要素の材質や形状、並びに各要素間の構成上の相互的な関連について添付図面中に記入した各部の番号を参照して詳細に説明する。 ②回路(電気回路、油圧回路等)に関する発明にあつては、回路を構成している各素子と、これらの結合関係について、添付図面中に記入した各部の番号を参照して詳細に説明する ③組成物(新規の物質、合金、素材等を含む)に関する発明にあつては、各材料の配合割合用途、もしくは使用の態様、性質等について必要があれば添付図面または実験データ等を記載した表などを用い、さらに化合物名や化学構造式(一般式)が判明しているときはこれについても詳細に説明する。 注5「作用」は、発明の構成からもたらされる機能や使い方、扱い方等を記載する。 注6「効果」は、発明によって生じた特有の効果を従来の技術と比較しながら、なるべく具体的に記載する。 注7「発明の要点」は、特許権を取得したい範囲すなわち、発明の構成にぜひとも必要な要件を記載する。 なお、この要件の記載は箇条書形式でもよい。 また方法の発明の場合、その使用装置も新規で発明を構成すると思われる場合は、方法の発明とともにその装置の発明も併記する。
--	---

	注8「外国出願の必要性」は、外国出願に要する経費は高額であり、多くの予算を必要とすることから慎重に検討すること。なお、出願の必要性があり、出願希望国が2以上ある場合は優先順位をつけ、その国ごとに理由を記載すること。
--	--

国立大学法人琉球大学発明審査委員会規程（案）

平成21年10月20日
制 定

（設置）

第1条 国立大学法人琉球大学地域連携推進機構規則第17条の規定に基づき、国立大学法人琉球大学地域連携推進機構（以下「機構」という。）に置く国立大学法人琉球大学発明審査委員会（以下「発明審査委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

（目的）

第2条 発明審査委員会は、国立大学法人琉球大学職務発明等規程（以下「職務発明等規程」という。）第5条第1項に基づき、発明等に関する事項を審議し、学長に答申することを目的とする。

（審議事項）

第3条 発明審査委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- （1）職務発明等規程第5条第1項に規定する届出による発明等が、職務発明等に該当するか否かの審査に関する事。
- （2）当該職務発明等を本法人が承継するか否かの審査に関する事。
- （3）当該職務発明等の技術的評価に関する事。
- （4）知的財産権を出願等しうする要件を具備しているか否かの審査に関する事。
- （5）出願等に関する事及び共同出願の場合に本法人等が承継する知的財産権の持分の決定に関する事。
- （6）異議申立てに関する事。
- （7）補償金等に関する事。
- （8）学長から諮問のあつた事項に関する事。
- （9）その他発明等に関する事。

（組織）

第4条 発明審査委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- （1）知的財産系の教員
 - （2）研究開発支援系の教員及び起業支援系の教員
 - （3）各学部及び熱帯生物圏研究センターの教員のうちから選出された者各1名（ただし、人文社会学部又は国際地域創造学部からは1名とする。）
 - （4）財務部長
 - （5）総合企画戦略部長
 - （6）その他地域連携推進機構長（以下「機構長」という。）が推薦する者若干名
- 2 前項第6号の委員は、学内者又は学外者から機構長の推薦に基づき学長が任命する。
- 3 第1項第3号及び第6号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 発明審査委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、前条第1項第1号に規定する委員をもって充て、副委員長は、委員の中から委員長が指名する者をもって充てる。

3 委員長は、発明審査委員会を招集し、その議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。

(会議)

第6条 発明審査委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。

2 発明審査委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 議決を要する事項については、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 発明審査委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門部会)

第8条 発明審査委員会に、評価及び補償金に関する事項を審議するため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

(学長への報告)

第9条 委員長は、発明審査委員会の審議結果について、学長に報告するものとする。

(庶務)

第10条 発明審査委員会の庶務は、総合企画戦略部地域連携推進課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、発明審査委員会の運営に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、地域連携推進機構運営会議の議を経て機構長が行う。

附 則

1 この規程は、平成21年10月20日から施行し、平成21年6月23日から適用する。

2 この規程の施行日前に、国立大学法人琉球大学職務発明等規程第15条第1項第7号に基づき任命された委員は、国立大学法人琉球大学発明審査委員会規程第4条第1項第3号により任命されたものとみなし、その任期は、第4条第3項の規定にかかわらず、任命の際に付された平成22年3月31日までとする。

附 則（平成26年8月28日）

この規程は、平成26年8月28日から施行し、平成26年7月1日から適用する。

附 則（平成27年6月23日）

この規程は、平成27年7月1日から施行する。

附 則（平成28年7月11日）

この規程は、平成28年7月11日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則（平成30年〇月〇日）

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

○国立大学法人琉球大学発明審査委員会規程

新	旧
(改正理由) 法文学部・観光産業科学部の学部改組および国立大学法人琉球大学組織規則の全部改正に併せて、規程全体を見直すとともに、条文を整理するため、文言等を含めた所要の改正を行う。 第1条 <u>国立大学法人</u>琉球大学地域連携推進機構規則第17条の規定に基づき、<u>国立大学法人</u>琉球大学地域連携推進機構（以下「機構」という。）に<u>置く</u>国立大学法人琉球大学発明審査委員会（以下「発明審査委員会」という。）<u>に関し必要な事項を定める。</u> 第2条 発明審査委員会は、国立大学法人琉球大学職務発明等規程（以下「職務発明 等規程」という。）第5条第1項に基づき、発明等に関する事項を審議し、学長に<u>答申</u>することを目的とする。 第3条 発明審査委員会は、次に挙げる事項を審議する。 （1）職務発明等規程第5条第1項に規定する届出による発明等が、職務発明等に該当するか否かの審査に関すること。<u>。</u> （2）当該職務発明等を<u>本法人</u>が承継するか否かの審査に関すること。<u>と。</u> （3）当該職務発明等の技術的評価に関すること。<u>。</u>	第1条 琉球大学地域連携推進機構規則第17条の規定に基づき、琉球大学地域連携推進機構（以下「機構」という。）に国立大学法人琉球大学発明審査委員会（以下「発明審査委員会」という。）<u>を置く。</u> 第2条 発明審査委員会は、国立大学法人琉球大学職務発明等規程（以下「職務発明 等規程」という。）第5条第1項に基づき、発明等に関する事項を審議し、学長に<u>報告</u>することを目的とする。 第3条 発明審査委員会は、次に挙げる事項を審議する。 （1）職務発明等規程第5条第1項に規定する届出による発明等が職務発明等に該当するか否かの審査に関すること （2）当該職務発明等を<u>本学</u>が承継するか否かの審査に関すること （3）当該職務発明等の技術的評価に関すること

(4) 知的財産権を出願等しうる要件を具備しているか否かの審査に関すること。<u> </u> (5) 出願等に関すること及び共同出願の場合に<u>本法人</u>等が承継する知的財産権の持分の決定に関すること。<u> </u> (6) 異議申立てに関すること。<u> </u> (7) 補償金等に関すること。<u> </u> (8) 学長から諮問のあった事項に関すること。<u> </u> (9) その他発明等に関すること。<u> </u> <u>(削る)</u> <u>(削る)</u> 第4条 発明審査委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。 (1) 知的財産系の教員 (2) 研究開発支援系の教員及び起業支援系の教員 (3) 各学部及び熱帯生物圏研究センターの教員のうちから選出された者各1名 <u>(ただし、人文社会学部又は国際地域創造学部からは1名とする。)</u> (4) 財務部長 (5) 総合企画戦略部長 (6) その他地域連携推進機構長（以下「機構長」という。）が推薦	(4) 知的財産権を出願等しうる要件を具備しているか否かの審査に関すること (5) 出願等に関すること、<u> </u>及び共同出願の場合に<u>本学</u>等が承継する知的財産権の持分の決定に関すること (6) 異議申立てに関すること (7) 補償金等に関すること (8) 学長から諮問のあった事項に関すること (9) その他発明等に関すること 2 <u>発明審査委員会に、評価、補償金に関する事項を審議するため専門委員会を置くことができる。</u> 3 <u>発明審査委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。</u> 第4条 発明審査委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。 (1) 知的財産系の教員 (2) 研究開発支援系の教員及び起業支援系の教員 (3) 各学部 <u>(但し、法文学部又は観光産業科学部から1名)</u> 及び熱帯生物圏研究センターの教員のうちから選出された者各1名 (4) 財務部長 (5) 総合企画戦略部長 (6) その他地域連携推進機構長（以下「機構長」という。）が推薦
---	---

する者若干名 2 前項第6号の委員は、学内者又は学外者から機構長の推薦に基づき学長が任命する。 3～4 (略) 第6条 <u>発明審査委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。</u> <u>2</u> 発明審査委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。 <u>3</u> 議決を要する事項については、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。 <u>(削る)</u> <u>第7条 発明審査委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。</u> <u>第8条 発明審査委員会に、評価及び補償金に関する事項を審議するため、専門部会を置くことができる。</u> <u>2 専門部会に関し必要な事項は、機構長が別に定める。</u> <u>第9条 委員長は、発明審査委員会の審議結果について、学長に報告するものとする。</u>	する者若干名 2 前項第6号の委員は、学内者又は学外者から機構長の推薦に基づき学長が任命<u>等</u>する。 3～4 (略) 第6条 <u>(新規)</u> 発明審査委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。 <u>2</u> 議決を要する事項については、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。 <u>3 前項による結果は、委員長から学長へ報告する。</u> <u>(新規)</u> <u>(新規)</u> <u>(新規)</u>
--	--

第<u>10</u>条 発明審査委員会の庶務は、総合企画戦略部地域連携推進課において処理する。 第<u>11</u>条 この規程に定めるもののほか、発明審査委員会の運営に関し必要な事項は、機構長が別に定める。 第<u>12</u>条 この規程の改廃は、地域連携推進機構運営会議の議を経て機構長が行う。 <u>附 則（平成30年 月 日）</u> <u>この規程は、平成30年 月 日から施行する。</u>	第<u>7</u>条 発明審査委員会の庶務は、総合企画戦略部地域連携推進課において処理する。 第<u>8</u>条 この規程に定めるもののほか、発明審査委員会の運営に関し必要な事項は、機構長が別に定める。 第<u>9</u>条 この規程の改廃は、地域連携推進機構運営会議の議を経て機構長が行う。
---	--

平成30年度 公開講座一覧

資料1-1

【審議5】
平成30年2月22日
生涯学習推進部門会議 承認

●専門コース

新規・継続	計画書ページ番号	連番	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額 は赤字(無料は除く)	coc連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	必要経費 ※黄色いセルは 10万円以上	備考	査定額	査定概要	今年度執行額(見込み) (H29年度)	今年度申請額 (H29年度)
継続講座	1	1	医学部	遠藤 由美子(医学部保健学科 准教授)	看護職の研究力アップ講座	15	¥3,180	否	不要	臨床看護研究を実施予定ま たは実施中の看護職	初回開講日5月19日(土) 5月、6月、9月、11月、1月(土曜日)	琉球大学医学部保健学科棟 213室(2階)	¥42,380	H29年度も開講	¥30,000	H29年度執行額を参考	¥18,224	¥41,580
継続講座	2	2	人文社会学部	伊藤 義徳(人文社会学部 准 教授)	「支援者」のためのマインドフルネス認知療法	15	¥15,000	否	要	教育・医療・福祉等の現場で 人の支援に携わる方	9月11日(火)～ 12月25日(火)	教育学部105室	¥154,604	H29年度も開講	¥105,000	H29年度執行額を参考 ※雇い上げ時間を削減。	¥105,794	¥154,604
新規講座	3	3	工学部	渡嘉敷 健(工学部工学科建医 学コース 准教授)	ホールマネジメント	15	¥3,180	否	要	ホール技術者 及び一般市民	10月6日(土)、10月13日(土)	琉球大学工学部2号館2F残 響室、無響室及び小会議室	¥35,000		¥27,460	※講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
継続講座	4	4	工学部	比嘉 晃(工学部工学科電子情 報通信コース 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(筆記・上期)	20	¥3,700 (大学生は¥1,850)	否	不要	市民一般並びに 工学系大学生	4月28日(土)～ 6月2日(土)	琉球大学工学部4号館111室	¥10,000	H29年度も開講	¥10,000	減額なし	¥53,268	¥10,000
継続講座	5	5	工学部	比嘉 晃(工学部工学科電子情 報通信コース 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(筆記・下期)	20	¥3,700 (大学生は¥1,850)	否	不要	市民一般並びに 工学系大学生	9月1日(土)～ 9月29日(土)	琉球大学工学部4号館111室	¥10,000	H29年度も開講	¥10,000	減額なし		¥10,000
継続講座	6	6	工学部	比嘉 晃(工学部工学科電子情 報通信コース 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(技能・上期)	20	¥4,730 (大学生は¥2,300)	否	不要	市民一般並びに 工学系大学生	6月9日(土)～ 7月21日(土)	琉球大学工学部2号館228室 (電気基礎実験室)	¥45,000	H29年度も開講	¥20,000	H29年度執行額を参考		¥80,600
継続講座	7	7	工学部	比嘉 晃(工学部工学科電子情 報通信コース 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(技能・下期)	20	¥4,730 (大学生は¥2,300)	否	不要	市民一般並びに 工学系大学生	10月13日(土)～ 12月1日(土)	琉球大学工学部2号館228室 (電気基礎実験室)	¥45,000	H29年度も開講	¥20,000	H29年度執行額を参考		¥80,600
継続講座	8	8	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援 機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション・ボランティア養成講座	50	無 料	可	不要	教育・福祉・医療従事者、随 がい児(者)の家族、学生等	4月22日(土)	琉球大学大学会館3階 特別会議室	¥154,300	各サテライトキャンパスへ配信 H29年度も開講	¥154,300	減額なし	¥220,240	¥154,300
継続講座	9	9	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援 機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)Ⅰ	(有料)5人 (無料)10人	¥5,240	否	要	〈有料〉教育・福祉・医療従事 者 〈無料〉障がい者とその家族	5月7日(月)～ 7月9日(月)	琉球大学保健管理センター	¥1,500	H29年度も開講	¥0	要求金額の内容がコピー用紙のみのため、生涯学習 部門のコピー用紙を提供します。	¥0	¥1,500
継続講座	10	10	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援 機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)Ⅱ	(有料)5人 (無料)10人	¥5,240	否	要	〈有料〉教育・福祉・医療従事 者 〈無料〉障がい者とその家族	10月1日(月)～ 12月10日(月)	琉球大学保健管理センター	¥1,500	H29年度も開講	¥0	要求金額の内容がコピー用紙のみのため、生涯学習 部門のコピー用紙を提供します。		¥1,500
継続講座	11	11	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援 機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 石垣島	(有料)10人 (無料)30人	¥3,700	否	要	〈有料〉教育・福祉・医療従事 者 〈無料〉障がい者とその家族	7月21日(土)～ 7月22日(日)	NPO法人 ちゅらハウス	¥187,500と会場 使用料	H29年度も開講	¥163,500	減額なし	¥216,025	¥176,951
継続講座	12	12	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援 機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 宮古島	(有料)12人 (無料)30人	¥3,700	否	要	〈有料〉教育・福祉・医療従事 者 〈無料〉障がい者とその家族	8月26日(日)～ 8月27日(月)	沖縄県立宮古特別支援学校 (交渉中)	¥189,000と会場 使用料	H29年度も開講	¥210,000	減額なし	¥132,165	¥184,371
継続講座	13	13	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援 機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 名護	(有料)10人 (無料)20人	¥3,180	否	要	〈有料〉教育・福祉・医療従事 者 〈無料〉障がい者とその家族	10月の週末2日間を予定	沖縄県立名護青少年の家 (予定)	¥5,740	H29年度も開講	¥8,720	H29年度執行額を参考	未開講	¥5,740
継続講座	14	14	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援 機構 保健管理部門教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法) 出前講座 in 那覇特別支援学校	20	無 料	否	不要	特別支援学校教員、児童生 徒	9月14日(金)、12月15日(金)	沖縄県立泡瀬特別支援学校	¥0	H29年度も開講	¥0	減額なし	¥0	¥0
新規講座	15	15	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援 機構 保健管理部門教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法) 出前講座 in 鏡が丘特別支援学校	20	無 料	否	不要	特別支援学校教員、児童生 徒	9月21日(木)、2月7日(木)	沖縄県立鏡が丘特別支援学 校	¥0	H29年度も開講	¥0	減額なし	¥0	¥0
継続講座	16	16	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援 機構 保健管理部門教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法) 出前講座 in 泡瀬特別支援学校	20	無 料	否	不要	特別支援学校教員、児童生 徒	9月7日(金)、2月1日(金)	沖縄県立泡瀬特別支援学校	¥0	H29年度も開講	¥0	減額なし	¥0	¥0
専門コース：16講座												申請額合計	申請額合計	¥881,524	査定額合計	¥758,980	¥745,716	¥901,746

●一般コース

新規・継続	計画書ページ番号	連番	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額 は赤字(無料は除く)	coc連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	必要経費 ※黄色いセルは 10万円以上	備考	査定額	査定概要	今年度執行額(見込み) (H29年度)	今年度申請額 (H29年度)
新規講座	17	1	医学部	大湾 知子(医学部保健学科成 人・がん看護学 准教授)	食と排泄の知って得する健康まちづくり！ 宜野湾市長田区公民館から発信！	70	無 料	可	不要	市民一般	6月17日(日)	宜野湾市長田区公民館	¥4,000	共催：宜野湾市長田区自治会	¥4,000	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	18	2	医学部	照屋 典子(医学部保健学科成 人・がん看護学 助教)	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際	50	無 料	否	不要	市民一般	9月8日(土)	社会医療法人敬愛会 中頭 病院ホール	¥75,575	共催：社会医療法人敬愛会 中頭病院	¥75,575	減額なし	¥67,623	¥78,575
継続講座	19	3	医学部	尾尻 義彦(医学部保健学科 助教)	市民ランナーのためのランニング科学講座	各会場の 定員による	無 料	可	不要	市民一般	11月10日(土)、11月11日(日)	琉球大学地域国際学習セン ター301講義室並びに各サテ ライト(那覇、宮古、石垣、久 米島、国頭、大宜見 予定)	¥118,240	琉球大学地域国際学習センター301講義 室から各サテライトへ配信	¥109,120	※講師派遣旅費 ¥100,000 ※学生アルバイト4名を2名に削減	¥29,224	¥34,380
新規講座	20	4	医学部	尾尻 義彦(医学部保健学科 助教)	めざせ！ NAHAマラソン快走へ	各会場の 定員による	無 料	可	不要	市民一般	7月27(金)、8月10日(金)、9月7日 (金)、 10月5日(金)、11月2日(金)、12月7日 (金)	琉球大学地域国際学習セン ター301講義室並びに各サテ ライト(那覇、宮古、石垣、久 米島、国頭、大宜見 予定)	¥0	琉球大学地域国際学習センター301講義 室から各サテライトへ配信	¥0	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	21	5	人文社会学部	星野 英一(人文社会学部 教 授)	国際人権と沖縄：市民による国連システムと国際人権法の利用	30	¥3,180	可	不要	一般市民	9月29日(水)、9月30日(木)	法文学部(未定)	¥94,160		¥73,000	※雇い上げ時間を削減。講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
継続講座	22	6	国際地域創造学部	大島 順子(国際地域創造学 部国際地域創造学科 准教授)	やんばる山学校	20	¥3,180	否	要	市民一般	11月23日(金)～11月24日(日)	琉球大学「与那フィールド」、 国頭村森林公園及び国頭村 内の森林	¥9,120 (旅費・謝金除く)	H29年度も開講	¥34,000	H29年度執行額を参考	¥33,920	¥18,240 (旅費・謝金除く)
継続講座	23	7	国際地域創造学部	大島 順子(国際地域創造学 部国際地域創造学科 准教授)	やんばるで学ぶ世界自然遺産学習	20	¥3,180	否	要	市民一般(高校生以上対 象)、教育関係者	9月30日(土)	琉球大学「与那フィールド」、 国頭村内やんばるの森	¥9,120 (旅費・謝金除く)		¥24,120	※謝金・旅費を¥15,000にて算出	¥0	¥4,560
新規講座	24	8	国際地域創造学部	※世話人 平野 典男(国際地域創造学 部国際地域創造学科 教授)	シニアのためのストリートワークアウトで健康づくり	20	無 料	可	不要	50歳以上の市民一般	6月9日(日)、6月10日(日)、 6月17日(日)	琉球大学 大学会館3F特別会議室	¥44,865	※外部講師による講座	¥22,500	※講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
新規講座	25	9	国際地域創造学部	※世話人 平野 典男(国際地域創造学 部国際地域創造学科 教授)	バルーンアート基礎講座	20	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	不要	市民一般 (小学生以下は保護者同伴)	6月3日(日)、6月10日(日)、 6月17日(日)	琉球大学 文系総合研究棟2F会議室B	¥23,535	※外部講師による講座	¥11,800	※講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
継続講座	26	10	教育学部	松本 由香(教育学部家政教 育 教授)	オリジナル模様ワンピースづくりにトライ！	6	¥3,180	否	要	一般・学生	8月4日(土)、8月5日(日)	琉球大学教育学部棟333教 室	¥52,100	H29年度も開講	¥52,100	減額なし	¥38,474	¥38,800
継続講座	27	11	教育学部	清水 洋一(教育学部技術教 育 教授)	おもちゃ作りを通して学ぶ地球温暖化防止親子講座	10組 (20人)	無 料	可	要	小学校4～6年生 と保護者	7月22日(日)	琉球大学教育学部102教室	¥24,320	H29年度も開講	¥24,320	減額なし	¥9,571	¥24,320
継続講座	28	12	教育学部	笹澤 吉明(教育学部 准教 授)	琉大生がサッカーと勉強を教えます！	100	2000円 (兄弟で複数の場合2人目から1000 円)	可	不要	小学生	5月～3月	琉球大学サッカー場及び講 義室(夏季は西原きらきら ビーチの時もある)	¥720,830	H29年度も開講	¥300,000	H29年度執行額を参考 開催回数を30回に抑え、支出経費は謝金のみにする	¥295,800	¥838,430
新規講座	29	13	教育学部	岡本 牧子(教育学部技術教 育専修 准教授)	新聞記者体験 ～エネルギーってなんだろう？～	20	無 料	可	要	小学4～6年生とその保護者	7月21日(土)	琉球大学本館101教室	¥23,240		¥23,240	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	30	14	教育学部	岡田 恵美(教育学部音楽教 育講座 准教授)	「ものづくりと音楽体験」 手作り打楽器「カホン」と生活廃材楽器によるパーカッション・アンサンブル 体験！	10	無 料	否	要	主に小学校高学年・中学生 (保護者の参加可)	8月4日(土)	琉球大学教育学部 技術棟(午前中)・音楽棟(午 後)	¥29,320		¥29,320	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	31	15	教育学部	下地 敏洋(大学院教育学研究 科 教授)	老年学への招待ー主観的幸福感をいかに高めるかー	25	無 料	可	不要	一般市民	6月30日(土)、7月7日(土)、 7月21日(土)	琉球大学教育学部棟101号 室(予定)	¥4,544	琉球大学教育学部棟101号室から各サ テライトへ配信(予定)	¥4,544	減額なし	¥0	¥0
新規講座	32	16	教育学部	三輪 一義(教育学部生涯健康 教育コース 教授)	児童・生徒・指導者のためのハンドボール教室	200	無 料	可	不要	ハンドボール愛好者	4月8日(土)～3月11日(日)	琉球大学第一体育館	¥33,200	H29年度も開講	¥33,200	減額なし	¥0	¥29,160
新規講座	33	17	教育学部	三枝崎 剛(琉球大学教育学部 准教授)	結び目の数学ーひもはほどけるかー	20	無 料	可	不要	一般市民	未定 (7月末から8月上旬以外)	教育学部本館1階106室	¥29,120		¥24,560	※学生アルバイト2名を1名に削減	今年度開講なし	—
継続講座	34	18	理学部	前野 昌弘(理学部物質地球科 学物理系准教授)	～物理の魅力を教えます2018～	50	無 料	否	不要	中高校生・一般	8月5日(日)	琉球大学理系複合棟	¥195,000	H29年度も開講	¥110,000	H29年度執行額を参考	¥110,787	¥204,600
継続講座	35	19	理学部	前野 昌弘(理学部物質地球科 学物理系准教授)	琉大生による理科実験教室	100	無 料	否	不要	小中高校生・一般	12月23日(日)	琉球大学理系複合棟	¥46,000	H29年度も開講	¥23,000	H29年度執行額を参考	¥22,352	¥45,000
継続講座	36	20	理学部	漢那 洋子(理学部海洋自然科 学化学系 准教授)	理系女子・理系男子の世界ー進路選択とキャリア形成ー	20	無 料	否	要	一般(高校・大学生、指導 者・保護者も可)	検討中	琉球大学理系複合棟 207講義室(仮)	¥5,000	H29年度も開講	¥5,000	減額なし	¥0	¥9,560

新規・継続	計画書ページ番号	連番	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額 は赤字(無料は除く)	coc連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	必要経費 ※黄色いセルは 10万円以上	備考	査定額	査定概要	今年度執行額(見込み) (H29年度)	今年度申請額 (H29年度)
継続講座	37	21	理学部	中川 鉄水(理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)	水素のチカラ ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～	30	無 料	可	不要	市民一般・学生	5月～12月 (具体的な日時は未定)	琉球大学内・サテライトキャンパス(那覇、石垣、宮古、久米島、大宜味、国頭)で3～5回開催予定	¥154,800	出前講座 各サテライトキャンパスにて実施予定	¥154,800	減額なし	¥97,962	¥500,000
継続講座	38	22	理学部	中川 鉄水(理学部海洋自然科学科 化学系助教)	身近な化学 Part①	30	無 料	可	不要	高校生以下	5月 (具体的な日時は未定)	地域国際学習センター301講義室(仮)	¥48,000	サテライト配信	¥40,000	H29年度執行額を参考	¥39,757	¥52,800
継続講座	39	23	理学部	中川 鉄水(理学部海洋自然科学科 化学系助教)	身近な化学 Part②	30	無 料	可	不要	高校生以下	10月 (具体的な日時は未定)	地域国際学習センター301講義室(仮)	¥48,000	サテライト配信	¥48,000	減額なし	¥51,193	¥52,800
新規講座	40	24	理学部	須田 彰一郎(理学部海洋自然科学科 生物系 教授)	身近な海を楽しむ～サンゴ礁の生物塾	12	¥2,670	可	要	一般または 小学生以上(保護者同伴)	8月25日(土)	理学部 528教室 と 野外(大渡海岸もしくは裏真栄田海岸を予定)	¥0	H28年度に開講実績あり	¥0	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	41	25	農学部	森山 克子(農学部健康栄養科学コース 准教授)	自分らしく輝くビューティ講座	5	¥3,180	否	不要	ビューティをめざす包丁をもてない女子	5月17日(木)、31日(木)、6月14日(木) 6月28日(木)、7月12日(木)	琉球大学教育学部本館306教室 他	¥70,480	H29年度も開講	¥33,240	H29年度執行額を参考 ※雇い上げ時間を削減。講師謝金は半額での支給	¥26,477	¥70,480
継続講座	42	26	農学部	森山 克子(農学部健康栄養科学コース 准教授)	3歳児のための子どもシェフクラブ	6	¥3,180	否	不要	3歳児とその保護者	5月10日(木)、6月10日(日)、7月6日(日)、8月11日(土)	琉球大学教育学部本館306教室	¥62,240	H29年度も開講	¥34,880	H29年度執行額を参考 ※雇い上げ時間を削減。	¥11,804	¥62,240
継続講座	43	27	農学部	森山 克子(農学部健康栄養科学コース 准教授)	3歳児からの子どもシェフクラブ(中学生・第2期生)ラクラク簡単栄養満点! 部活動生徒のお弁当づくり!	8	¥2,670	否	不要	中学生	8月12日(日)	琉球大学教育学部本館306教室	¥38,240	H29年度も開講	¥20,000	H29年度執行額を参考	¥19,286	¥38,240
継続講座	44	28	農学部	森山 克子(農学部健康栄養科学コース 准教授)	巣立ちのための子どもシェフクラブ(中高校生)	6	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	否	不要	児童施設のこども達	平成31年2月中旬～3月(3回)	琉球大学教育学部本館306教室	¥51,480	H29年度も開講	¥30,000	※雇い上げ時間を削減。講師謝金は半額での支給	未開講	¥51,480
継続講座	45	29	農学部	※世話人 外山 博英(農学部 教授)	発酵学	70	無 料	可	不要	市民一般 琉球大学学生	9月12日(水) ～ 9月21日(金)	農学部本館207教室	¥100,000	H29年度も開講 ※外部講師による講座	¥200,000	H29年度執行額を参考	¥209,440	¥100,000
継続講座	46	30	農学部	宮城 一英(農学部健康栄養科学分野 准教授)	沖縄県産農産物の調理と加工 ～県産品のミラクルパワー～	30	無 料	可	要	市民一般 琉球大学学生	9月4日(火)	琉球大学教育学部324教室	¥2,520	H29年度も開講	¥2,520	減額なし	¥1,040	¥10,040
継続講座	47	31	農学部	森山 克子(農学部健康栄養科学コース 准教授)	働き盛りのための栄養講座・クッキング part1～part3 ～仕事の活力を増進させるニュートレ～	8～10	¥2,670	否	要	30歳以上の男女	11月3日(土)、11月10日(土)	琉球大学教育学部本館309教室、306教室(給食実習室)	¥12,600	H29年度は受講者なしのため中止	¥12,600	減額なし	¥29,655	¥11,400
新規講座	48	32	工学部	渡嘉敷 健(工学部工学科建築学コース 准教授)	音の体験教室	50人程度	無 料	否	不要	市民一般	8月18日(土)	琉球大学工学部2号館2F残響室・無響室及び小会議室	¥35,000		¥30,575	※講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
新規講座	49	33	工学部	比嘉 広樹(工学部工学科電気システム工学コース 教授)	ロボットをつくらう	10	無 料	否	要	中学生	8月5日(日)	工学部3号館305コンピュータ実習室	¥104,400		¥104,400	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	50	34	工学部	金城 光永(工学部工学科 電子情報通信コース 准教授)	電子工作教室(ミニ四駆とLEDを題材に)	12	無 料	可	要	小学5・6年生	7月29日(日)	琉球大学工学部2号館2階226教室(電気基礎実験室)	¥93,480	H29年度も開講	¥93,480	減額なし	¥85,196	¥93,480
新規講座	51	35	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 ― ホバークラフト	10	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学1～3年生	7月28日(土)	琉球大学工学部2号館2階226教室(電気基礎実験室)	¥10,000		¥10,000	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	52	36	工学部	屋比久 祐盛(工学部技術部技術専門職員)	夏休み工作教室 ― 折り紙建築	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	否	要	小学5、6年生	7月28日(土)	工学部 2号館 技術部室	¥2,160	H29年度も開講	¥2,160	減額なし	¥1,485	¥2,160
継続講座	53	37	工学部	野原 幸則(工学部技術部 技術専門職員)	夏休み工作教室 ― 固形燃料で走る船	14	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	否	要	小学5、6年生	7月28日(土)	工学部1号館11-122室(学生学習室)	¥18,000	H29年度も開講	¥18,000	減額なし	¥12,822	¥13,000
継続講座	54	38	工学部	山下 大輔(工学部技術部 技術職員)	夏休み工作教室 ― 電子回路の製作	14	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	否	要	小学5、6年生	7月28日(土)	琉球大学工学部2号館2階226教室(電気基礎実験室)	¥10,000	H29年度も開講	¥10,000	減額なし	¥8,420	¥10,000
新規講座	55	39	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 ― 電気工事を体験しよう	10	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学4～6年生	7月28日(土)	琉球大学工学部2号館2階118教室(電力実験室)	¥10,000		¥10,000	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	56	40	工学部	鈴木 竜盛(工学部技術部 技術職員)	夏休み工作教室 ― デスクトップPC組み立て・LANケーブル作製体験	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	中学生	7月28日(土)	琉球大学工学部2号館217-2号室(ものラボ)	¥42,500		¥42,500	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	57	41	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 ― ミラクル万華鏡	10	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学1～3年生	8月4日(土)	琉球大学工学部2号館2階226教室(電気基礎実験室)	¥5,000	H29年度も開講	¥5,000	減額なし	¥3,764	¥5,000
継続講座	58	42	工学部	大城 成栄(工学部技術部 技術専門職員)	夏休み工作教室 ― 合金を溶かして風鈴づくり	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	否	要	小学5、6年生	8月4日(土)	琉球大学工学部 附属工作工场内	¥20,000	H29年度も開講	¥20,000	減額なし	¥13,194	¥20,000
継続講座	59	43	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 ― まわりつづけるコマ	10	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学4～6年生	8月4日(土)	琉球大学工学部2号館2階226教室(電気基礎実験室)	¥10,000	H29年度も開講	¥10,000	減額なし	¥25,369	¥20,000
継続講座	60	44	工学部	渡慶次 高也(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 ― 紙コップで作るポータブルスピーカー	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	中学生	8月4日(土)	琉球大学工学部2号館217-2号室(ものラボ)	¥15,000	H29年度も開講	¥15,000	減額なし	¥15,687	¥15,000
継続講座	61	45	工学部	長田 克之(工学部技術部 技術専門職員)	真空管アンプの製作	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	否	要	市民一般	9月1日(土)、8日(土)、15日(土)、22日(土)	琉球大学工学部2号館226室(実験室)	¥15,000	H29年度も開講	¥15,000	減額なし	¥27,405	¥35,000
新規講座	62	46	工学部	渡慶次 高也(工学部技術部技術職員)	クリスマスイルミネーション工作教室 ― メロディ付クリスマスツリー	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学生高学年	12月8日(土)	琉球大学工学部2号館217-2号室(ものラボ)	¥10,000		¥10,000	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	63	47	工学部	姜 東植(工学部 准教授)	シニアのための健康サッカー講座	30	無 料	否	不要	40歳以上の サッカー愛好者	8月10日～4月5日	琉球大学サッカー場	¥0	H29年度も開講	¥0	減額なし	¥0	¥0
一般コース:47講座												申請額合計	申請額合計	¥2,367,629	査定額合計	¥1,951,554	¥1,287,707	¥2,470,505

講座数	63
必要経費総額	¥3,249,153
査定額合計	¥2,710,534
今年度執行額 (今年度開講した 継続公開講座の 執行合計額)	¥2,033,423
今年度申請額 (今年度の継続公 開講座の申請合 計額)	¥3,372,251

【参考】過去3年間の公開講座実施状況			
	件数	受講者数(人)	収入額
平成29年度	70	集計中	集計中
平成28年度	109	3,489	¥1,007,270
平成27年度	55	3,623	¥1,155,150

●専門コース																	
新規・継続	連番	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額 は赤字(無料は除く)	coc連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	必要経費 ※黄色いセルは 10万円以上	備考	査定額	査定概要	今年度執行額(見込み) (H29年度)	今年度申請額 (H29年度)
新規講座	1	工学部	渡嘉敷 健(工学部工学科建築学コース 准教授)	ホールマネージメント	15	¥3,180	否	要	ホール技術者 及び一般市民	10月6日(土)、10月13日(土)	琉球大学工学部2号館2F残 習室・無習室及び小会議室	¥35,000		¥27,460	※講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
											申請額合計	¥35,000	査定額合計	¥27,460		¥0	¥0

●一般コース																	
新規・継続	連番	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額 は赤字(無料は除く)	coc連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	必要経費 ※黄色いセルは 10万円以上	備考	査定額	査定概要	今年度執行額(見込み) (H29年度)	今年度申請額 (H29年度)
新規講座	1	医学部	大滝 知子(医学部保健学科成人・がん看護学 准教授)	食と排泄の知って得する健康まちづくり！ 宜野湾市長田区公民館から発信！	70	無 料	可	不要	市民一般	6月17日(日)	宜野湾市長田区公民館	¥4,000	共催・宜野湾市長田区自治会	¥4,000	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	2	医学部	尾尻 義彦(医学部保健学科助教)	めざせ！ NAHAMラソン完走へ	各会場の 定員による	無 料	可	不要	市民一般	7月27(金)、8月10日(金)、9月7日(金)、 10月5日(金)、11月2日(金)、12月7日(金)	琉球大学地域国際学習セン ター301講義室並びに各サテ ライト(那覇、宮古、石垣、久 米島、国頭、大宜見 予定)	¥0	琉球大学地域国際学習センター301講 義室から各サテライトへ配信	¥0	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	3	人文社会学部	星野 英一(人文社会学部 教授)	国際人権と沖縄：市民による国連システムと国際人権法の利用	30	¥3,180	可	不要	一般市民	9月29日(水)、9月30日(木)	法文学部(未定)	¥94,160		¥73,000	※雇い上げ時間を削減。講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
新規講座	4	国際地域創造学部	※世話人 平野 典男 (国際地域創造学部国際地域創造学科 教授)	シニアのためのストリートワークアウトで健康づくり	20	無 料	可	不要	50歳以上の市民一般	6月3日(日)、6月10日(日)、 6月17日(日)	琉球大学 大会会館3F特別会議室	¥44,865	※外部講師による講座	¥22,500	※講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
新規講座	5	国際地域創造学部	※世話人 平野 典男 (国際地域創造学部国際地域創造学科 教授)	ハルーンアート基礎講座	20	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	不要	市民一般 (小学生以下は保護者同 伴)	6月3日(日)、6月10日(日)、 6月17日(日)	琉球大学 文系総合研究棟2F会議室B	¥23,535	※外部講師による講座	¥11,800	※講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
新規講座	6	教育学部	岡本 友子(教育学部技術教育専修 准教授)	新聞記者体験 -エネルギーってなんだろう？-	20	無 料	可	要	小学4～6年生とその保護 者	7月21日(土)	琉球大学本館101教室	¥23,240		¥23,240	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	7	教育学部	岡田 恵美(教育学部音楽教育講座 准教授)	〈ものづくりと音楽体験〉 手作り打楽器「カホン」と生活廃材楽器によるパーカッション・アンサンブル体験！	10	無 料	否	要	主に小学校高学年・中学生 (保護者の参加可)	8月4日(土)	琉球大学教育学部 技術棟(午前中)・音楽棟(午 後)	¥29,320		¥29,320	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	8	教育学部	三枝崎 剛(琉球大学教育学部 准教授)	結び目の数学—ひもはほどけるか—	20	無 料	可	不要	一般市民	(未定) 7月末から8月上旬以外	教育学部本館1階106室	¥29,120		¥24,560	※学生アルバイト2名を1名に削減	今年度開講なし	—
新規講座	9	理学部	須田 彰一郎(理学部海洋自然科学学科 生物系 教授)	身近な海を楽しむもう～サンゴ礁の生物塾	12	¥2,670	可	要	一般または 小学生以上(保護者同伴)	8月25日(土)	理学部 528教室 と 野外(大連海岸もしくは裏 真栄田海岸を予定)	¥0	H28年度に開講実績あり	¥0	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	10	工学部	渡嘉敷 健(工学部工学科建築学コース 准教授)	音の体験教室	50人程度	無 料	否	不要	市民一般	8月18日(土)	琉球大学工学部2号館2F残 習室・無習室及び小会議室	¥35,000		¥30,575	※講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
新規講座	11	工学部	比嘉 広樹(工学部工学科電気システム工学コース 教授)	ロボットをつくらう	10	無 料	否	要	中学生	8月5日(日)	工学部3号館305コンピュータ 実習室	¥104,400		¥104,400	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	12	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 ― ホバークラフト	10	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学1～3年生	7月28日(土)	琉球大学工学部2号館2階 226教室(電気基礎実験室)	¥10,000		¥10,000	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	13	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 ― 電気工事を体験しよう	10	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学4～6年生	7月28日(土)	琉球大学工学部2号館2階 118教室(電力実験室)	¥10,000		¥10,000	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	14	工学部	翁長 竜盛(工学部技術部 技術職員)	夏休み工作教室 ― デスクトップPC組み立て・LANケーブル作製体験	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	中学生	7月28日(土)	琉球大学工学部2号館217-2 号室(ものラボ)	¥42,500		¥42,500	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	15	工学部	渡慶次 高也(工学部技術部技術職員)	クリスマスイルミネーション工作教室 ― メロディ付クリスマスツリー	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学生高学年	12月8日(土)	琉球大学工学部2号館217-2 号室(ものラボ)	¥10,000		¥10,000	減額なし	今年度開講なし	—
											申請額合計	¥460,140	査定額合計	¥395,895		¥0	¥0

講座数	16
必要経費総額	¥495,140
査定額合計	¥423,355

平成30年度 サテライトへの配信・出前講座一覧

資料1-3

●専門コース

新規・継続	連番	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額 は赤字(無料は除く)	coc連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	必要経費 ※黄色いセルは 10万円以上	備考	査定額	査定概要	今年度執行額(見込み) (H29年度)	今年度申請額 (H29年度)
新規講座	1	人文社会学部	星野 英一(人文社会学部 教授)	国際人権と沖縄:市民による国連システムと国際人権法の利用	30	¥3,180	可	不要	一般市民	9月29日(水)、9月30日(木)	法文学部(未定)	¥94,160		¥73,000	※雇い上げ時間を削減。講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
継続講座	2	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション・ボランティア養成講座	50	¥0	可	不要	教育・福祉・医療従事者、障がい児(者)の家族、学生等	4月22日(土)	琉球大学大学会館3階 特別会議室	¥154,300	各サテライトキャンパスへ配信 H29年度も開講	¥154,300	減額なし	¥220,240	¥154,300
申請額合計												¥248,460	査定額合計	¥227,300		¥220,240	¥154,300

●一般コース

新規・継続	連番	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額 は赤字(無料は除く)	coc連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	必要経費 ※黄色いセルは 10万円以上	備考	査定額	査定概要	今年度執行額(見込み) (H29年度)	今年度申請額 (H29年度)
新規講座	1	医学部	大滝 知子(医学部保健学科成人・がん看護学 准教授)	食と稼港の知って得する健康まちづくり！ 宜野湾市長田区公民館から発信！	70	無 料	可	不要	市民一般	6月17日(日)	宜野湾市長田区公民館	¥4,000	共催:宜野湾市長田区自治会	¥4,000	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	2	医学部	尾尻 義彦(医学部保健学科助教)	市民ランナーのためのランニング科学講座	各会場の 定員による	無 料	可	不要	市民一般	11月10日(土)、11月11日(日)	琉球大学地域国際学習センター301講義室並びに各サテライト(那覇、宮古、石垣、久米島、国頭、大宜見 予定)	¥118,240	琉球大学地域国際学習センター301講義室から各サテライトへ配信	¥109,120	※講師派遣旅費 ¥100,000 ※学生アルバイト4名を2名に削減	¥29,224	¥34,380
新規講座	3	医学部	尾尻 義彦(医学部保健学科助教)	めざせ！ NAHAマラソン完走へ	各会場の 定員による	無 料	可	不要	市民一般	7月27(金)、8月10日(金)、9月7日(金)、 10月5日(金)、11月2日(金)、12月7日(金)	琉球大学地域国際学習センター301講義室並びに各サテライト(那覇、宮古、石垣、久米島、国頭、大宜見 予定)	¥0	琉球大学地域国際学習センター301講義室から各サテライトへ配信	¥0	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	4	国際地域創造学部	※世話人 平野 典男 (国際地域創造学部国際地域創造学科 教授)	シニアのためのストリートワークアウトで健康づくり	20	無 料	可	不要	50歳以上の市民一般	6月3日(日)、6月10日(日)、 6月17日(日)	琉球大学 大学会館3F特別会議室	¥44,865	※外部講師による講座	¥22,500	※講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
新規講座	5	国際地域創造学部	※世話人 平野 典男 (国際地域創造学部国際地域創造学科 教授)	バレーアート基礎講座	20	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	不要	市民一般 (小学生以下は保護者同伴)	6月3日(日)、6月10日(日)、 6月17日(日)	琉球大学 文系総合研究棟2F会議室B	¥23,535	※外部講師による講座	¥11,800	※講師謝金は半額での支給	今年度開講なし	—
継続講座	6	教育学部	清水 洋一(教育学部技術教育教室 教授)	おもちゃ作りを通して学ぶ地球温暖化防止親子講座	10組 (20人)	無 料	可	要	小学校4～6年生 と保護者	7月22日(日)	琉球大学教育学部102教室	¥24,320	H29年度も開講	¥24,320	減額なし	¥9,571	¥24,320
継続講座	7	教育学部	笹澤 吉明(教育学部 准教授)	琉大生がサッカーと勉強を教えます！	100	2000円 (兄弟で複数の場合2人目から1000円)	可	不要	小学生	5月～3月	琉球大学サッカー場及び講義室(夏手は西原きらきらビーチの時もある)	¥720,830	H29年度も開講	¥300,000	H29年度執行額を参考 開催回数を30回に抑え、支出経費は謝金のみにする	¥295,800	¥838,430
新規講座	8	教育学部	岡本 牧子(教育学部技術教育専修 准教授)	新聞記者体験 -エールギーってなんだろう？-	20	無 料	可	要	小学4～6年生とその保護者	7月21日(土)	琉球大学本館101教室	¥23,240		¥23,240	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	9	教育学部	下地 敬洋(大学院教育学研究科 教授)	老年学への招待ー主観的幸福感をいかに高めるかー	25	無 料	可	不要	一般市民	6月30日(土)、7月7日(土)、 7月21日(土)	琉球大学教育学部棟101号 (予定)	¥4,544	琉球大学教育学部棟101号室から各サテライトへ配信(予定)	¥4,544	減額なし	¥0	¥0
新規講座	10	教育学部	三枝崎 剛(琉球大学教育学部 准教授)	結び目の数学ーひもはほどけるかー	20	無 料	可	不要	一般市民	(未定) 7月末から8月上旬以外	教育学部本館1階106室	¥29,120		¥24,560	※学生アルバイト2名を1名に削減	今年度開講なし	—
継続講座	11	理学部	中川 鉄水(理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)	水素のチカラ ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～	30	無 料	可	不要	市民一般・学生	5月～12月 (具体的な日時は未定)	琉球大学内・サテライトキャンパス(那覇、石垣、宮古、久米島、大宜見、国頭)で3～5回 開催予定	¥154,800	出前講座 各サテライトキャンパスにて実施予定	¥154,800	減額なし	¥97,962	¥500,000
継続講座	12	理学部	中川 鉄水(理学部海洋自然科学科化学系助教)	身近な化学 Part①	30	無 料	可	不要	高校生以下	5月 (具体的な日時は未定)	地域国際学習センター 301講義室(仮)	¥48,000	サテライト配信	¥40,000	H29年度執行額を参考	¥39,757	¥52,800
継続講座	13	理学部	中川 鉄水(理学部海洋自然科学科化学系助教)	身近な化学 Part②	30	無 料	可	不要	高校生以下	10月 (具体的な日時は未定)	地域国際学習センター 301講義室(仮)	¥48,000	サテライト配信	¥48,000	減額なし	¥51,193	¥52,800
新規講座	14	理学部	須田 彰一郎(理学部海洋自然科学科 生物系 教授)	身近な海を楽しもう～サンゴ礁の生物塾	12	¥2,670	可	要	一般または 小学生以上(保護者同伴)	8月25日(土)	理学部 528教室 と 野外(大渡海岸もしくは妻真 茶田海岸を予定)	¥0	H28年度に開講実績あり	¥0	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	15	農学部	※世話人 外山 博英(農学部 教授)	発酵学	70	無 料	可	不要	市民一般 琉球大学学生	9月12日(水) ～ 9月21日(金)	農学部本館207教室	¥100,000	H29年度も開講 ※外部講師による講座	¥200,000	H29年度執行額を参考	¥209,440	¥100,000
継続講座	16	農学部	宮城 一弘(農学部健康栄養科学分野 准教授)	沖縄県産農産物の調理と加工 ～県産品のミラクルパワー～	30	無 料	可	要	市民一般 琉球大学学生	9月4日(火)	琉球大学教育学部324教室	¥2,520	H29年度も開講	¥2,520	減額なし	¥1,040	¥10,040
継続講座	17	工学部	金城 光永(工学部工学科 電子情報通信コース 准教授)	電子工作教室(ミニ四駆とLEDを題材に)	12	無 料	可	要	小学5・6年生	7月29日(日)	琉球大学工学部2号館2階 226教室(電気基礎実験室)	¥93,480	H29年度も開講	¥93,480	減額なし	¥85,196	¥93,480
新規講座	18	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 - ホバークラフト	10	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学1～3年生	7月28日(土)	琉球大学工学部2号館2階 226教室(電気基礎実験室)	¥10,000		¥10,000	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	19	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 - 電気工事を体験しよう	10	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学4 - 6年生	7月28日(土)	琉球大学工学部2号館2階 118教室(電力実験室)	¥10,000		¥10,000	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	20	工学部	翁長 竜雄(工学部技術部 技術職員)	夏休み工作教室 - デスクトップPC組み立て・LANケーブル作製体験	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	中学生	7月28日(土)	琉球大学工学部2号館217-2 号室(ものラボ)	¥42,500		¥42,500	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	21	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 - ミラクル万華鏡	10	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学1 - 3年生	8月4日(土)	琉球大学工学部2号館2階 226教室(電気基礎実験室)	¥5,000	H29年度も開講	¥5,000	減額なし	¥3,764	¥5,000
継続講座	22	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 - まわりつづけるコマ	10	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学4 - 6年生	8月4日(土)	琉球大学工学部2号館2階 226教室(電気基礎実験室)	¥10,000	H29年度も開講	¥10,000	減額なし	¥25,369	¥20,000
継続講座	23	工学部	濃慶次 高也(工学部技術部技術職員)	夏休み工作教室 - 紙コップで作るポータブルスピーカー	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	中学生	8月4日(土)	琉球大学工学部2号館217-2 号室(ものラボ)	¥15,000	H29年度も開講	¥15,000	減額なし	¥15,687	¥15,000
新規講座	24	工学部	濃慶次 高也(工学部技術部技術職員)	クリスマスイルミネーション工作教室 - メロディ付クリスマスツリー	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	可	要	小学生高学年	12月8日(土)	琉球大学工学部2号館217-2 号室(ものラボ)	¥10,000		¥10,000	減額なし	今年度開講なし	—
申請額合計												¥1,541,994	査定額合計	¥1,165,384		¥864,003	¥1,746,250

講座数	26
必要経費総額	¥1,790,454
査定額合計	¥1,392,684
今年度執行額 (今年度開講した 継続公開講座の 執行合計額)	¥1,084,243
今年度申請額 (今年度の継続公 開講座の申請合 計額)	¥1,900,550

平成30年度 公開講座(出前講座)一覧

資料1-4

●専門コース																	
新規・継続	連番	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額 は赤字(無料は除く)	coc連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	必要経費 ※黄色いセルは 10万円以上	備考	査定額	査定概要	今年度執行額(見込み) (H29年度)	今年度申請額 (H29年度)
継続講座	1	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 石垣島	(有料)10人 (無料)30人	¥3,700	否	要	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	7月21日(土)～ 7月22日(日)	NPO法人 ちゅらハウス	¥187,500と会場 使用料	八重山にて実施 H29年度も開講	¥163,500	減額なし	¥216,025	¥176,951
継続講座	2	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 宮古島	(有料)12人 (無料)30人	¥3,700	否	要	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	8月26日(日)～ 8月27日(月)	沖縄県立宮古特別支援学校 (交渉中)	¥189,000と会場 使用料	宮古にて実施 H29年度も開講	¥210,000	減額なし	¥132,165	¥184,371
継続講座	3	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 名護	(有料)10人 (無料)20人	¥3,180	否	要	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	10月の週末2日間を予定	沖縄県立名護青少年の家 (予定)	¥5,740	H29年度も開講	¥8,720	H29年度執行額を参考	未開講	¥5,740
継続講座	4	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法) 出前講座 in 那覇特別支援学校	20	無 料	否	不要	特別支援学校教員、児童生徒	9月14日(金)、2月15日(金)	沖縄県立那覇特別支援学校	¥0	H29年度も開講	¥0	減額なし	¥0	¥0
新規講座	5	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法) 出前講座 in 鏡が丘特別支援学校	20	無 料	否	不要	特別支援学校教員、児童生徒	9月21日(木)、2月7日(木)	沖縄県立鏡が丘特別支援学校	¥0	H29年度も開講	¥0	減額なし	¥0	¥0
継続講座	6	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法) 出前講座 in 泡瀬特別支援学校	20	無 料	否	不要	特別支援学校教員、児童生徒	9月7日(金)、2月1日(金)	沖縄県立泡瀬特別支援学校	¥0	H29年度も開講	¥0	減額なし	¥0	¥0
											申請額合計	¥382,240	査定額合計	¥382,220		¥348,190	¥367,062

●一般コース																	
新規・継続	連番	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額 は赤字(無料は除く)	coc連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	必要経費 ※黄色いセルは 10万円以上	備考	査定額	査定概要	今年度執行額(見込み) (H29年度)	今年度申請額 (H29年度)
新規講座	1	医学部	大灣 知子(医学部保健学科成人・がん看護学 准教授)	食と排泄の知って得する健康まちづくり！ 宜野湾市長田区公民館から発信！	70	無 料	可	不要	市民一般	6月17日(日)	宜野湾市長田区公民館	¥4,000	共催:宜野湾市長田区自治会	¥4,000	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	2	医学部	照屋 典子(医学部保健学科成人・がん看護学 助教)	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際	50	無 料	否	不要	市民一般	9月8日(土)	社会医療法人敬愛会 中頭病院ホール	¥75,575	共催:社会医療法人敬愛会 中頭病院	¥75,575	減額なし	¥67,623	¥78,575
継続講座	3	国際地域創造学部	大島 順子 (国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授)	やんばる山学校	20	¥3,180	否	要	市民一般	11月23日(金)～11月24日(日)	琉球大学「与那フィールド」、 国頭村森林公園及び国頭村内の森林	¥9,120 (旅費・謝金除く)	H29年度も開講	¥34,000	H29年度執行額を参考	¥33,920	¥18,240 (旅費・謝金除く)
継続講座	4	国際地域創造学部	大島 順子 (国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授)	やんばるで学ぶ世界自然遺産学習	20	¥3,180	否	要	市民一般(高校生以上対象)、教育関係者	9月30日(土)	琉球大学「与那フィールド」、 国頭村内やんばるの森	¥9,120 (旅費・謝金除く)		¥24,120	※謝金・旅費を¥15,000にて算出	¥0	¥4,560
継続講座	5	教育学部	笹澤 吉明(教育学部 准教授)	琉大生がサッカーと勉強を教えます！	100	2000円 (兄弟で複数の場合2人目から1000円)	可	不要	小学生	5月～3月	琉球大学サッカー場及び講義室(夏季は西原きらきらビーチの時もある)	¥720,830	H29年度も開講	¥300,000	H29年度執行額を参考 開催回数を30回に抑え、支出経費は謝金のみにする	¥295,800	¥838,430
新規講座	6	教育学部	岡本 牧子(教育学部技術教育専修 准教授)	新聞記者体験 -エネルギーってなんだろう？-	20	無 料	可	要	小学4～6年生とその保護者	7月21日(土)	琉球大学本館101教室	¥23,240		¥23,240	減額なし	今年度開講なし	—
新規講座	7	教育学部	岡田 恵美(教育学部音楽教育講座 准教授)	(ものづくりと音楽体験) 手作り打楽器「カホン」と生活廃材楽器によるパーカッション・アンサンブル体験！	10	無 料	否	要	主に小学校高学年・中学生 (保護者の参加可)	8月4日(土)	琉球大学教育学部 技術棟(午前中)・音楽棟(午後)	¥29,320		¥29,320	減額なし	今年度開講なし	—
継続講座	8	教育学部	下地 敏洋(大学院教育学研究科 教授)	老年学への招待ー主観的幸福感をいかに高めるかー	25	無 料	可	不要	一般市民	6月30日(土)、7月7日(土)、 7月21日(土)	琉球大学教育学部棟101号室 (予定)	¥4,544	琉球大学教育学部棟101号室から各サテライトへ配信(予定)	¥4,544	減額なし	¥0	¥0
継続講座	9	理学部	中川 鉄水(理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)	水素のチカラ ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～	30	無 料	可	不要	市民一般・学生	5月～12月 (具体的な日時は未定)	琉球大学内・サテライトキャンパス(那覇、石垣、宮古、久米島、大宜味、国頭)で3～5回開催予定	¥154,800	出前講座 各サテライトキャンパスにて実施予定	¥154,800	減額なし	¥97,962	¥500,000
新規講座	10	理学部	須田 彰一郎(理学部海洋自然科学科 生物系 教授)	身近な海を楽しもう～サンゴ礁の生物塾	12	¥2,670	可	要	一般または 小学生以上(保護者同伴)	8月25日(土)	理学部 528教室 と 野外(大渡海岸もしくは裏真栄田海岸を予定)	¥0	H28年度に開講実績あり	¥0	減額なし	今年度開講なし	—
											申請額合計	¥1,030,549	査定額合計	¥649,599		¥495,305	¥1,421,565

講座数	16
必要経費総額	¥1,412,789
査定額合計	¥1,031,819
今年度執行額 (今年度開講した継続公開講座の執行合計額)	¥843,495
今年度申請額 (今年度の継続公開講座の申請合計額)	¥1,788,627

平成30年度 公開講座(離島への出前講座)一覧

資料1-5

●専門コース																	
新規・継続	連番	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額 は赤字(無料は除く)	coc連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	必要経費 ※黄色いセルは 10万円以上	備考	査定額	査定概要	今年度執行額(見込み) (H29年度)	今年度申請額 (H29年度)
継続講座	1	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 石垣島	(有料)10人 (無料)30人	¥3,700	否	要	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	7月21日(土)～ 7月22日(日)	NPO法人 ちゅらハウス	¥187,500と会場 使用料	八重山にて実施 H29年度も開講	¥163,500	減額なし	¥216,025	¥176,951
継続講座	2	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 宮古島	(有料)12人 (無料)30人	¥3,700	否	要	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	8月26日(日)～ 8月27日(月)	沖縄県立宮古特別支援学校 (交渉中)	¥189,000と会場 使用料	宮古にて実施 H29年度も開講	¥210,000	減額なし	¥132,165	¥184,371
											申請額合計	¥376,500	査定額合計	¥373,500		¥348,190	¥361,322

●一般コース																	
新規・継続	連番	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額 は赤字(無料は除く)	coc連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	必要経費 ※黄色いセルは 10万円以上	備考	査定額	査定概要	今年度執行額(見込み) (H29年度)	今年度申請額 (H29年度)
継続講座	1	理学部	中川 鉄水(理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)	水素のチカラ ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～	30	無料	可	不要	市民一般・学生	5月～12月 (具体的な日時は未定)	琉球大学内・サテライトキャンパス(那覇、石垣、宮古、久米島、大宜味、国頭)で3～5回開催予定	¥154,800	出前講座 各サテライトキャンパスにて実施予定	¥154,800	減額なし	¥97,962	¥500,000
											申請額合計	¥154,800	査定額合計	¥154,800		¥97,962	¥500,000

講座数	3
必要経費総額	¥531,300
査定額合計	¥528,300
今年度執行額 (今年度開講した継続公開講座の執行合計額)	¥446,152
今年度申請額 (今年度の継続公開講座の申請合計額)	¥861,322

平成30年度実施に係る経費

	H30公開講座全体	新規	継続 (H29から継続して 開催される講座)	キャンパス外で行 われる講座	COC事業への連携 が可能な講座	離島での出前講座
講座数	63	16	47	16	26	3
申請額合計	¥3,249,153	¥1,790,454	¥1,458,699	¥1,412,789	¥1,790,454	¥531,300
公開講座査定後の合計額	¥2,710,534	¥423,355	¥2,287,179	¥1,031,819	¥1,392,684	¥528,300

平成30年度運営に係る経費(見込み)

公開講座査定後の合計額		¥2,710,534
公開講座事務経費	公開講座等募集案内作成費 (昨年度執行額)	¥594,000
	公開講座WEBページ保守料 (消費税含む)	¥324,000
	発送費・雑費	¥150,000
総計		<u>¥3,778,534</u>

※平成29年度公開講座運営で執行した経費

大学開放事業費執行額 (平成30年2月15日時点)		¥3,851,112
公開講座事務経費 (内訳)	公開講座実施に係る経費 (平成30年2月15日時点)	¥2,859,340
	公開講座等募集案内作成費	¥594,000
	公開講座WEBページ保守運用 費	¥324,000
	郵送料	¥73,772
総計		<u>¥3,851,112</u>

注1)平成29年度大学開放経費(公開講座等経費)費配分額:¥2,641,000

平成28年11月28日

地域連携推進機構長決定

琉球大学公開講座の実施方針について

1. 目的

本学の高度で専門的な学習資源及び学術研究成果の地域社会への還元を目的に、県民の多様な学習ニーズに的確に応える公開講座等を企画・実施する。

2. 公開講座の要件

(講座の種類)

(1) 講座は県民の教養を高めるための「一般コース」と職業人などを対象とした高度な専門的知識・技術の修得・再教育を目指す「専門コース」とする。

(対象)

(2) 講座の対象は幼児から成人・高齢者、市民一般や職業人など、講座の内容に準じて自由かつ的確に設定するものとする。

(担当講師)

(3) 講師は原則一人とするが、講座の内容等によって複数講師（学内講師、但し「講師等旅費」を必要としない学外講師は可）で担当するものとする。

(回数・時間数)

(4) 回数・時間数は、総時間数が10時間以内、1回2～3時間で3～5回程度を一つの目安とするが、講座内容等によっては1回のみの開講や、長期にわたる継続的な講義も可とする。

(会場)

(5) 会場は原則学内とするが、講座内容等によっては学外での開講も可とする。

(経費)

(6) 講座を実施するにあたって必要となる経費については、講座内容・募集定員等を勘案し、担当講師と協議の上、必要最小限の額にとどめるものとする。

(受講料)

(7) 受講料の設定は「国立大学法人琉球大学料金規程」（平成16年4月1日制定）による換算を標準とするが、各講座単位で、講座の内容・対象、過去の受講状況、経費等を勘案し、適宜判断し決定できるものとする。

3. 講座の募集

- (1) 講座の募集は地域連携推進機構長（以下、「機構長」という）が各学部長等に対し文書をもって依頼するものとする。
- (2) 募集は各学部・センター単位で、「一般コース」2講座以上、「専門コース」1講座以上とする。

4. 講座計画の審議及び決定

- (1) 当該年度に実施する各講座及び上記2にかかる講座の詳細については、提出された各実施計画案をもとに地域連携推進機構運営会議（以下、「運営会議」という）で審議し決定する。
- (2) 実施計画案の修正・変更については、機構長、関係学部長等、担当予定講師等で協議し、その結果をもとに生涯学習推進部門会議で審議するものとする。
- (3) 当該年度に実施する公開講座の詳細が決定した場合は文書をもって各学部長等に通知するものとする。
- (4) なお、生涯学習推進部門が独自に企画する講座の実施計画案についても、運営会議において審議するものとする。

5. その他

その他公開講座の企画・実施・評価に必要な事項については、運営会議において適宜審議し決定するものとする。

国立大学法人琉球大学料金規程の一部改正に伴う新旧対照表（案）

新	旧				
(改正理由) ・公開講座に関する規程の整備に伴い、一律にて定められる公開講座等の講習料について、特に必要と認められる場合に学長が定めることができることとし、また、公開授業の定額料金を設定したため、所要の改正を行う。					
国立大学法人琉球大学料金規程 (趣旨) 第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学（以下「本学」という。）における授業料その他の費用に関し必要な事項を定めるものとする。なお、この規程に定める料金の免除及び徴収猶予に関しては、本学学則、大学院学則その他関係規則等に基づくところによる。 第2条～第19条 (略) (講習料の額及び徴収方法) 第20条 <u>公開講座の講習料の額は、別表第13、公開講座のうち公開授業の講習料の額は、別表第13の2に定めるとおりとし、受講を許可するときに徴収するものとする。ただし、学長が特に必要と認めるときは、講習料の一部若しくは全部を免除し、又は加算した額を徴収することができるものとする。</u> 第20条の1～第26条 (略) (規程の改廃) 第27条 この規程の改廃は、経営協議会の審議と役員会の議を経て学長が行う。 <u>附 則（平成30年3月 日）</u> <u>この規程は、平成30年4月1日から施行する。</u> 別表第1～別表第12 (略) 別表第13（第20条関係） 単位：円 <table> <tr> <td>1 講座当たりの時間数</td><td>公開講座講習料</td></tr> </table>	1 講座当たりの時間数	公開講座講習料	国立大学法人琉球大学料金規程 (趣旨) 第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学（以下「本学」という。）における業料その他の費用に関し必要な事項を定めるものとする。なお、この規程に定める料金の免除及び徴収猶予に関しては、本学学則、大学院学則その他関係規則等に基づくところによる。 第2条～第19条 (略) (講習料の額及び徴収方法) 第20条 公開講座等の講習料の額は、別表第13に定めるとおりとし、受講を許可するときに徴収するものとする。 第20条の1～第26条 (略) (規程の改廃) 第27条 この規程の改廃は、経営協議会の審議と役員会の議を経て学長が行う。 別表第1～別表第12 (略) 別表第13（第20条関係） 単位：円 <table> <tr> <td>1 講座当たりの時間数</td><td>公開講座等講習料</td></tr> </table>	1 講座当たりの時間数	公開講座等講習料
1 講座当たりの時間数	公開講座講習料				
1 講座当たりの時間数	公開講座等講習料				

	5時間以下	2, 670
5時間を超え	10時間以下	3, 180
10時間を超え	15時間以下	3, 700
15時間を超え	20時間以下	4, 210
20時間を超え	25時間以下	4, 730
25時間を超え	30時間以下	5, 240
30時間を超え	35時間以下	5, 760
35時間を超え	40時間以下	6, 270
40時間を超え	45時間以下	6, 780
45時間を超え	50時間以下	7, 300
50時間を超え	55時間以下	7, 810
55時間を超え	60時間以下	8, 330
65時間を超え	70時間以下	9, 360
70時間を超え	75時間以下	9, 870
75時間を超え	80時間以下	10, 380
80時間を超え	85時間以下	10, 900
85時間を超え	90時間以下	11, 410
90時間を超え	95時間以下	11, 930
95時間を超え	100時間以下	12, 440

別表第13の2（第20条関係）

単位：円

区 分	公開授業講習料
-----	---------

	5時間以下	2, 670
5時間を超え	10時間以下	3, 180
10時間を超え	15時間以下	3, 700
15時間を超え	20時間以下	4, 210
20時間を超え	25時間以下	4, 730
25時間を超え	30時間以下	5, 240
30時間を超え	35時間以下	5, 760
35時間を超え	40時間以下	6, 270
40時間を超え	45時間以下	6, 780
45時間を超え	50時間以下	7, 300
50時間を超え	55時間以下	7, 810
55時間を超え	60時間以下	8, 330
65時間を超え	70時間以下	9, 360
70時間を超え	75時間以下	9, 870
75時間を超え	80時間以下	10, 380
80時間を超え	85時間以下	10, 900
85時間を超え	90時間以下	11, 410
90時間を超え	95時間以下	11, 930
95時間を超え	100時間以下	12, 440

（新規）

<u>単価料金：1科目（全15回の場合）</u>	<u>4, 7 3 0</u>
<u>単価料金：1科目（全30回の場合）</u>	<u>6, 7 8 0</u>
<u>半期定額料金：半期間（前期又は後期）に 2科目以上を受講する場合</u>	<u>6, 7 8 0</u>
<u>通年定額料金：通年で、2科目以上を受講 する場合。</u>	<u>9, 3 6 0</u>

別表第14～別表第17 (略)

別表第14～別表第17 (略)

平成30年度 公開講座計画書

專 門

① 講座名	看護職の研究力アップ講座									
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	要・ ☒ 不要	⑤ 受講対象者	臨床看護研究を実施予定または実施中の看護職			
⑥ 開催会場	琉球大学医学部保健学科棟213室(2階)						⑦ 募集人数	15人		
⑧ 共催など										
⑨受講料の希望額	3,180円	理由 (単価表によらない場合のみ記入)								
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	現在、看護研究は多くの医療機関で行われています。でも、実際に研究をするとなると、研究テーマはこれでいいのだろうか？ 結果をどうまとめたらいいかわからない・・・、研究の相談にのってくれる人がいたら・・・。いろいろな悩みがあると思います。 本講座では、看護研究に関する基礎知識を学びながら、実際に研究を進めていきます。 日頃の業務で感じている看護の疑問や課題を解決するために、研究をしてみませんか？									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○遠藤由美子(医学部保健学科准教授) 眞榮城千夏子(医学部保健学科講師)									
	高原美鈴(医学部保健学科助教) 平安名由美子(医学部保健学科助教)									
	與古田孝夫(医学部保健学科教授) 國吉緑(医学部保健学科教授)									
	豊里竹彦(医学部保健学科教授) 古謝安子(医学部保健学科教授)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
5月19日(土)	14:00～16:00	看護研究とは(看護研究概論:講義、現場の課題をどう研究につなげる?:グループワーク)							全講師	
6月23日(土)	14:00～16:00	研究計画書を作成しよう(グループワーク、個別相談)							全講師	
9月 8日(土)	14:00～16:00	研究計画をすすめるために(研究計画の進捗状況確認と個別相談)							全講師	
11月17日(土)	14:00～16:00	効果的な発表のために(パワーポイントを使った発表原稿の作り方:講義、発表構想の個別相談)							全講師	
1月19日(土)	14:00～16:00	研究成果を発表しよう(発表と討論)、まとめ							全講師	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	消耗品 印刷用紙(A4 500枚入@400×10)=4,000円 フラットファイル(@530×15)、クリップファイル(@760×8)=14,030円 プリンタートナー(@12,000×1)=12,000円 ボールペン(@170×15)、ホワイトボードマーカー(@100×2) =2,750円 USBフラッシュメモリ(4GB)@1,200円×8=9,600円									
	合 計								42,380 円	
⑭ 備考	個人やグループ単位いずれの看護研究でも受講できます。 看護研究を進行中の方は、研究計画書等研究に関する資料を持参して下さい。									

① 講座名	「支援者」のためのマインドフルネス認知療法									
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	教育・医療・福祉等の現場で人の支援に携			
⑥ 開催会場	教育学部105室						⑦ 募集人数	15人		
⑧ 共催など	沖縄マインドフルネス瞑想会									
⑨受講料の希望額	15,000円	理由 (単価表によらない場合のみ記入)	一般企業等で同等のプログラムを受講すると3～7万円程度費用がかかるため。							
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	学校の教員でも、看護師や作業療法士といった医療従事者でも、臨床心理士でも、介護福祉士でも、「人」に携わる仕事においては、常に「自分」の成長が不可欠となります。子どもたちや患者さんとのインタラクションの中で、常に自身が問われることとなります。自分磨きの必要性は、人の支援に携わる者の共通の目標といえます。 マインドフルネスとは、今ここでの経験に評価や判断を加えることなく意図的に注意を向ける心のモードと定義されます。これを心理療法に活かしたマインドフルネスに基づく心理療法が、近年注目を集めています。マインドフルネスは仏教に端を発していますが、近年、注意と気づきの能力を高める認知のトレーニングとして、不安やうつ、慢性疼痛から発達障害に至るまで、様々な対象に効果を発揮することが明らかとなっています。 本講座では、Segal, Williams, & Teasdale(2002)によって開発された「マインドフルネス認知療法」を、人の支援に携わる支援者の日常に役立てられるようアレンジして紹介します。日々の活動の中で抱えるストレスとうまく付き合い、また自分自身と上手く人と関わる手段を身につけるために、共に実践を深めます。マインドフルな生き方を、本講座からはじめましょう。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	伊藤義徳○									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
9月11日(火)	18:30～20:00	事前説明会							伊藤義徳	
10月9日(火)	18:30～20:30	第1回:気づきと自動操縦							伊藤義徳	
10月16日(火)	18:30～20:30	第2回:頭の中で生きている							伊藤義徳	
10月23日(火)	18:30～20:30	第3回:散らかった心をまとめる							伊藤義徳	
10月30日(火)	18:30～20:30	第4回:嫌悪感を認める							伊藤義徳	
11月6日(火)	18:30～20:30	第5回:そのままにいる							伊藤義徳	
11月13日(火)	18:30～20:30	第6回:思考は事実ではない							伊藤義徳	
11月20日(火)	18:30～20:30	第7回:自分を大切ににする							伊藤義徳	
11月27日(火)	18:30～20:30	第8回:維持と新たな学びの広がり							伊藤義徳	
12月25日(火)	18:30～20:30	振り返りセッション							伊藤義徳	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	毎回資料準備・印刷費 5,000円 CD 4×15=6,000円 資料本 1冊(2,376)×15=35,640円 資料用ファイル 18冊=5,400円 指導補助者アルバイト(4名) 760円×3時間×10回×4=91,200円 石リマインダー) 648円×18個=11,664円									
	合 計							154,604 円		
⑭ 備考	マインドフルネスの涵養には、日々の実践が欠かせません。そのため、毎日45分のホームワークがあります。このホームワークを実践できることを参加の条件とします。 また、基本的に全回参加出来ることを条件とします。 初回セッション時に説明いたしますが、本講座は研究の一環として、また皆さん自身に実践の成果を知って頂くため、質問紙などの簡単なアンケートにご協力いただきます。									

① 講座名	ホールマネージメント									
② コース	一般・ <u>専門</u>	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・ <u>否</u>	④修了証の発行について	<u>要</u> ・不要	⑤ 受講対象者	ホール技術者及び一般			
⑥ 開催会場	琉球大学工学部2号館2F残響室・無響室及び小会議室							15人		
⑧ 共催など	沖縄音響学研究会									
⑨受講料の希望額	3180円	理由 (単価表によらない場合のみ記入)								
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	音響学、音響設計、音空間の体験・無響室残教室内実験 音声学、発声法及、音声合成演習及び実験									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○渡嘉敷健(工学部工学科建築学コース)									
	元琉球大学工学部教授高良富夫									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
10月6日	13時から15時	音響学、音響設計、音空間の体験・無響室残教室内実験							渡嘉敷健	
10月13日	13時から15時	音声学、発声法及、音声合成演習及び実験							高良富夫	
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	外部講師謝金:2h×@6,230×2d=¥24,920、測定用紙¥15,000									
	合 計							35,000 円		
⑭ 備考	台風及び自然災害での日程変更									

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習(筆記・上期)						
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	要・ ☒ 不要	⑤ 受講対象者	市民一般並びに工学系大学生
⑥ 開催会場	琉球大学工学部4号館111室					⑦ 募集人数	20人
⑧ 共催など							
⑨受講料の希望額	3,700円 (大学生は1,850円)	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	大学生の受講料は半額を希望します。				
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	第二種電気工事士は、一般住宅、小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり、合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では電気工事士施行令第8条にある7つの試験範囲(基礎理論, 配電理論など)をわかりやすく解説し、過去問題を盛り込んで計算問題や配線図問題の解き方などが学べます。この講座は初心者の方やしっかり理論を学んで資格を取りたい方にお勧めします。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○ 比嘉 晃(工学部工学科電子情報通信コース 教授)						
	勢理客 勝則(工学部技術部 技術職員)						
	渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)						
	山下 大輔(工学部技術部 技術職員)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
4月28日(土)	9:00～12:00	「基礎理論」, 「一般用電気工作物の検査方法」					比嘉 晃 勢理客 勝則 渡慶次 高也 山下 大輔
5月12日(土)		「配電理論及び配線設計」, 「一般用電気工作物の保安に関する法令」					
5月19日(土)		「電気機器, 配線器具並びに電気工事用の材料及び工具」, 「電気工事の施工方法」					
5月26日(土)		「配線図」					
6月2日(土)		「過去問題」					
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	その他消耗品(印刷用紙代等): 10, 000円						
	合 計						10,000 円
⑭ 備考	本講座ではオーム社の「第二種電気工事士筆記完全マスター」(ISBN:978-4-274-50349-8)を使用します。各自持参するようにしてください。 *第二種電気工事士試験の詳細は(財)電気技術者試験センターホームページにてご確認ください。 *お問合せは勢理客勝則(E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp, Tel:098-895-8644, Fax:098-895-8708)にお問い合わせします。 WEB予約サイト掲載希望期間: H30.3/14(水)～4/20(金)						

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習(筆記・下期)									
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	要・ ☒ 不要	⑤ 受講対象者	市民一般並びに工学系大学生			
⑥ 開催会場	琉球大学工学部4号館111室						⑦ 募集人数	20人		
⑧ 共催など										
⑨受講料の希望額	3,700円 (大学生は1,850円)	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	大学生の受講料は半額を希望します。							
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	第二種電気工事士は、一般住宅、小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり、合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では電気工事士施行令第8条にある7つの試験範囲(基礎理論, 配電理論など)をわかりやすく解説し、過去問題を盛り込んで計算問題や配線図問題の解き方などが学べます。この講座は初心者の方やしっかり理論を学んで資格を取りたい方にお勧めします。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○ 比嘉 晃(工学部工学科電子情報通信コース 教授)									
	勢理客 勝則(工学部技術部 技術職員)									
	渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)									
	山下 大輔(工学部技術部 技術職員)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
9月1日(土)	9:00～12:00	「基礎理論」, 「一般用電気工作物の検査方法」							比嘉 晃 勢理客 勝則 渡慶次 高也 山下 大輔	
9月8日(土)		「配電理論及び配線設計」, 「一般用電気工作物の保安に関する法令」								
9月15日(土)		「電気機器, 配線器具並びに電気工事用の材料及び工具」, 「電気工事の施工方法」								
9月22日(土)		「配線図」								
9月29日(土)		「過去問題」								
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	その他消耗品(印刷用紙代等): 10, 000円									
	合 計									10,000 円
⑭ 備考	本講座ではオーム社の「第二種電気工事士筆記完全マスター」(ISBN:978-4-274-50349-8)を使用します。各自持参するようにしてください。 *第二種電気工事士試験の詳細は(財)電気技術者試験センターホームページにてご確認ください。 *お問合せは勢理客勝則(E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp, Tel:098-895-8644, Fax:098-895-8708)にお願いします。 WEB予約サイト掲載希望期間: H30.7/9(月)～8/24(金)									

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習(技能・上期)									
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	要・ ☒ 不要	⑤ 受講対象者	市民一般並びに工学系大学生			
⑥ 開催会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)						⑦ 募集人数	20人		
⑧ 共催など										
⑨受講料の希望額	4,730円 (大学生は2,300円)	理由 (単価表によらない場合のみ記入)	大学生の受講料は半額を希望します。							
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	第二種電気工事士は、一般住宅、小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり、合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では(財)電気技術者試験センターから公表された候補問題13問題を実際に作り、合格するために必要な基礎的技術を学ぶことができます。									
⑪ 担当講師(代表者に○をつける)	○ 比嘉 晃(工学部工学科電子情報通信コース 教授)									
	勢理客 勝則(工学部技術部 技術職員)									
	渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)									
	山下 大輔(工学部技術部 技術職員)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
6月9日(土)～	9:00～12:00	基本作業, 安全注意並びに候補問題への取り組み							比嘉 晃 勢理客 勝則 渡慶次 高也 山下 大輔	
7月21日(土)										
毎週土曜, 全8回										
1日に2回分行う日があります。										
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材):40,000円 その他消耗品(印刷用紙代等):5,000円									
	合 計								45,000 円	
⑭ 備考	初日, 材料費として3,000円(全8回分)をご負担いただきます。作業に必要な工具はこちらで準備いたします(貸出可)。講習は筆記試験可否発表前から行いますので, 筆記試験の自己採点が合格ラインを突破していることをご確認後お申込みください。全8回実施するため2回分を行う日があります。各自で任意の保険にご加入ください(必須)。 *第二種電気工事士の詳細は(財)電気技術者試験センターにお問い合わせください。 *お問い合わせは勢理客勝則(E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp, Tel:098-895-8644, Fax:098-895-8708) にお願います。									

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習(技能・下期)						
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可 ☐ 否 ☒	④修了証の発行について	要 ☐ 不要 ☒	⑤ 受講対象者	市民一般並びに工学系大学生
⑥ 開催会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)					⑦ 募集人数	20人
⑧ 共催など							
⑨受講料の希望額	4,730円 (大学生は2,300円)	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	大学生の受講料は半額を希望します。				
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	第二種電気工事士は、一般住宅、小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり、合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では(財)電気技術者試験センターから公表された候補問題13問題を実際に作り、合格するために必要な基礎的技術を学ぶことができます。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○ 比嘉 晃(工学部工学科電子情報通信コース 教授)						
	勢理客 勝則(工学部技術部 技術職員)						
	渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)						
	山下 大輔(工学部技術部 技術職員)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
10月13日(土)～	9:00～12:00	基本作業, 安全注意並びに候補問題への取り組み					比嘉 晃 勢理客 勝則 渡慶次 高也 山下 大輔
12月1日(土)							
毎週土曜, 全8回							
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材):40,000円 その他消耗品(印刷用紙代等):5,000円						
	合 計						45,000 円
⑭ 備 考	初日, 材料費として3,000円(全8回分)をご負担いただきます。作業に必要な工具はこちらで準備いたします(貸出可)。講習は筆記試験可否発表前から行いますので, 筆記試験の自己採点が合格ラインを突破していることをご確認後お申込みください。各自で任意の保険にご加入ください(必須)。 *第二種電気工事士の詳細は(財)電気技術者試験センターにお問い合わせください。 *お問合せは勢理客勝則 (E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp, Tel:098-895-8644, Fax:098-895-8708) にお願 いします。 WEB予約サイト掲載希望期間・H30.8/6(月)～10/12(金)						

① 講座名	心理リハビリテーション・ボランティア養成講座									
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	☒ 可・否	④修了証の発行について	要・ ☒ 不要	⑤ 受講対象者	教育・福祉・医療従事者、障がい児(者)の家族、学生等			
⑥ 開催会場	琉球大学大学会館3階特別会議室						⑦ 募集人数	50人		
⑧ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)									
⑨受講料の希望額	0円		理由 (単価表によらない場合のみ記入)	専門コースであるが、地域のボランティア養成という目的のため、受講料を無料としたい。						
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	心理学で「からだ」というとき、それは肉体ばかりでなく、同時に「わたし(自我)」という「こころ」の存在を意味します。心理リハビリテーションは、障がいのある人の心身の成長・健康を支援する方法として開発されましたが、現在は障がいのある・なしに関わりなく、心身のコンディションを高め・維持する方法として日本全国で活用されています。沖縄県では、心身に障がいのある人とその家族が、心理リハビリテーション(動作法)を学ぶ勉強会を沖縄本島(西原町、名護市)、石垣市、宮古島市などで開催しています。本講座では、このような活動をサポートする専門家の方、当事者のご家族のための入門講座です。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○古川卓(琉球大学保健管理センター)、金城昇(琉球大学教育学部)、金城志麻(琉球大学障がい学生支援室)									
	平山篤史・野村れいか(沖縄国際大学)、与那嶺司(沖縄統合医療学院)、									
	宮城茂(沖縄県立鏡が丘特別支援学校)、鳥養広(沖縄県立大平特別支援学校)、上原均(元八重山特別支援学校)									
	上地信乃(児童心理治療施設 ノアーズ・ガーデン)、喜納菜摘(沖縄リハビリテーション福祉学院)、									
	伊志嶺ユカリ(宮古島徳洲会病院)、我喜屋良行・高江洲慶(国立病院機構琉球病院)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
4月22日(土)	9:30~10:15	講義Ⅰ							古川卓	
	10:30~11:30	講義Ⅱ							金城昇	
	11:30~12:30	ランチョンセミナー(※障がい児者の家族限定です。対象でない方は昼食休憩です。)							金城志麻	
	13:00~16:30	バズセッション(実技講習)							全講師	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	那覇ー久米島航空運賃24,000円(※普通運賃の場合) 那覇ー石垣島航空運賃51,600円(※普通運賃の場合) 那覇ー宮古島航空運賃39,200円(※普通運賃の場合) 宿泊費30,000円 セラピーマット送料(久米島教室)6,000円 印刷用紙1,500円 マジックペンなどの筆記具2,000円									
	合 計							154,300 円		
⑭ 備考	準備の都合により、事前にお申し込みください。参加者はロールプレイで動作練習を行いますので動きやすい服装で参加してください。なお、保険料として500円程度ご負担いただきます。昼食は各自ご準備願います。									

① 講座名	心理リハビリテーション(動作法)Ⅰ									
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否		可・ ☒ 否	④修了証の発行について		☒ 要・不要	⑤ 受講対象者	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	
⑥ 開催会場	琉球大学保健管理センター							⑦ 募集人数	(有料)5人 (無料)10人	
⑧ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)									
⑨受講料の希望額	5,240円		理由 (単価表によらない場合のみ記入)		(別表による)					
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	障がい者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、特別支援学校教員・特別支援教育担当者、福祉施設や医療機関の専門家(臨床心理士、医師、看護師、介護福祉士、ヘルパーなど)を対象に、理論の講義と実技を通して実践的に学ぶ機会を提供する。また、障がい者とその家族は当事者として動作法を学ぶ。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門教授)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
5月7日(月)	16:30～19:30	講義、実習、討論							古川卓	
～7月9日(月)										
月曜日×9回										
※5月21日は休み										
※予備日7月23日										
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	印刷用紙代1,500円									
	合 計							15,000 円		
⑭ 備考	参加者は期間中、講座に協力する障がい者の担当インストラクターとなります。動作練習を行いますので動きやすい服装で参加してください。なお、保険料として2,010円(予価)ご負担いただきます。また、テキストはプリントを配布します。その他参考書については、講義で紹介します。									

① 講座名	心理リハビリテーション(動作法)Ⅱ									
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否		可・ ☒ 否	④修了証の発行について ☒ 要・不要		⑤ 受講対象者	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族		
⑥ 開催会場	琉球大学保健管理センター							⑦ 募集人数	(有料)5人 (無料)10人	
⑧ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)									
⑨受講料の希望額	5,240円		理由 (単価表によらない場合のみ記入)		(別表による)					
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	障がい者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、特別支援学校教員・特別支援教育担当者、福祉施設や医療機関の専門家(臨床心理士、医師、看護師、介護福祉士、ヘルパーなど)を対象に、理論の講義と実技を通して実践的に学ぶ機会を提供する。また、障がい者とその家族は当事者として動作法を学ぶ。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門教授)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
10月1日(月)	16:30～19:30	講義、実習、討論							古川卓	
～12月10日(月)										
月曜日×9回										
※12月3日は休み										
※予備日12月17日										
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	印刷用紙代1,500円									
	合 計							15,000 円		
⑭ 備考	参加者は期間中、講座に協力する障がい者の担当インストラクターとなります。動作練習を行いますので動きやすい服装で参加してください。なお、保険料として2,010円(予価)ご負担いただきます。また、テキストはプリントを配布します。その他参考書については、講義で紹介します。									

① 講座名	心理リハビリテーション(動作法)キャンプin石垣島									
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	☒ 要・不要	⑤ 受講対象者	⑥ 開催会場			⑦ 募集人数
							NPO法人 ちゅらハウス		医療従事者(無料)障がい者とその家族(有料)10人(無料)20人	
⑧ 共催など	NPO法人 ちゅらハウス(共催) / 沖縄県教育委員会(後援名義使用)									
⑨受講料の希望額	3,700円		理由(単価表によらない場合のみ記入)	昨年より日程短縮で3,700円、一般は障がい児とその家族ならびにボランティアで0円						
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	八重山地区で障碍児・者の援助を行っている専門家(教育、福祉、医療)に、障碍児・者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、理論の講義と実技、ならびに臨床実習を通して実践的に学ぶ機会を提供する。また、地域の障碍児とその家族に対し、個別的に指導を行う。									
⑪ 担当講師(代表者に○をつける)	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門教授)									
	金城昇(琉球大学教育学部教授)									
	高江洲慶(国立病院機構琉球病院)									
	上原仁(元沖縄県立八重山特別支援学校)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
7月21日(土)	10:00～16:00	講義、実習、討論							全講師	
7月22日(日)	10:00～16:00	実習、討論							全講師	
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	印刷用紙代等1,500円 旅費3人×46,000円(航空運賃)+3人×8,000円(宿泊)×2泊=186,000円 会場使用料(未定)									
	合 計							187,500と会場使用料 円		
⑭ 備考	参加者は期間中、講座に協力する障がい者の担当インストラクターとなります。動作練習を行いますので動きやすい服装で参加してください。なお、保険料として1,500円程度ご負担いただきます。また、補助テキストは2,200円です(希望者のみ)。									

① 講座名	心理リハビリテーション(動作法)キャンプin宮古島						
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	☒ 要・不要	⑤ 受講対象者	(有料)教育・福祉・医療従事者(無料)障がい者とその家族
⑥ 開催会場	沖縄県立宮古特別支援学校(交渉中)					⑦ 募集人数	(有料)12人 (無料)30人
⑧ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)						
⑨受講料の希望額	3,700円	理由 (単価表によらない場合のみ記入)	昨年より日程短縮で3,700円、一般は障がい児とその家族ならびにボランティアで0円				
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	宮古島地区で障がい児・者の援助を行っている専門家(教育、福祉、医療)に、障碍児・者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、理論の講義と実技、ならびに臨床実習を通して実践的に学ぶ機会を提供する。また、地域の障がい児とその家族に対し、個別的に指導を行う。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門教授)						
	金城昇(琉球大学教育学部教授)						
	野村れいか(沖縄国際大学)						
	伊志嶺ユカリ(宮古島徳洲会病院)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月26日(日)	10:00～16:00	講義、実習、討論					全講師
8月27日(月)	10:00～16:00	実習、討論					全講師
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	印刷用紙代等1,500円 旅費3人×46,000円(航空運賃)+3人×8,000円(宿泊)×2泊=186,000円 会場使用料(未定)						
	合 計						189,000と会場使用料 円
⑭ 備考	参加者は期間中、講座に協力する障がい者の担当インストラクターとなります。動作練習を行いますので動きやすい服装で参加してください。なお、保険料として1,500円程度ご負担いただきます。また、補助テキストは2,200円です(希望者のみ)。						

① 講座名	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 名護									
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	☒ 要・不要	⑤ 受講対象者	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族			(有料)10人 (無料)20人
⑥ 開催会場	沖縄県立名護青少年の家(予定)						⑦ 募集人数			
⑧ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)									
⑨受講料の希望額	3,180円		理由 (単価表によらない場合のみ記入)	専門技能の講習であるので、単価表より高く見積もり、かつ事前調査により1回1,000円程度なら参加しやすいとの回答を得ているため。なお無料部分は障害のある人とその家族。						
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	障がい児・者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、特別支援学校教員・特別支援教育担当者、福祉施設や医療機関の専門家(臨床心理士、医師、看護師、介護福祉士、ヘルパーなど)を対象に、理論の講義と実技を通して実践的に学ぶ機会を提供する。同時に、名護在住の障がい者とその家族が動作法を学ぶ機会を提供する。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門教授)									
	我喜屋良行(国立病院機構琉球病院)									
	鳥養広(沖縄県立美咲特別支援学校)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
※調整中、10月	13:00～19:00	講義、実技研修、臨床実習、討論							全講師	
の週末2日間を予定	9:00～12:00	講義、臨床実習、討論							全講師	
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	施設借上げ費用360円×9時間＝3,240円(会場が名護青少年の家の場合) 印刷等用紙代1,500円 文具等1,000円									
	合 計							5,740 円		
⑭ 備考	参加者は期間中、講座に協力する障がい者の担当インストラクターとなります。動作練習を行いますので動きやすい服装で参加してください。なお、食事代(三食)1,450円(予価)、保険料500円程度(予価)ご負担いただきます。									

① 講座名	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法)出前講座 in 那覇特別支援学校									
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否		可・ ☒ 否	④修了証の発行について		要・ ☒ 不要	⑤ 受講対象者	特別支援学校 教員、児童生徒	
⑥ 開催会場	沖縄県立那覇特別支援学校							⑦ 募集人数	20人	
⑧ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)									
⑨受講料の希望額	0円		理由 (単価表によらない 場合のみ記入)		専門コースであるが、特別支援学校での出前講座であるので受講料を無料としたい。					
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	心理リハビリテーション(動作法)は、特別支援学校の教科の一つである「自立活動」に取り入れられている方法のひとつである。本講座では、動作法の実践を行っている沖縄県立那覇特別支援学校に講師が訪問し、「自立活動」の時間に希望する児童生徒とその保護者、教員に向けて動作法の実践を指導する出前講座である。									
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門教授)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
9月14日(金)	9:30～15:00	実技指導・実習							古川卓	
2月15日(金)	9:30～15:00	実技指導・実習							古川卓	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳										
	合 計									
⑭ 備考	沖縄県立那覇特別支援学校の児童生徒と保護者、教員を対象とした講座ですので、原則は本校関係者とします。他の学校から参加を希望なさる場合は、事前に沖縄県立那覇特別支援学校にお問い合わせください。									

① 講座名	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法)出前講座 in 鏡が丘特別支援学校									
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	要・ ☒ 不要	⑤ 受講対象者	特別支援学校 教員、児童生徒			
⑥ 開催会場	沖縄県立鏡が丘特別支援学校						⑦ 募集人数	20人		
⑧ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)									
⑨受講料の希望額	0円		理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	専門コースであるが、特別支援学校での出前講座であるので受講料を無料としたい。						
講座の開設 趣旨・内容等	心理リハビリテーション(動作法)は、特別支援学校の教科の一つである「自立活動」に取り入れられている方法のひとつである。本講座では、動作法の実践を行っている沖縄県立鏡が丘特別支援学校に講師が訪問し、「自立活動」の時間に希望する児童生徒とその保護者、教員に向けて動作法の実践を指導する出前講座である。									
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門教授)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
9月21日(木)	10:00～15:00	実技指導・実習							古川卓	
2月7日(木)	10:00～15:00	実技指導・実習							古川卓	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳										
	合 計									0 円
⑭ 備考	沖縄県立鏡が丘特別支援学校の児童生徒と保護者、教員を対象とした講座ですので、原則は本校関係者とし ます。他の学校から参加を希望なされる場合は、事前に沖縄県立鏡が丘特別支援学校にお問い合わせください。									

① 講座名	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法) 出前講座in泡瀬特別支援学校									
② コース	一般・ ☒ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否		可・ ☒ 否	④修了証の発行について		要・ ☒ 不要	⑤ 受講対象者	特別支援学校 教員、児童生徒	
⑥ 開催会場	沖縄県立泡瀬特別支援学校							⑦ 募集人数	20人	
⑧ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)									
⑨受講料の希望額	0円		理由 (単価表によらない 場合のみ記入)		専門コースであるが、特別支援学校での出前講座であるので受講料を無料としたい。					
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	心理リハビリテーション(動作法)は、特別支援学校の教科の一つである「自立活動」に取り入れられている方法のひとつである。本講座では、動作法の実践を行っている沖縄県立泡瀬特別支援学校に講師が訪問し、「自立活動」の時間に希望する児童生徒とその保護者、教員に向けて動作法の実践を指導する出前講座である。									
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門教授)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
9月7日(金)	9:30～15:00	実技指導・実習							古川卓	
2月1日(金)	9:30～15:00	実技指導・実習							古川卓	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳										
	合 計									0 円
⑭ 備考	沖縄県立泡瀬特別支援学校の児童生徒と保護者、教員を対象とした講座ですので、原則は本校関係者とします。 他の学校から参加を希望なさる場合は、事前に沖縄県立泡瀬特別支援学校にお問い合わせください。									

—

般

① 講座名	食と排泄の知って得する健康まちづくり！ 宜野湾市長田区公民館から発信！						
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	一般市民
⑥ 開催会場	長田区公民館					⑦ 募集人数	70人
⑧ 共催など	宜野湾市長田区自治会						
⑨受講料の希望額	0円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	以前、有料では参加者が少なかったから				
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	講座では、歯のかみ合わせ・食事・排せつを中心に健康ライフスタイルについて学びます。排せつのことで年のせいと諦めている方、尿が近い、咳やくしゃみで漏れる、急に強い尿意を模様に我慢できずに漏れるなど排尿に関する症状を持つ人は年々増えています。その原因を予防、改善できる方法を地域の皆様へお伝えし私達と一緒に健康な体づくり、健康生活づくりをしてみませんか？						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	宜野湾市長田区 自治会長						
	アドベンチストメディカルセンター 看護部長						
	アドベンチストメディカルセンター 歯科技工士課長						
	ライフスタイルクラス/アドベンチストメディカルセンター 産婦人科医師						
	アドベンチストメディカルセンター 病院秘書						
	アドベンチストメディカルセンター コンチネンス外来看護師						
	○琉球大学医学部保健学科成人・がん看護学						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
	13:20～13:25	長田区公民館の活動					富濱宗俊
	13:25～13:30	アドベンチストメディカルセンターの紹介					仲西作子
	13:30～13:50	噛み合わせと体のバランス					新垣勝利
	13:50～14:20	健康ライフスタイル					DL.Vaghan
	14:20～14:40	腸内細菌と玄米					赤嶺ゆかり
	14:40～15:00	意外と知らない 正常な排泄					富田なおり
	15:00～15:30	知って得する 排尿ケア					大湾知子
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	クーラー代:4時間、4,000円 ※共催なので会場費無料です						
	合 計						4,000 円
⑭ 備考	昨年11月18日に尿失禁予防のための骨盤底筋体操の講演をしました。その際に自治会長から琉球大学と連携を取り講演会を継続したいと依頼がありました。琉球大学公開講座として地域に貢献したいと存じます。 長田区公民館住所：宜野湾市長田3-28-1 Tel：892-3321 自治会長：富濱宗俊						

① 講座名	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際						
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	市民一般
⑥ 開催会場	社会医療法人敬愛会 中頭病院ホール					⑦ 募集人数	50 人
⑧ 共催など	社会医療法人敬愛会 中頭病院						
⑨受講料の希望額	無料	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	沖縄県においてはがんの罹患数は年々増加傾向にあり、例年がんによる死亡数は約2700人で、全死亡の1/3を占めている。家族ががんと診断され、治療ケアを受けるプロセスにおいて、患者の身体的・精神的苦痛を理解し、サポートする上で家族や重要他者の果たす役割は大きいと考える。このような視点より、本公開講座では、がん患者のQOLの向上に寄与することを目的にプログラムを構成した。一般市民の皆様とともにがん患者の緩和ケアについての知識を共有できる場として、本公開講座を活用したい。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○照屋 典子 (琉球大学医学部成人・がん看護学・助教)						
	笹良 剛史(友愛会南部病院・麻酔科診療部長・緩和ケア担当医)						
	林 正樹 (敬愛会中頭病院・血液腫瘍内科部長・緩和ケアチーム長)						
	金城ユカリ (敬愛会中頭病院・緩和ケアチーム専従看護師・緩和ケア認定看護師)						
	嘉陽嘉代 (敬愛会中頭病院・医療相談室・医療ソーシャルワーカー・緩和ケアチーム員)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
9月8日(土)	13:00～13:30 (30分)	開講挨拶 我が国における緩和ケアの現状と課題					照屋典子
	13:30～14:20 (50分)	がんの痛みを癒す 疼痛コントロールの実際					笹良剛史
	14:20～14:50 (30分)	中頭病院における緩和医療の実際					林正樹
	15:00～15:20 (20分)	中頭病院における緩和ケアチーム活動の紹介					金城ユカリ
	15:20～15:40 (20分)	患者・家族の相談支援の実際					嘉陽嘉代
	15:40～16:00 (20分)	総合討論・質疑応答					
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	・講師謝金(医師2名)・・・医師10000円×2名(小計 20000円) ・講師謝金(コメディカル名)・・・7000円×2名(小計 14000円) ・学生雇上げ(2名)・・・単価 760円×5時間×3名(小計 11400円) ・A4コピー用紙(1箱5㍻入り)単価1575円×1箱・・・ (小計 1575円) ・USBフラッシュメモリ(8GB 単価1500円)×6個・・・(小計9000円) ・製本ファイル(5冊入り／袋 単価400円)×16袋・・・(小計6400円) ・上質紙(A4ピンク100枚入り／袋 単価600円)×1袋・・・(小計 600円) ・Canon カートリッジ (単価4200円)×3本・・・(小計 12600円)						
	合 計						75,575 円
⑭ 備考							

平成30年度公開講座実施計画書

部局名 医学部

① 講座名	市民ランナーのためのランニング科学講座				
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要
⑤ 受講対象者	市民一般				
⑥ 開催会場	琉球大学生涯学習教育研究センター並びに各サテライト(那覇、宮古、石垣、久米島、国頭、大宜見、名護)				⑦ 募集人数
⑧ 共催など	なし				
⑨ 受講料の希望額	無料	理由(単価表によらない場合のみ記入)	ランニングの普及と活性化を考慮		
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	「NAHAマラソン」は、いまや3万人がエントリーする国内を代表する一大スポーツイベントになりました。しかしながら、完走率は75%ほどで、多くのランナーが悔しい思いをしています。 本講座は、多くの市民ランナーを指導した実績とランニング学会の会長(平成27・28年度)などを歴任された豊岡示朗先生の講義と実技指導により、NAHAマラソンやおきなわマラソンの完全走破を目指すあなたをサポートします。				
⑪ 担当講師(代表者に○をつける)	○尾尻義彦(医学部保健学科助教、ランニング学会認定指導者) 豊岡示朗(大阪体育大学教授、ランニング学会認定特別上級指導者)				
⑫ プログラム					
実施日	時間	講座内容	メイン会場	担当講師	
11月10日(土)	14:00～17:00	ランニング講座	琉球大学	尾尻義彦・豊岡示朗	
11月11日(日)	9:00～12:00	ランニング実技	陸上競技場(未定)	尾尻義彦・豊岡示朗	
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	大阪・沖縄往復の交通費と宿泊代等(2泊3日)100,000円 学生アルバイト(4名):単価760円(1時間)×6時間×2名分=9,120円				
	合 計				109,120 円
⑭ 備 考	実施日に関しては、変更になる場合があります。 ランニング講座は各サテライトでも受講できますが、実技はメイン会場での受講になります。				

平成30年度公開講座実施計画書

部局名

医学部

① 講座名	めざせ！ NAHAマラソン完走へ						
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	市民一般
⑥ 開催会場	琉球大学生涯学習教育研究センター並びに各サテライト(那覇、宮古、石垣、久米島、国頭、大宜見、名護)					⑦ 募集人数	各会場の定員による
⑧ 共催など	なし						
⑨ 受講料の希望額	無料	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	ランニングの普及と活性化を考慮				
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	沖縄県内では、ハーフマラソンを含めると30近い数のマラソン大会が開催されており、『マラソンの島』である。しかしながら、多くの市民ランナーは、自己流でトレーニングを行っている。正しい知識を持ってトレーニングを行っていけば、初心者でもフルマラソンの完走も可能です。 本講座は、①ゆっくりマイペースでランニングをしながら、42km走れるようになるトレーニング法、②ランニングに関する科学的、医学的な知識、③ランニングによる健康的なライフスタイルを創造することを目的としている。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○尾尻義彦(医学部保健学科助教、ランニング学会認定指導者)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容			メイン会場	担当講師	
7月27日(金)	18:00～20:00	楽楽ランニングとマラソントレーニング			琉球大学	尾尻義彦	
8月10日(金)	18:00～20:00	ランニングの生理学1(乳酸を克服せよ)			琉球大学	尾尻義彦	
9月7日(金)	18:00～20:00	ランニングの生理学2(糖と脂肪の代謝)			琉球大学	尾尻義彦	
10月5日(金)	18:00～20:00	ランニングの栄養学			琉球大学	尾尻義彦	
11月2日(金)	18:00～20:00	必ず完走！NAHAマラソン攻略法			琉球大学	尾尻義彦	
12月7日(金)	18:00～20:00	NAHAマラソン、反省会			琉球大学	尾尻義彦	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	なし						
	合 計						0 円
⑭ 備考	実施日に関しては、変更になる場合があります。						

① 講座名	国際人権と沖縄：市民による国連システムと国際人権法の利用						
② コース	一般	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可	④修了証の発行について	不要	⑤ 受講対象者	一般市民
⑥ 開催会場	法文学部					⑦ 募集人数	30人
⑧ 共催など	沖縄国際人権法研究会・日本国際人権法学会						
⑨受講料の希望額	3,180円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	すべての人々に平等な人権があるとし、人権を守るためにすべての人民に等しく自決権があると宣言し、その追及を最も重要な創設目的として国連が設立された(国連憲章2条)。1948年の国連総会決議である世界人権宣言を土台として、戦後多くの国際的な人権条約が国連を舞台として形成され蓄積され、多くの加盟国が批准することによって「国際人権法」が国際的な規範として形成されてきた。国際的な人権の規範にもとづく世界共通の普遍的な人権基準が発達していく中で、日本も多くの国際人権条約を批准し、その遵守を明言してきた。条約が批准された場合は、国内法と同じく立法、行政、司法の直接的な法源として用いられることになる。しかしながら、日本での実態は、その遵守が十分なものとは言えず、また、立法、行政、司法による積極的な活用も見られない。特に沖縄の問題に関しては、国連の諸人権機関が国際的な人権基準を満たしていないという再三の指摘がある。その理論と実態について探求していく。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○星野英一(琉球大学法文学部教授)						
	島袋純(琉球大学教育学部教授)						
	親川裕子(沖縄国際人権法研究会会員)						
	眞栄田若菜(沖縄国際人権法学会会員)						
	加藤愛子(沖縄国際人権法研究会会員)						
	阿部浩己(神奈川大学教授)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
9月29日	13:30～14:20	オリエンテーション・国際人権法で考える沖縄					島袋純
9月29日	14:30～15:20	国際法の発展と国際人権法の誕生					阿部浩己
9月29日	15:30～16:20	国際人権法の発展					阿部浩己
9月29日	16:30～17:20	国連の人権メカニズム					阿部浩己
9月29日	17:30～18:20	国際人権基準を用いて市民はどう訴えるか					星野英一
9月30日	9:30～10:20	シンポジウム国際人権法と沖縄①:表現の自由・自決権					星野英一、島袋純、 沖縄国際人権法研究会
9月30日	10:30～11:20	シンポジウム国際人権法と沖縄②女性の権利、子どもの権利、環境権					親川裕子、眞栄田若菜、 加藤愛子、他
9月30日	11:30～12:20	シンポジウム国際人権法と沖縄③:国際人権法の新たな論点					阿部浩己、沖縄国際人権法研究会
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	学生アルバイト(2名):単価760円(1時間)×8時間×2名分=12,160円 USBフラッシュメモリ(2個):2G 1,000円×1個=1,000円 講師料:県外1名:講師料1時間5000円×6時間=30,000円 県外講師招聘旅費:東京＝沖縄西原町間往復40,000+宿泊費11,000×1泊×1名=51,000円						
	合 計						94,160 円
⑭ 備考	琉球大学及び沖縄においては国際人権法の専任の大学教員が皆無であり、日本国際人権法学会及び沖縄国際人権法研究会(星野英一・島袋純代表)の協力が不可欠である。阿部浩己神奈川大学教授は、日本国際人権法学会の前会長であり、国際人権法研究の第一人者であり、また、沖縄国際人権法研究会の創設にご尽力いただき、沖縄に関する国際人権法の適用の視点においても造詣が深い。シンポジウムにおいては、基調講演とパネルディスカッションに参加していただき、この授業が成り立つことにとって最重要講師であり、旅費宿泊費の拠出をお願いしたい。						

部局名

① 講 座 名	やんばる山学校						
② コ ー ス	☒ 一般・ ☐ 専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	☒ 要・ ☐ 不要	⑤ 受講対象者	市民一般
⑥ 開 催 会 場	琉球大学「与那フィールド」、国頭村森林公園及び国頭村内の森林やダム周辺					⑦ 募集人数	20 人
⑧ 共 催 な ど	【開催協力】琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター与那フィールド(宿泊及び講義室提供)、国頭村森林組合(視察及び会場提供、話題提供)、(社)やんばるビジョン(講師担当、現地案内)、Yambaru Green(運営協力)						
⑨受講料の希望額	3, 180円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)					
⑩ 講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	沖縄島北部やんばるの山は、琉球弧の地史を背景に独自の進化をとげた多種多様な希少野生動植物が生息・生育し、国や沖縄県が目指す世界自然遺産登録(推薦地)の中核をなす地域です。今年度のやんばる山学校では、世界自然遺産へ登録するほどの価値を持つ森林と人の命の源である水資源のつながりを自らの目で確認することから始めます。そして、林業の現場視察を行うことで森林の多面的機能を考え、より有効な森林の利活用のあり方を学びます。体験やワークショップなど能動的な学習方法を取り入れながら進める本講座では、主体的で深い対話的な学びを体感できます。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○ 大島 順子 (国際地域創造学部准教授)						
	高嶋 敦史 (農学部附属 亜熱帯フィールド科学教育研究センター与那フィールド助教)						
	久高 将和 (一般社団法人やんばるビジョン代表理事)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
11月23日(金・祝日)	11:00～20:30	現地集合～やんばるの森と水がめの見学～やんばるの森を多面的に学ぶワークショップ～夜のやんばるの森の体験					大島・高嶋・久高
11月24日(土)	9:00～15:30	移動～森林組合工場見学～やんばるの森を支える体験プログラム～ふりかえり・まとめ～現地解散					大島・高嶋・久高
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	①学生アルバイト(1名):単価760円(1時間)×6時間×2日間=9,120円、旅費 ※受付、与那フィールドでの調理(夕食・朝食等)および森林調査等の体験プログラムの運営補助を行う。 ②講師謝金 1日目の現地視察(2時間)の案内及び夜の自然観察指導(1時間30分)の担当、2日目やんばるの森を支える体験プログラム(2時間)の指導補助をして頂く予定です。(規程によりご準備頂きますようお願いします) ※「森林調査の手引き」(担当講師が2017年度作成した冊子を使用する予定)						
	合 計						円
⑭ 備 考							

① 講座名	やんばるで学ぶ世界自然遺産学習										
② コース	一般・専門	③COC事業との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	市民一般、教育関係者				
⑥ 開催会場	琉球大学「与那フィールド」、国頭村内やんばるの森						⑦ 募集人数	20 人			
⑧ 共催など	【開催協力】(社)やんばるビジョン、Yambaru Green、琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター与那フィールド										
⑨受講料の希望額	3180 円		理由 (単価表によらない場合のみ記入)								
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	世界遺産条約に基づいて国際的な協力と援助のもとで保護・保全されている世界遺産は、自然科学や人文科学、そして社会科学など多角的な学問領域、学習分野を包含しており、子どもから大人まで生涯にわたって学習できる興味深いテーマです。しかしながら、昨今では世界遺産をめぐる様々な不祥事件が起こったり、観光資源としての側面ばかりに関心が注がれ、肝心な世界遺産への正しい理解や適正な活用のあり方を学ぶ機会が少ないのが現状です。世界遺産をいかに保護・保全し、未来へと継承していくのか、世界遺産登録地域への訪問客のみならず地域住民に対しても、あらゆる機会を活用した学びの場の創出が求められています。 本講座では、世界自然遺産候補に挙げられているやんばるで、学校教育や社会教育、観光の現場で実践できる世界自然遺産学習をテーマに、その意義や内容、教材開発について実践的に学びます。今後世界遺産(文化・自然)の両方を併せ持つことになるであろう沖縄に必要となる世界遺産学習を担う教育者や実践者の育成につなげていきたいと思っています。										
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○ 大島 順子 (国際地域創造学部准教授)										
	蔵満 逸司 (琉球大学教職大学院准教授)										
	久高 将和 (一般社団法人やんばるビジョン代表理事)										
⑫ プログラム											
実施日	時間	講座内容							担当講師		
10月20日(土)	10:30～20:30	現地集合(与那フィールド)～オリエンテーション～ワークショップ～現場実習(フィールドワーク)～講義～授業プラン・教材の開発(1)～フィールドワーク							大島・蔵満・久高		
10月21日(日)	9:00～15:30	講義～授業プラン・教材の開発(2)～ふりかえり・まとめ～現地解散							大島・蔵満・久高		
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	①学生アルバイト(1名):単価760円(1時間)×6時間×2日間=9,120円、旅費 ※受付、与那フィールドでの調理(夕食・朝食等)および現場実習時の体験プログラムの運営補助を行う。 ②講師謝金 1日目の現場実習(フィールドワーク)(2時間)の案内及び夜の自然観察指導(1時間30分)の担当、2日目教材開発の際の希少野生動植物への配慮に関する指導助言(1時間)をして頂く予定です。(規程によりご準備頂きますようお願いします)										
	合 計										円
⑭ 備考	当日は現地集合・解散。万一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等に参加して下さい(必須)。雨天決行ですが、天候の状況を見て、内容を変更する場合があります。※申込者には、別途詳細の案内をお送りします。										

① 講座名	シニアのためのストリートワークアウトで健康づくり									
② コース	☒ 一般・ ☐ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否		☒ 可・ ☐ 否	④修了証の発行について		要・ ☒ 不要		⑤ 受講対象者	50歳以上の市民一般
⑥ 開催会場	琉球大学 大学会館3F特別会議室								⑦ 募集人数	20人
⑧ 共催など	ストリートワークアウトジャパン									
⑨受講料の希望額	無料		理由 (単価表によらない場合のみ記入)							
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	小さい頃に遊んだ鉄棒。実はぶら下がるだけでも、肩こり予防や姿勢矯正など、全身に効果があり、未病予防にも繋がります。 身近にある公園の鉄棒や平行棒等を利用して体作りを行う運動をストリートワークアウトと言い、老若男女が運動経験関係なく遊び感覚で取り組みます。 本講座では体力づくり、ケアを第一の目的に、日常生活でも簡単に取り入れられるストリートワークアウトの運動法やストレッチ等のケア法を実際に体を使って取り組んでいきます。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○仲宗根 雄三(ストリートワークアウトジャパン代表)									
	新垣 麗(ストリートワークアウトジャパン事務局長)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
6月3日(日)	16:00～17:30	ストリートワークアウトとは何か							仲宗根・新垣	
6月10日(日)	16:00～17:30	自分の体ひとつでできるワークアウト							仲宗根・新垣	
6月17日(日)	16:00～17:30	鉄棒を使用したワークアウト							仲宗根・新垣	
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	講師謝金 4,740円×1.5時間×3回＝21,330円 講師謝金 5,230円×1.5時間×3回＝23,535円									
	合 計									44,865 円
⑭ 備考	外部講師による講座（世話人：観光産業科学部 平野典男先生） 簡易鉄棒は講師が持参する ＜受講者注意事項＞ 服装：ジャージなどの動きやすい服装で来てください。スニーカー・体育館履きなどの靴をご用意ください。 持ち物：水分補給のため、飲料水持参。 その他：保険の加入必須									

① 講座名	バルーンアート基礎講座						
② コース	☒ 一般・ ☐ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	☒ 可・ ☐ 否	④修了証の発行について	要・ ☒ 不要	⑤ 受講対象者	一般 (小学生以下は保護者同伴)
⑥ 開催会場	琉球大学 文系総合研究棟2F会議室B					⑦ 募集人数	20人
⑧ 共催など	REInbow-Balloon Creators-						
⑨受講料の希望額	無料(教材費実費徴収)	理由 (単価表によらない場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	バルーンは膨らませたり、曲げたり、ねじったり、繋ぎ合わせたり、と非常に自由度が高く、動物や植物等、様々な物をイメージして作ることができます。 完成したものを誰かに対してプレゼントしたり、お祝いやイベント等会場の飾り付けをしたり、コスチュームとして身に着けてみたり、と用途も様々です。 また指先まで、神経を集中させて作成することで、脳の活性化にもつながります。 本講座では、バルーンのふくらまし方や結び方といった基本からスタートし、簡単にできる作品やバルーンを使用したゲームなど、コミュニケーションツールとしても役立つテクニック等を実際に手を動かして取り組んでいきます。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	新垣 麗 (バルーンクリエイター/REInbow-Balloon Creators-代表)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
6月3日(日)	13:00～14:30	バルーンの特性について・あそべるバルーン					新垣 麗
6月10日(日)	13:00～14:30	プレゼントできるバルーン					新垣 麗
6月17日(日)	13:00～14:30	飾り付けに使えるバルーン					新垣 麗
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	講師謝金5,230円×1.5時間×3回＝23,535円						
	合 計						23,535 円
⑭ 備考	外部講師による講座（世話人：観光産業科学部 平野典男先生） 教材費として、1,000円（税込）を当日徴収。全ての回に参加できない場合も減額・返金はしません。 保険の加入を奨励						

① 講 座 名	オリジナル模様ワンピースづくりにトライ！									
② コ ー ス	一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	一般・学生			
⑥ 開 催 会 場	琉球大学教育学部棟333教室						⑦ 募集人数	6人		
⑧ 共 催 な ど										
⑨受講料の希望額	3180円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)								
⑩ 講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	紅型風型染めでワンピースの模様をほどこしたフリーサイズのワンピースをつくります。布をパターンにしたがって裁断・しるしつけした後、自分で柄をデザインし、型紙をつくってステンシルの方法で染めてから仕立てます。既製品を買って着ることにはない、つくる楽しさを感じ、衣生活の原点を考えましょう。									
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	松本 由香(琉球大学教育学部家政教育 教授)									
⑫ プ ロ グ ラ ム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
8月4日(土)	9:30～17:00	ワンピースのパターンのチェック、パターンづくり、補正、布の裁断、しるしつけ、模様デザイン、型紙づくり							松本由香	
8月5日(日)	9:30～17:00	型染め、乾燥、ミシン縫い、完成							松本由香	
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	配布麻布地代:7体(6人+サンプル1体)×2メートル×2500円＝35000円 製図用紙・ミシン糸・ボビン:7体×300円＝2100円 ST型紙用紙・顔料・サンカラー・バインダー・スプレー糊＝15000円									
	合 計									52,100 円
	裁縫道具（縫い針、まち針、ピンクッション、糸切ばさみ、しつけ糸、チャコ、チャコペーパー（両面）等）は、各自持参下さい。布地および染めに必要な材料は、こちらで用意します。									

① 講座名	おもちゃ作りを通して学ぶ地球温暖化防止親子講座						
② コース	一般	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可	④修了証の発行について	要	⑤ 受講対象者	小学校4～6年生 と保護者
⑥ 開催会場	琉球大学教育学部102教室					⑦ 募集人数	10組(20人)
⑧ 共催など							
⑨受講料の希望額	0 円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	沖縄県は産業や生活に必要なエネルギー資源の殆んどを海外からの輸入に頼っており、持続可能な社会を実現する上で問題があります。特に、東日本大震災以後、地球温暖化対策はもとよりエネルギーの安定確保に向けて、私たち一人ひとりがライフスタイルを見直し、二酸化炭素(CO ₂)をはじめとする温室効果ガスの大幅な削減や様々な省エネを実践することが求められています。 本講座では、身近な材料を用いた模型風力発電機及び模型電気自動車の工作・実験を通して、再生可能エネルギーやエネルギーの変換などについて学ぶとともに、地球温暖化防止について親子で考えてみましょう。 工作・実験が好きな親子、集まってください。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○清水 洋一(教育学部技術教育教室 教授)						
	上地 飛夢(教育学部 技術職員)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
7月22日(日)	13:00～16:00	座学(1時間)と工作・実験(2時間)					清水・上地
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	講座における工作・実験の補助要員及び事前準備・会場設営等の業務として、学生4名×8時間×760円＝24,320円						
	合 計						24,320 円
⑭ 備考	当日、材料費（風力発電工作キット、電気二重層コンデンサー、モーターなど）として1,000円を徴収いたします。製作した風力発電機と模型電気自動車はお持ち帰りください。						

① 講座名	琉大生がサッカーと勉強を教えます！							
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	小学生	
⑥ 開催会場	琉球大学サッカー場及び講義室(夏季は西原きらきらビーチの時もある)					⑦ 募集人数	100人	
⑧ 共催など								
⑨受講料の希望額	2000円(兄弟で複数場 合2人目から1000円)	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	前年度と同じ金額のため					
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	本講座は、昨今課題である児童・生徒の学力や体力の低下の問題に立ち向かうものである。対象は小学生男女であり、低～高学年まで全てである。琉球大学サッカー部を中心とする学生が、サッカー教室を通じて体を動かす楽しさを伝えた後、宿題の援助や苦手科目の克服などを目指した学習教室を展開し、「文武両道」の精神を身につけさせる。本講座は学生の若いエネルギーを子ども達にぶつけ、体当たり指導することによって、子ども達の「やる気」を育てる一助となることも目指し、若い先生が少なくなった学校現場の補足的な役割も期待できる。さらに学生諸君は教えることを通じて自らを成長させる良い機会となる。また、講座終盤では親子による親睦試合を行い、カレーパーティーを開き親子の絆を図る。さらに、夏期はビーチサッカー(親子大会、スイカ割り含)も経験し、サッカーの楽しさを広げる。日曜の朝から活動することによって生活習慣を整え、月曜からの学校の学習活動にスムーズに入れるようにする。昨年120名の参加者がある人気講座であり、NHKの「あさイチ」でも取材され全国から注目されている。							
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○笹澤 吉明(琉球大学教育学部 准教授)							
	姜 東植(琉球大学工学部 准教授)							
	琉球大学サッカー部学生							
⑫ プログラム								
実施日	時間	講座内容					担当講師	
調整中 5月開始予定 基本的に毎週日曜日	8:30～10:00	サッカー教室						
	10:00～11:00	学習教室						
	11:00～14:00	試合応援(自由参加)						
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳		メーカー	品名	品番	値段	個数	計	学生謝金 20回×2.5時間×760円×12名=456000円 【実質】 (40回×2.5時間×760円×20名=1520000円)
	1	molten	ベレーダ274	PF274Y	3360	30	100800	
	2	molten	ゲームベスト	GB101-Y	17850	1	17850	
	3	molten	ゲームベスト	GB101-B	17850	1	17850	
	4	molten	ゲームベストジュニア	GBJ101-Y	16800	1	16800	
	5	molten	ゲームベストジュニア	GBJ102-B	16800	1	16800	
	6	molten	片面ネームプリント	(ベスト用)	347	40	13880	
	7	molten	ネームプリント製版	(ベスト用)	12600	1	12600	
	8	molten	ボールカゴ	BK500T	54600	1	54600	
	9	molten	ボールカゴフタ	BK50LD	13650	1	13650	
	合計						264830	
	合 計						720,830 円	
⑭ 備考	学生の遠征や大会等で都合がつかない場合は休講となることもある。将来プロを目指す子から女子や初心者まで大歓迎である。子ども達の生活習慣を整えることを目的の一つとするため、運動、栄養、休養などのアドバイスを御父兄に行うこともある。期間は5月から翌年3月までので30回開講しているので受講料は非常に安価です。雨天時は、体育館にて行うことや、スケジュールの都合から土曜開校になることもある。変更のある場合は、琉大サッカー部のHPや事務からのメール連絡によって連絡する。なおこの取り組みは、平成14年3月にNHKの番組「あさイチ」にて報道され、全国に紹介された							

① 講座名	新聞記者体験 -エネルギーってなんだろう？-						
② コース	一般	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可	④修了証の発行について	要	⑤ 受講対象者	小学4～6年生 とその保護者
⑥ 開催会場	教育学部 本館 101					⑦ 募集人数	20人
⑧ 共催など							
⑨受講料の希望額	0 円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	「エネルギーを大切に！」「省エネ！」など、エネルギーという言葉をよく耳にしますが、そもそもエネルギーとは何なのでしょう か？この講座では、使われなくなった木くずを再利用して、発電用の燃料をつくる施設(うるま市)や、使用済みのてんぷら油 で発電する施設(沖縄市)を取材し、新聞作りにチャレンジします。身近なエネルギーについて、自分で集めたインタビュー記 事や写真を使ってエネルギー新聞を作ってみよう！						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○ 岡本牧子 (教育学部技術教育専修 准教授)						
	濱田栄作 (教育学部理科教育専修 准教授)						
	清水洋一 (教育学部技術教育専修 教授)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
7月21日(土)	9:00-16:00	近隣のエネルギー施設への取材体験と新聞づくり					岡本、濱田、 清水
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	学生アルバイト(3名):単価760円(1時間)×8時間×3名分=18,240円 A3封筒,A3用紙 写真用紙、インク他:5,000円						
	合 計						23,240 円
⑭ 備考	2名以上の児童とその保護者を含むグループで参加してください。バスで移動しますので、お弁当(昼食)と飲み 物を持参してください。						

① 講 座 名	〈ものづくりと音楽体験〉手作り打楽器「カホン」と生活廃材楽器によるパーカッション・アンサンブル体験！						
② コ ー ス	一般	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	否	④修了証の発行について	要	⑤ 受講対象者	主に小学校高学 年・中学生 (保護者の参加可)
⑥ 開 催 会 場	琉球大学教育学部 技術棟(午前中)・音楽棟(午後)					⑦ 募集人数	10人
⑧ 共 催 な ど							
⑨受講料の希望額	0 円	理由 (単価表によらな い 場合のみ記入)					
⑩ 講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	県内の小学校高学年・中学生を主な対象とした, ものづくりと音楽体験を合わせた講座です。午前は大学生達と一緒に, 身近な素材から楽器を製作します。午後は手作りの楽器を用いて打楽器の簡単な奏法(4ビート, 8ビート, ブラジル・サンバのリズムなど)を学び, 大人数でのパーカッション・アンサンブルを楽しむ内容です。製作した打楽器「カホン」は, 各自お持ち帰り頂けますので, 小学生は夏休みの自由研究としてお勧めです。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○ 岡田 恵美 (教育学部音楽教育講座 准教授)						
	清水 洋一 (教育学部技術教育講座 教授)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月4日(土)	9:55	琉球大学教育学部 技術棟に集合					
	10:00-12:00	打楽器カホンや生活廃材楽器の製作(技術棟にて実施)					清水 洋一
	12:00-13:00	昼食(琉球大学・学生中央食堂にご案内致します)					
	13:00-15:30	製作した楽器を用いたパーカッション・アンサンブル体験(音楽棟にて実施)					岡田 恵美
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	・午前の楽器製作補助要員及び事前準備・会場設営等の業務として, 学生2名×8時間×760円= <u>12,160円</u> ・午後の楽器奏法・アンサンブル指導として, 指導補助学生4名×4時間×760円= <u>12,160円</u> ・楽器製作のための木材・ネジ等材料費(カホン1個分)1,000円×指導者5名分(教員1名・指導補助学生4名)= <u>5,000円</u> 合計額 = 12,160円 + 12,160円 + 5,000円= <u>29,320円</u>						
	合 計						29,320 円
⑭ 備 考	・当日, 楽器製作に必要な木材・ネジ等の材料費として1,000円徴収致します。製作した打楽器「カホン」は, 各自お持ち帰り下さい。 ・昼食時間は琉球大学キャンパス内の学生中央食堂に移動します。食堂ランチを注文する場合は, 当日500円程度ご持参ください。またアレルギー等がある場合は, お弁当のご持参も可能です。 ・木材の組立作業を行いますので, 汚れても良く, 動きやすい服装・運動靴でご参加下さい。 ・小学生の参加者につきましては, 特に木工作業を行う午前中は保護者のご参加・共同作業が望ましいです。						

① 講座名	老年学への招待－主観的幸福感をいかに高めるか－									
② コース	☒ 一般・専門	③COC事業との連携の可否		☒ 可・否	④修了証の発行について		要・ ☒ 不要		⑤ 受講対象者	一般市民
⑥ 開催会場	琉球大学教育学部棟101号室								⑦ 募集人数	25人
⑧ 共催など										
⑨受講料の希望額	0 円		理由 (単価表によらない場合のみ記入)							
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	超高齢社会が進展する中、高齢期の特徴と老化のプロセスを理解することは、生涯学習社会の構築を目指す上で、ますます重要なものとなっている。 本講座では、老年学の研究成果を通して社会的、生物学的、及び心理学的な領域から正しい老化のプロセスを学ぶことで、人間の加齢変化や主観的幸福感について、理解を深めることを目的としている。 講義の内容は、理論と実践の融合を目指し、「生涯発達」を共通のコンセプトとして、お互いの議論を通して正しい老化のプロセスに対して理解を深め、主観的幸福感を高めることが主なねらいである。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	下地敏洋(琉球大学大学院教育学研究科 教授)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容								担当講師
6/30(土)	13:00－15:00	老年学とその可能性とは								下地敏洋
7/7(土)	13:00－15:00	正しい老化のプロセスとは								下地敏洋
7/21(土)	13:00－15:00	主観的幸福感の影響要因とは								下地敏洋
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	ふせん(75×75)、型番6541SS(854-429)、1束、2750円 模造紙エコノミープルタイプ(両面無地:20枚入)、型番830－352、1束、794円 サインペン黒(10本入)、型番S520XAD、10本、1000円									
	合 計									4,544 円
⑭ 備考	教室が変更になることがあります。									

① 講座名	児童・生徒・指導者のためのハンドボール教室						
② コース	一般・専門	③COC事業との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	ハンドボール愛好者
⑥ 開催会場	琉球大学第一体育館					⑦ 募集人数	200 人
⑧ 共催など	琉球大学男女ハンドボール部、教育学部大学院教育学研究科保健体育専修、沖縄県ハンドボール協会						
⑨受講料の希望額	無料	理由 (単価表によらない場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	沖縄県内の小学生・中学生・高校生およびその指導者に対し、ハンドボール競技の技術・戦術・指導法を伝えることを基本とします。対象のレベルに応じた技術・戦術・指導法について、より的確に対象者が身につけることを目的とします。原則として、受講生を限定せず、学校の部活動単位での集合型公開講座を主たる形態とします。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	三輪一義(琉球大学教育学部生涯健康教育コース 教授)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
4月7日(土)	土曜日						
～	13:00～17:00	ハンドボールの技術・戦術・指導法とその理論					三輪
3月10日(日)	日祝日						
(のべ58日)	10:00～16:00						
<別紙参照>							
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	ハンドボール3号球 2個 (モルテン 品名:ヌエバX5000 品番:H3X5001-BW 単価:¥8,400) ハンドボール2号球 2個 (モルテン 品名:ヌエバX5000 品番:H2X5001-BW 単価:¥8,200) (主に児童生徒を対象とした講座のため、ガイダンスに従い受講料を無料にしておりますので、必要経費の要求は気が引けますが、希望額を提示します。 配分可能な範囲で購入して頂けると助かります。)						
	合 計						33,200 円
⑭ 備考	集合型公開講座のスタイルは実質的に4年前より実施しており、平成29年度実績において、参加者は延べ人数で、児童生徒926人、指導者97人(平成29年12月末時点)に及びます。 実技指導の補助員に、琉球大学男女ハンドボール部員および教育学部大学院有志学生を充てて、これまで4年間の指導経験を踏まえて、指導内容を充実させる予定です。						

① 講座名	結び目の数学ーひもはほどけるかー							
② コース	一般	専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	一般市民
⑥ 開催会場	教育学部本館1階106室						⑦ 募集人数	20人
⑧ 共催など	なし							
⑨受講料の希望額	無料(ただし、材料費の徴収あり)	理由(単価表によらない場合のみ記入)						
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	紐を適当に絡ませ、その両端を繋いだものを結び目と呼びます。絡まった電源コードの、両端をくっつけたものを想像すると理解しやすいでしょうか。電源コードやイヤホンが絡まり、なかなかほどけない経験をした方は多いと思います。このような日常生活に現れる絡まり方を研究する数学分野に、結び目理論があります。一般に上のようににして結び目を作ったとき、綺麗な円の結び目に戻るでしょうか。もちろん戻らないものが沢山あるわけです。しかし、それをどう証明しましょう。これはとても難しい問題です。一時間紐を動かしても戻らなかった。証明終わり。ではまずいですよね。だって二時間かければ戻るかもしれない。これを解決してくれるアイデアに「不変量」があります。本講義では不変量を用いて、多くの結び目が円に戻らないことを証明します。							
⑪ 担当講師(代表者に○をつける)	三枝崎 剛(琉球大学教育学部准教授)							
⑫ プログラム								
実施日	時間	講座内容						担当講師
(未定) 7月末から8月上旬以外	10:00-16:00	結び目理論入門						三枝崎 剛
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	学生アルバイト(2名):単価760円(1時間)×6時間×2名分=9, 120円 その他消耗品(ロープ、安全ピン、組紐作成キット等):20, 000円							
	合 計							29,120 円
⑭ 備考	筆記用具持参。							

① 講座名	～物理の魅力を教えます2018～						
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	中高校生・一般
⑥ 開催会場	琉球大学理系複合棟					⑦ 募集人数	50人
⑧ 共催など	なし						
⑨受講料の希望額	0円	理由 (単価表によらない場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	琉球大学理学部物理系では毎年夏に、中高生以上を中心とした理科好きの一般の皆様に、様々な物理の魅力を伝える講座を開いています。講座の前半は最新の物理関係のトピックスや琉球大学で研究されている最先端の物理についての講演を行います。後半は物理の魅力の詰まった各種実験実演など自由に参加できるプログラムになっています(参加申込不要、途中入退場自由です)。生き生きとした最先端物理学の世界に触れる機会を提供したいと思いますので、物理が好きな人も得意でない人も、是非不思議体験をしにきてください。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	前野昌弘(理学部物質地球科学科准教授)○			瓜生康史(理学部物質地球科学科教授)			
	眞榮平孝裕(理学部物質地球科学科教授)			與儀護(理学部物質地球科学科准教授)			
	辺土正人(理学部物質地球科学科教授)			田原周太(理学部物質地球科学科准教授)			
	阿曾尚文(理学部物質地球科学科教授)			小林理気(理学部物質地球科学科助教)			
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月5日	13:00～17:00	講演＆実験体験					全員
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	ポスター印刷(300枚:8千円) パンフレット印刷(3000枚:1万円) 以上の発送費(県内の中学・高校)2万円 受講者に体験してもらう実験の消耗品(10万円) 学生アルバイト25名(単価760円×3時間×25＝57000円)						
	合 計						195,000 円
⑭ 備考	講座内容などは、ホームページ “ http://www.phys.u-ryukyu.ac.jp/koza2018/ ” にて情報発信します。 事前申込不要で当日参加可能です。途中入場・途中退場も可能です。						

① 講座名	琉大生による理科実験教室						
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	小中高校生・一般
⑥ 開催会場	琉球大学理系複合棟					⑦ 募集人数	100人
⑧ 共催など	なし						
⑨受講料の希望額	0円	理由 (単価表によらない場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	琉球大学理学部物質地球科学科の教員を志望している大学4年生が中心となって、小中高校生向けの実験教室を開催します。物質地球科学科は物理と地学を勉強する学科です。この教室では物理・地学に関する楽しい実験などを見たり体験したりできるほか、工作なども楽しめるようになっています。 小中高校生向けですが、理科に興味の全ての方が参加可能です。 理科の不思議を見て聞いて、触りにそして作りに来てください						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	前野昌弘(理学部物質地球科学科准教授)○						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
12月23日	13:00～17:00	実験体験&工作					前野昌弘
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	ポスター パンフレット印刷(1万4千円) 本島中南部小学校に発送(1万2千円)その他はイベントなどで配布。 受講者に体験してもらう実験・工作の消耗品(2万円)						
	合 計						46,000 円
⑭ 備 考	講座内容などは、ホームページ “ http://www.phys.u-ryukyu.ac.jp/jikken2018/ ” にて情報発信します。 事前申込不要で当日参加可能です。途中入場・途中退場も可能です。						

① 講 座 名	理系女子・理系男子の世界―進路選択とキャリア形成―						
② コ ー ス	☒ 一般 ・ 専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可 ・ ☒ 否	④修了証の発行について	☒ 要 ・ 不要	⑤ 受講対象者	一般(高校・大 学生、指導者・ 保護者も可)
⑥ 開 催 会 場	琉球大学理系複合棟207講義室(仮)					⑦ 募集人数	20 人
⑧ 共 催 な ど							
⑨受講料の希望額	無料	理由 (単価表によらな い 場合のみ記入)					
⑩ 講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	自然科学分野の研究や教育を職業とする理系女子・理系男子の実際の姿については、世間一般には案外、あまり知られていないのかもしれませんが。本講座においては、理系の進路選択やキャリア形成の道筋に関する内容と共に、その職業生活、日常、文化などについてもお話します。また、若い人たちに対する理系進路選択支援やキャリア形成支援の有り様、特に女子学生・女子生徒に対する支援の現状、更には女性研究者や技術者、教育者の様々な状況も含めて紹介します。自然科学分野の実態を知ること、興味を幅を広げ、人生の選択肢や喜びを増やしてもらえることを期待しており、受講者の皆さんと情報や意見の交換も行いながら話を進めていきたいと思いますので、進路選択を控えた学生や生徒さん、および、その指導者や保護者の方々も歓迎します。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○漢那 洋子(理学部 海洋自然科学科 化学系 准教授)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
検討中	13:30～16:30	自然科学の世界および理系の進路選択とキャリア形成に関連した講義					漢那 洋子
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	消耗品(プリンタインク代、印刷用紙代等):5,000円						
	合 計						5,000 円
⑭ 備 考	実施日については、検討中です。						

① 講 座 名	水素のチカラ ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～						
② コ ー ス	☒ 一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	☒ 可・否	④修了証の発行について	要・ ☒ 不要	⑤ 受講対象者	市民一般・学生
⑥ 開 催 会 場	琉球大学内およびサテライトキャンパスのうち1～3か所を予定					⑦ 募集人数	30 人
⑧ 共 催 な ど							
⑨受講料の希望額	円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)					
⑩ 講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	水素エネルギー社会到来が間近に迫っているが、沖縄では未だ水素ステーションや水素燃料電池自動車などの導入例がほとんどなく、沖縄県民にはなじみの薄いものとなっている。しかしながら水素エネルギーは地産地消可能なエネルギー資源であるため、沖縄のような島嶼地域こそ国内に先駆けて水素社会になるべきだと考えている。本講座は、こういった状況を踏まえ、沖縄県民に水素を認知し、正しい知識を持ってもらい、水素エネルギー社会へスムーズに移行するための草の根活動として、子供から大人まで幅広い年齢層に「水素教育」なるものを提供することを趣旨とする。具体的な内容としては、来るべき水素社会の形、基本的な水素の性質、水素製造、貯蔵、利用の講義を行いつつ、関連した実験(電気分解による水素発生、水素貯蔵材料アンモニアボランを用いた水素放出反応、水素燃料電池ラジコン)を体験してもらおう。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○中川 鉄水(理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
未定(5月)	2時間	水素のチカラ@琉球大学千原キャンパス					中川 鉄水
未定(9月)	2時間	水素のチカラ@琉球大学石垣島サテライトキャンパス					中川 鉄水
未定(12月)	2時間	水素のチカラ@琉球大学国頭サテライトキャンパス					中川 鉄水
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	学生アルバイト:760円×10時間(準備・片付け含む)×1人×3回＝22,800円 離島への旅費(交通費・宿泊費のみ):30,000円×2人×1回＝60,000円 実験器具:電気分解水素発生装置500円×10台＋アンモニアボラン水素発生装置1,000円×10台＝15,000円 アンモニアボラン(1回2g×5回＝10 g):43,000円 白金触媒:14,000円						
	合 計						154,800 円
⑭ 備 考							

① 講 座 名	身近な化学 Part①										
② コ ー ス	☒ 一般	・	専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	☒ 可	・	否	④修了証の発行について	要 ・ ☒ 不要	⑤ 受講対象者	高校生以下
⑥ 開 催 会 場	生涯学習教育センター301講義室(仮)									⑦ 募集人数	30 人
⑧ 共 催 な ど	一般社団法人教育振興会										
⑨受講料の希望額		円		理由 (単価表によらない 場合のみ記入)							
講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	現代では多くの科学技術を用いた製品が日常にあふれている。しかしながら現代はその構造が複雑化・高度化しているため、学校で習ったことと関連性を見出すことができない。さらに近年、初等教育・中等教育において実験授業が減少しつつあるため、子供たちから一層理科の有益性と興味を感じづらくなりつつある。本授業は、化学を中心として、身の回りにある自然・製品のしくみの中にどのように化学が使われているかを、年1～3回程度、毎回テーマを変えて高校生以下の学生に向けて、主に教員希望の現役大学生が中心となって実験講座を行う。										
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○中川 鉄水(理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)										
	福本 晃造(教育学部 理科教育 無機化学・有機金属化学 准教授)										
⑫ プ ロ グ ラ ム											
実施日	時間		講座内容							担当講師	
未定(5月 予定)	13:00-15:00		内容未定(食の化学を予定)							中川・福本	
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	学生アルバイト:760円×10時間(準備・片付け含む)×5人=38,000円 実験器具10,000円										
	合 計										48,000 円
⑭ 備 考											

① 講座名	身近な化学 Part②												
② コース	☒ 一般	・	専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	☒ 可	・	否	④修了証の発行について	要	・	☒ 不要	⑤ 受講対象者	高校生以下
⑥ 開催会場	生涯学習教育センター301講義室(仮)											⑦ 募集人数	30 人
⑧ 共催など	一般社団法人教育振興会												
⑨受講料の希望額			円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)									
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	現代では多くの科学技術を用いた製品が日常にあふれている。しかしながら現代はその構造が複雑化・高度化しているため、学校で習ったことと関連性を見出すことができない。さらに近年、初等教育・中等教育において実験授業が減少しつつあるため、子供たちから一層理科の有益性と興味を感じづらくなりつつある。本授業は、化学を中心として、身の回りにある自然・製品のしくみの中にどのように化学が使われているかを、年1～3回程度、毎回テーマを変えて高校生以下の学生に向けて、主に教員希望の現役大学生が中心となって実験講座を行う。												
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○中川 鉄水(理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)												
	福本 晃造(教育学部 理科教育 無機化学・有機金属化学 准教授)												
⑫ プログラム													
実施日	時間		講座内容										担当講師
未定(10月予定)	13:00-15:00		内容未定(道具の化学を予定)										中川・福本
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	学生アルバイト:760円×10時間(準備・片付け含む)×5人=38,000円 実験器具10,000円												
	合 計												48,000 円
⑭ 備考													

① 講座名	身近な海を楽しもう～サンゴ礁の生物塾						
② コース	一般	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可	④修了証の発行について	要	⑤ 受講対象者	成年者の場合のみ
⑥ 開催会場	理学部 528教室 と 野外(大渡海岸もしくは裏真栄田海岸を予定)					⑦ 募集人数	12人
⑧ 共催など	無し						
⑨受講料の希望額	2670円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	理学部生物系教員による海の生物や環境にまつわる座学形式の講義と実地での磯歩き観察を組み合わせた講座を通して、沖縄の身近なサンゴ礁について、より深く、楽しく学ぶ機会を提供します。午前中は主に教室での講義・ガイダンスをおこない、現場に移動した後、潮の引いたサンゴ礁のイノー(浅瀬)にて、実地での観察形式の講義をおこないます。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○中村 崇 理学部 海洋自然科学科 准教授						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
H30年8月25日 (土)	10:30～15:30	午前中:サンゴ礁についての座学					上記のとおり
		移動(昼食含む)後に野外観察(12:24干潮 45cm)、現地にて解散					上記のとおり
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳							
	合 計						円
⑭ 備考	各自、任意の傷害保険に加入をしておくこと。当日は濡れても大丈夫な服装と靴をご準備ください。万が一悪天候の場合には、午後の活動を屋内（教室での実験や観察）に切り替えて実施する場合があります。野外観察後は現地で解散となります。						

① 講 座 名	自分らしく輝くビューティ講座									
② コ ー ス	一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可	否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	ビューティをめざす包丁をもてない女子		
⑥ 開 催 会 場	教育学部本館306教室他							⑦ 募集人数	5 人	
⑧ 共 催 な ど										
⑨受講料の希望額	3,180 円		理由 (単価表によらない 場合のみ記入)							
⑩ 講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	近年、女性の社会での活躍や社会貢献の在り方は、目覚ましいものがあります。一方、忙しさのあまり、クッキングをする時間がなく中には、20代後半から始まる体の老化に栄養や身体、心のケアが対応できていない方も居られるようです。疲れやすくなったり、ビューティ度が下がって初めて自分を大切にしようとするのかもしれませんが。「女性が自分らしく輝き、人のために美しくなる講座を」というご要望にお応えしてこの講座ができました。栄養面だけでは、なく、自分らしいメイクレッスン、女性ホルモンupの栄養学も含めて、美を追求するNLPトレーナでもある講師が、トータルビューティをキッチンから楽しく学ぶ5回講座です。									
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○ 森山 克子(農学部 健康栄養科学コース 准教授)									
	伊波 利枝子(ビューティ教室主宰)									
	グレッチン ハブレック(夢コラージュコーチ)									
⑫ プ ロ グ ラ ム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
5月17日	18:20～20:50	理論:自分らしく輝く、人のために生きる人生を、夢コラージュ作り、輝く私の作り方							森山 克子・グレッチン他	
5月31日	18:20～20:50	自分らしいメイクレッスン、ビューティと栄養							森山 克子・伊波利枝子他	
6月14日	18:20～20:50	簡単栄養満点 3歳児でもできるビューティクッキング							森山 克子・名嘉裕子他	
6月28日	18:20～20:50	ビューティライフのための秘訣、表情筋と姿勢、簡単クッキング							森山 克子・伊波 利枝子 他	
7月12日	18:20～20:50	まとめ:「女性が自分らしく輝き、人のために美しくなる」、全ては私、私は全て！							森山 克子・グレッチン、伊波 利枝子他	
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	当日の調理補助の学生雇いあげ 4h×760×4人×3回=36,480円 講師謝金1回10,000×3回=30,000 その他消耗品(USB、体操用マット代等):4,000円									
	合 計							70,480 円		
⑭ 備 考	・材料費等で初回に3,000円を徴収します。レクレーション保険は各自でご加入をお願いします。 ・クッキングの時は、エプロン、三角布(バンダナでも可)のご準備をお願いします。 なお、献立は、例なので変更する場合があります。 ・体操の時は軽装やレオタード等をご準備願います。									

① 講座名	3歳児のための子どもシェフクラブ						
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	3歳児とその保護者
⑥ 開催会場	教育学部本館 306教室					⑦ 募集人数	6 人
⑧ 共催など							
⑨受講料の希望額	3,180 円	理由 (単価表によらない場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	今回は、 保育園単位でのお申込みとなります 。食は、知育・徳育・体育の基礎となるもので、全てのいのちの源です。食育基本法を受けて策定された保育指針では、「調理」という生活体験が出てくるのが3歳児です。3歳児になると自主的にやりたいという気持ちが芽生えます。その自主性の芽生えをサポートするために、3歳児ひとりでチャレンジしていく講座です。そのため保育園や保護者との連携した食育を行います。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○ 森山 克子(農学部 健康栄養科学コース 准教授)						
	奥平夏乃(病院栄養士)						
	與那嶺真奈(学校栄養士)						
	儀間美月(学校栄養士)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
5月10日	18:30～20:00	講座の趣旨説明					森山 克子
6月10日	9:00～13:00	調理実習:予定献立:ご飯献立(例:コロコロおにぎり、かちゅーゆ、いちご大福)					森山 克子
7月8日	10:00～13:00	調理実習:予定献立:パン献立(例:しらすトースト、ふりふりサラダ、ゆーぬく)					森山 克子
8月11日	10:00～13:00	調理実習:予定献立:学生献立(案)(あさりのスパゲィ、バナナヨーグルト等)					森山 克子
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	当日の調理補助の学生雇いあげ 6h×760×4人×3回=54,720円 USBフラッシュメモリ(2個):2G 1,260円×2個=2,520円 その他消耗品(印刷用紙代等):5,000円						
	合 計						62,240 円
⑭ 備考	・アレルギーの有無や年齢、調査研究への協力等を確認した上で参加者を決定させて頂き当方から当選者をお知らせします。 ・食育推進の調査研究に協力頂けるご家族とお子様を対象とし、3日間の食事の写真撮影、食事内容調査(食べた物目安量記録法)、アンケート、保育園(給食内容調査)のご協力が得られる方を条件とします。 ・レクレーション保険は各自でご加入をお願いします。 ・初回、材料費、資料のための3,000円を徴収させて頂きます。 ・エプロン、三角布(バンダナでも可)上履きのご準備をお願いします。献立は(案)のため、変更する場合もあります。 ・4回目は教員免許講習会の先生方が参観されます。						

① 講 座 名	3歳児からの子どもシェフクラブ(中学生:第2期生) ラクラク簡単栄養満点! 部活動生徒のお弁当づくり!										
② コ ー ス	一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	中学生				
⑥ 開 催 会 場	学内(教育学部本館)						⑦ 募集人数	8 人			
⑧ 共 催 な ど											
⑨受講料の希望額	2,670	円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)								
⑩ 講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	食育は、知育・徳育・体育の基礎となるものです。食えることは、いのちの源です。特に成長期の栄養は、生涯にわたる健康の基礎となります。沖縄県は、肉類は、全国一であるが、魚介類は全国最下位です。その中で、現在各地では、「弁当の日」が実施されていますが「とんな弁当をつくったらよいか?わからない」というニーズがあります。そこで生徒に中学生にあったお弁当づくりを身近な学校給食から紹介します。さらに生徒の意欲を高めるため、3歳児クッキングの教育実践を活かした内容から展開します。中学校の保育内容と関連しているので効果が期待できます。										
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○森山 克子(農学部 健康栄養科学コース 准教授)										
	我那覇ゆりか(学校栄養職員)										
⑫ プ ロ グ ラ ム											
実施日	時間	講座内容							担当講師		
8月12日	9:15-10:00	はじめに:講座の主旨について							森山克子他		
	10:00-10:40	理論編:学校給食からお弁当をつくろう!							森山克子他		
	10:45-13:00	実践編:学校給食からお弁当をつくろう!							森山克子他		
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	当日の調理補助の学生雇いあげ 6h×760×4人×1回=18,240円 講師謝金 20,0000円 合計 38,240円										
	合 計										38,240 円
⑭ 備 考	この公開講座は、沖縄県内で「学校給食からお弁当」を展開しているための実践研究のための食育講座でもあります。3日間の食事調査や弁当内容等についての記録を事前にお願ひしますのでご協力をお願ひします。 ・レクレーション保険は各自でご加入をお願ひします。 ・材料費、資料等のための1,000円を徴収させていただきます。										

① 講 座 名	巣立ちのための子どもシェフクラブ(中高校生)						
② コ ー ス	☒ 一般 ☐ 専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可 ☒ 否	④修了証の発行について	要 ・ 不要	⑤ 受講対象者	児童施設のこども達
⑥ 開 催 会 場	琉球大学 教育学部 本館 306教室					⑦ 募集人数	6 人
⑧ 共 催 な ど	巣立ち居住サポート 代表 下地 潤栄						
⑨受講料の希望額	0 円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	レクレーション保険等が別途かかるため				
⑩ 講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	食育は、知育・徳育・体育の基礎となるものです。食は、全てのいのちの源です。食育基本法を受けてこどものところからの食育推進に取り組む必要があります。食の責任は、家庭が第一義的にあると思われますが、家庭の諸事情により児童施設等で生活している児童・生徒もいます。児童施設での生活は、衣食住保障されています。そのことで、自分でクッキングをする機会は少ないようにも思われます。しかし、通常、高校を卒業するとその児童施設から旅立たなくてはならないようです。そこで、今回、児童施設の子どもたちを対象に、3歳児子どもシェフクラブの実績を活用した講座を開催します。自分のお弁当づくりに、チャレンジしていく講座です。 参加条件、①各児童施設ごとに参加申し込みをする ②各施設から責任を一人参加をする。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○森山 克子(農学部 健康栄養科学コース 准教授)						
	名嘉 裕子 (食育インストラクター)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
平成31年2月中旬	10:00-11:15	はじめに:講座の主旨について(カチューユ、ゆーぬくを知っていますか?)					森山克子他
平成31年2月 下旬~3月	10:00-10:40	理論編:学校給食からお弁当をつくろう!					森山克子他
	10:45-13:00	実践編:学校給食からお弁当をつくろう!					森山克子他
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	当日の調理補助の学生雇いあげ 6h×760×4人×2回=36,480円 講師謝金 10,000円 その他消耗品(印刷用紙代等):5,000円						
	合 計						51,480 円
⑭ 備 考	この企画の取りまとめは、【巣立ち居住サポート】が担当しますので、 参加申し込みは、 巣立ち居住サポート 代表 下地 潤栄 電話：090-9787-3994 アドレス：okinawa@luck.jp をお願いします。 ・受講料は無料としますが、保険料、備品、材料費等のために、1,000円を徴収します。 ・エプロン、三角布（バンダナでも可）、室内履きのご準備をお願いします。なお、希望者が多い場合は、2回開催まで可能です。						

① 講 座 名	発酵学									
② コ ー ス	☒ 一般	・ 専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	☒ 可	・ 否	④修了証の発行について	☒ 要	・ 不要	⑤ 受講対象者	琉球大学の学 生及び一般の 方
⑥ 開 催 会 場	農学部本館 207教室								⑦ 募集人数	70 人
⑧ 共 催 な ど	農学部の特別講義「発酵・生命科学特別講義Ⅰ」と同時開催									
⑨受講料の希望額	0 円		理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	特に必要なし						
⑩ 講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	発酵は人類が開発した食糧保存技術であり、長い歴史の中で時間をかけ精錬されてきた技術である。それぞれの土地の風土に合わせた技術が集約されており、そこには単なる技術を越えた文化的な色合いが濃く反映されている。さらに微生物の働きにより食味や栄養価などの機能性が向上していて、単に保存性を向上させているだけではない。そうした発酵食品の持つ特性を科学的に解説し、さらに発酵とその土地の風土や文化とのかかわりについて、文化人類学的・環境科学的側面についても解説する。									
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	東京農業大学 名誉教授 小泉武夫									
⑫ プ ロ グ ラ ム										
実施日	時間	講座内容								担当講師
2017/9/12	3, 4時限 (12:50～14:20, 14:40～16:10)	発酵と塩								小泉武夫
2017/9/13	3, 4時限 (12:50～14:20, 14:40～16:10)	発酵の型								小泉武夫
2017/9/14	3, 4時限 (12:50～14:20, 14:40～16:10)	発酵食品の機能性								小泉武夫
2017/9/18	3, 4時限 (12:50～14:20, 14:40～16:10)	醸造物の機能性								小泉武夫
2017/9/19	3, 4時限 (12:50～14:20, 14:40～16:10)	発酵と環境								小泉武夫
2017/9/20	3, 4時限 (12:50～14:20, 14:40～16:10)	世界の発酵食品1								小泉武夫
2017/9/21	2, 3, 4時限 (10:20～ 11:50, 12:50～14:20, 14:40～16:10,)	世界の発酵食品2								小泉武夫
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	講師旅費 10万円 (往復2回分)									
	合 計									10万 円
⑭ 備 考	講義の日程や内容は多少の変更があるかもしれません。9月12日に案内します。 連絡先：農学部 外山博英 (内線8805)									

① 講座名	沖縄県産農産物の調理と加工 ～ 県産品のミラクルパワー ～						
② コース	☒ 一般・ ☐ 専門	③COC事業との連携の可否	☒ 可・ ☐ 否	④修了証の発行について	☒ 要 ☐ 不要	⑤ 受講対象者	市民一般 琉大学生
⑥ 開催会場	琉球大学教育学部324教室					⑦ 募集人数	30 人
⑧ 共催など							
⑨受講料の希望額	0 円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	沖縄県職員は受講料が発生する講座をもてないため				
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	昨今の沖縄は「長寿県沖縄」といわれていたかつてのイメージはなく、健康問題が危惧されています。イキイキとした健康的な毎日を過ごすためには、バランスのとれた食生活も大事なポイントとなります。そんななか、沖縄には強い日差しを受けながらも、たくさんの栄養素を蓄えて育った島ヤサイや県産果実など素晴らしい食材が豊富にあります。これらの農産物は非常に健康効果に優れており、日々の食生活に取り入れることで生活習慣病の予防にもつながります。本講座は、これら農産物に含まれる健康効果(生理機能性)や加工利用について学んでいきます。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○ 宮城 一菜(琉球大学農学部 准教授)						
	広瀬 直人(沖縄県農業研究センター 上席主任研究員)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
9月 4日(火)	13:00～14:00	島ヤサイのミラクルパワー ～島ヤサイの健康効果を活かした実践的取り組み～					宮城一菜
9月 4日(火)	14:00～15:00	県産果実の機能性を活かした加工技術開発					広瀬直人
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	学外講師交通費(往復 西原⇄糸満市):単価1260円(片道)×2×1名分=2,520円						
	合 計						2,520 円
⑭ 備考	広瀬直人先生に対して、「講師依頼書」の発行を希望						

① 講 座 名	働き盛りのための栄養講座・クッキング part1～part3 ～仕事の活力を増進させるニュートレ～						
② コ ー ス	☒ 一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	☒ 要・不要	⑤ 受講対象者	30歳以上の 男女
⑥ 開 催 会 場	琉球大学教育学部本館309教室、306教室(給食実習室)					⑦ 募集人数	8～10人
⑧ 共 催 な ど							
⑨受講料の希望額	2,670 円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)					
⑩ 講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	現代社会では経済不況、成果主義、顧客ニーズの多様化・複雑化などを背景に長時間労働や作業の迅速化が求められる傾向にあります。働き世代の“ゆとり”が失われてきているようにも思えるこのような状況下で、気持ちや身体に疲れが溜まりがちになっていませんか？そこで、働き盛りのための栄養講座・クッキングとして、私たち栄養のスペシャリストが食生活の面から日々の「元気」をサポートするポイントを説明し、さらに、料理が苦手な方でも作れる簡単・栄養満点にできるクッキングをお教えます。明日からの 仕事の活力を増進させる方法を一緒に学び、柔軟で健康な身体とところを手に入letしましょう！ なお、この講座は、part1～part3までの3回講座ですので、受講料は初回までをお願いします。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○ 森山 克子(農学部健康栄養学科コース 准教授)						
	大西 竜子(農学部健康栄養学科コース 准教授)						
	宮城 一菜(農学部健康栄養学科コース 准教授)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
11月3日(土)	10:00～11:00	健康増進のための栄養講座					大西竜子
	11:00～12:00	健康増進のための栄養指導					宮城一菜
11月10日(土)	9:00～13:00	講義・実習:健康増進のためのしっかり朝ごはん					森山克子
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	当日の調理補助の学生雇いあげ 5h×760×2人=7,600円 その他消耗品(印刷用紙代等): 5,000円						
	合 計						12,600 円
⑭ 備 考	*「働き盛りのための栄養講座・クッキングpart1-3」の全3回を通して受講できる方。 *クッキングの材料費として、別途700円を当日徴収します。 *万一の事故に備えて、各自で任意のレクレーション保険等に参加して下さい(必須)。 *エプロン、三角巾(バンダナでも可)、室内用スリッパのご準備をお願いします。						

①講座名	音の体験教室						
②コース	一般・専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤受講対象者	一般市民
⑥開催会場	琉球大学工学部2号館2F残響室・無響室及び小会議室					⑦募集人数	50人程度
⑧共催など	沖縄音響学研究会						
⑨受講料の希望額	0円	理由 (単価表によらない場合のみ記入)					
⑩講座の開設趣旨・内容等	音響学の体験教室:非日常の音空間の体験・無響室残教室、声の分析、音声合成や認識の技術の体験						
⑪担当講師 (代表者に○をつける)	○渡嘉敷健(工学部工学科建築学コース)						
	元琉球大学工学部教授高良富夫						
⑫プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月18日	13時から18時	音響学の体験教室:非日常の音空間の体験・無響室残教室、声の分析、音声合成や認識の技術の体験					代表:渡嘉敷健
⑬必要経費希望額の積算内訳	外部講師謝金:5h×@6,230=¥31,150、測定用紙¥15,000						
	合計						35,000円
⑭備考	台風及び自然災害での日程変更						

① 講座名	ロボットをつくろう									
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	中学生			
⑥ 開催会場	工学部3号館305コンピュータ実習室						⑦ 募集人数	10 人		
⑧ 共催など										
⑨受講料の希望額	0円		理由 (単価表によらない場合のみ記入)							
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	本講座では、モーターで動くロボットを製作し、ゲームをします。基本プログラムの変更により、ロボットの動き方を変えることができます。どのような「ロボット」を作るかはあなた次第です！夏休みの自由研究としていかがでしょうか。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○ 比嘉 広樹(工学部工学科電気システム工学コース・教授)									
⑫ プ ロ グ ラ ム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
8月5日(日)	9:00～16:30	ロボット製作とその実験							比嘉広樹	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	学生アルバイト(5名):単価760円／時間×13時間×5名分=49, 400円 電子回路部品:5,500円×10名分=55,000円									
	合 計							104,400 円		
⑭ 備 考	当日、材料費として1,000円を徴収いたします。なお、 万一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等 に加入してください (必須) 。活動記録のための写真撮影を行います。撮影した写真は電気電子工学科活動報告書等に掲載される場合があります。あらかじめご了承ください。									

① 講座名	電子工作教室(ミニ四駆とLEDを題材に)									
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	小学5・6年生			
⑥ 開催会場	琉球大学工学部2号館2階226教室(電気基礎実験室)・同館2階217-2教室(ものらぼ)						⑦ 募集人数	12 人		
⑧ 共催など										
⑨受講料の希望額	0円		理由 (単価表によらない場合のみ記入)							
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	本講座は、子供たち(主に小学生高学年)を対象に、模型工作および電子工作を通して、ものづくりの楽しさを体感していただくことを目的としています。特に、半田ごて等の電子工作用道具を実際に利用していただきながら、その使用法と、簡単な電子回路について学ぶことができます。また、工作後、実際にミニ四駆サーキットにて試走させることができます。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○金城 光永 (工学部電気電子工学科准教授)									
	勢理客 勝則 (工学部技術部技術職員)									
	山下 大輔 (工学部技術部技術職員)									
	渡慶次 高也 (工学部技術部技術職員)									
	大城 諒士 (工学部技術部技術職員)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
7月28日(土)	17:00～19:00	事前準備							上記5名全員	
7月29日(日)	9:30～11:00	直前準備							〃	
〃	12:00～	受付開始							〃	
〃	12:30～17:00	LED電子工作・ミニ四駆工作(電気基礎実験室), 試走(ものらぼ)							〃	
〃	～17:30	片付け							〃	
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	・学生アルバイト(12名): 時給760円×(7(当日)+2(事前準備))時間×12名分=82,080円 ・アルバイト事前トレーニング用基板材料・加工費: 1,300円×6セット=7,800円 ・受講生用基板加工費: 300円×12セット=3,600円(材料費1,000円は受講生より徴収のため, 1セット300円) ※過去, COC事業との連携により, 那覇市(ほしぞら公民館)だけでなく国頭村や宜野座村, 離島(徳之島)での実施実績もあります。なお, 離島で開催の場合は学生アルバイト人数を絞りたいと思います。									
	合 計							93,480 円		
⑭ 備考	当日に材料費として1,000円を徴収いたします(製作した電子工作部品とミニ四駆はお持ち帰り下さい)。作業に必要な工具はこちらで用意いたしますので, 当日ご持参いただく道具等はございません。なお, 万一の事故に備えて, 各自で任意の傷害保険等に参加して下さい(必須)。また, 可能な限り保護者同伴をお願いいたします。 ※内容の詳細等に関するご質問は金城光永 (E-Mail: mitsul8@tec.u-ryukyu.ac.jp) までお問い合わせ下さい。									

① 講座名	夏休み工作教室－ホバークラフト						
② コース	☒ 一般・ ☐ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	☒ 可・ ☐ 否	④修了証の発行について	☒ 要・ ☐ 不要	⑤ 受講対象者	小学校1-3年生
⑥ 開催会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)					⑦ 募集人数	10 人
⑧ 共催など							
⑨受講料の希望額	無料	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	材料費(保険料込)として受講者から300円を徴収する。				
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや, 不思議さ等の体験を通して, 子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容:モーターを用いてホバークラフトを作ります。「気圧」って何だろう?を遊びながら勉強しましょう。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○ 勢理客 勝則(工学部技術部 技術職員)						
	玉那覇 厚雄(工学部技術部 技術専門職員)						
	名嘉 秀和(工学部技術部 技術職員)						
	大城 諒士(工学部技術部 技術職員)						
	廣瀬 孝三郎(工学部技術部 技術職員)						
	重信 華乃(工学部技術部 技術職員)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
7月28日(土)	9:30～11:00	ホバークラフトの作製					勢理客 勝則 玉那覇 厚雄 名嘉 秀和 大城 諒士 廣瀬 孝三郎 重信 華乃
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材):10,000円						
	合 計						10,000 円
⑭ 備考	当日, 材料費300円(保険料込)を徴収します。 ※熱中症対策として、各自で飲み物をご持参ください。						

① 講座名	夏休み工作教室 ― 折り紙建築									
② コース	一般・専門	③COC事業との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	小学校 5、6年生			
⑥ 開催会場	工学部 2号館 技術部室						⑦ 募集人数	8人		
⑧ 共催など										
⑨受講料の希望額	無 料		理由 (単価表によらない 場合のみ記入)							
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:もの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている。 内容:ケント紙を使って、飛び出す絵本の様な「折り紙建築」(世界遺産を中心に)を製作する。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○屋比久 祐盛(琉球大学工学部技術部(技術専門職員))									
	淵脇 秀晃(琉球大学工学部技術部(技術専門職員))									
	廣瀬孝三郎(琉球大学工学部技術部(技術職員))									
⑫ プ ロ グ ラ ム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
7月28日(土)	13:00～17:00	ケント紙を使った「折り紙建築」							上記全講師	
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	北雪ケント紙 1㍻(100枚) B4(180k)=2,160円									
	合 計								2,160 円	
⑭ 備 考	■備考/当日、材料費500円(保険料込)を徴収します。 ※熱中症対策として、各自で飲み物をご持参ください。									

① 講座名	夏休み工作教室 ― 固形燃料で走る船						
② コース	一般・専門	③COC事業との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	小学校5, 6年生
⑥ 開催会場	工学部1号館1-122室(学生学習室)					⑦ 募集人数	14 人
⑧ 共催など							
⑨受講料の希望額	無料	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	趣旨:もの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている。						
	内容:熱機関を利用したポンポン船を製作しながら、動作原理や金属加工などを学びます。						
	○野原 幸則 (琉球大学工学部技術部 技術専門職員)						
	宮城 紀良 (琉球大学工学部技術部 技術専門職員)						
	大城 成栄 (琉球大学工学部技術部 技術専門職員)						
	照屋 泰彦 (琉球大学工学部技術部 技術専門職員)						
	與那覇 敏明 (琉球大学工学部技術部 技術専門職員)						
	名嘉 海人 (琉球大学工学部技術部 技術職員)						
	山里 將史 (琉球大学工学部技術部 技術職員)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
7月28日(土)	13:00～17:00	固形燃料で走る船(ポンポン船)					上記全講師
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	銅パイプ、発泡スチロール、固形燃料等 18,000円						
	合 計						18,000 円
⑭ 備考	当日、材料費300円(保険料込)を徴収します。 ※船を走らせる時、足元が滑りやすくなりますので靴を履いて下さい。また、熱中症対策として、各自で飲み物をご持参ください。						

① 講座名	夏休み工作教室 ― 電子回路の製作									
② コース	☒ 一般 ・ 専門	③COC事業との連携の可否		可 ・ ☒ 否	④修了証の発行について		☒ 要 ・ 不要	⑤ 受講対象者	小学校5,6年生	
⑥ 開催会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)							⑦ 募集人数	14人	
⑧ 共催など										
⑨受講料の希望額	無料		理由 (単価表によらない場合のみ記入)							
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:ものの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみをを持つことを目的にしています。 内容:ブレッドボードという配線器具を使って、電子回路の実験装置を作ります。 装置はマイクロコンピュータを使用したテレビゲームまたはラジオを予定しています。詳しい内容は技術部ホームページの夏休み工作教室(http://www.tec.u-ryukyu.ac.jp/Engineering-Division/)をご覧ください。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○技術職員 山下 大輔									
	技術職員 我如古 将斗									
	技術職員 重信 華乃									
	再雇用職員 渡嘉敷 直盛									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
7月28日(土)	13:00～17:00	電子回路の製作							上記講師4名	
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	電子部品 10,000円									
	合 計							10,000 円		
⑭ 備考	・ 当日，材料費500円（保険料込）を徴収します。 ※熱中症対策として、各自で飲み物をご持参ください。									

① 講座名	夏休み工作教室－電気工事を体験しよう									
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	小学校4-6年生			
⑥ 開催会場	琉球大学工学部2号館118室(電力実験室)						⑦ 募集人数	10 人		
⑧ 共催など										
⑨受講料の希望額	無料	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	材料費(保険料込)として受講者から500円を徴収する。							
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや, 不思議さ等の体験を通して, 子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容:電気工事用工具を使用して, 7色に光るLEDを点灯させる回路を作ります。電気工事の体験を通して電気の流れる仕組みを学びます。									
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○ 勢理客 勝則(工学部技術部 技術職員)									
	渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
7月28日(土)	13:00～17:00	LEDを光らせる回路を作製							勢理客 勝則 渡慶次 高也	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材):10, 000円									
	合 計									10,000 円
⑭ 備考	当日, 材料費500円(保険料込)を徴収します。 ※熱中症対策として、各自で飲み物をご持参ください。									

① 講座名	夏休み工作教室 - デスクトップPC組み立て・LANケーブル作製体験 -						
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	中学生
⑥ 開催会場	工学部2号館217-2号室「ものラボ」					⑦ 募集人数	8 人
⑧ 共催など	なし						
⑨受講料の希望額	無料	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)					
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	趣旨:既に普及しているPCについて、パーツからの組み立て体験・周辺機器(LANケーブル)の作製・それらの説明を聞いてもらうことで、より身近な技術に興味を持ってもらうことを目的としています。 内容:デスクトップPCのパーツを自分で組み上げる「自作PC」の体験と、フリーOSのインストール体験、LANケーブルの作製体験をしてもらいます。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○ 翁長 竜盛(琉球大学工学部技術部 技術職員)						
	名嘉 秀和(琉球大学工学部技術部 技術職員)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
7月28日(土)	13:00～17:00	自作PCの組み立て・OSのインストール・LANケーブル自作作業					翁長 竜盛 名嘉 秀和
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	CPUグリス 1個500円 x 10 = 5,000円 エアダスター 1本1000円 x 10 = 10,000円 精密ドライバーセット 1個1,500円 x 10 = 15,000円 LANケーブルロール 1個(100m) 6,000円 RJ45コネクタ 1セット(100個入り) 5,000円 ラテックス手袋 1箱(100枚入り) 1,500円 立ち上げの為、必要備品が多くなっている。						
	合 計						42,500 円
⑭ 備考	当日、保険費用200円を徴収します。 ※熱中症対策として、各自で飲み物をご持参ください。						

① 講座名	夏休み工作教室－ミラクル万華鏡									
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	小学校1-3年生			
⑥ 開催会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)						⑦ 募集人数	10 人		
⑧ 共催など										
⑨受講料の希望額	無料	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	材料費(保険料込)として受講者から300円を徴収する。							
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや, 不思議さ等の体験を通して, 子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容:偏光板を用いて万華鏡を作ります。「ひかり(光)はなみ(波)である」ことを遊びながら勉強しましょう。									
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○ 勢理客 勝則(工学部技術部 技術職員)									
	大城 諒士(工学部技術部 技術職員)									
	渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)									
	山下 大輔(工学部技術部 技術職員)									
⑫ プログラム										
実施日	時間	講座内容							担当講師	
8月4日(土)	9:30～11:00	ミラクル万華鏡の作製							勢理客 勝則 大城 諒士 山下 大輔 渡慶次 高也	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材):5,000円									
	合 計								5,000 円	
⑭ 備考	当日, 材料費300円(保険料込)を徴収します。 ※熱中症対策として、各自で飲み物をご持参ください。									

① 講座名	夏休み工作教室ー合金を溶かして風鈴づくり						
② コース	☒ 一般・ ☐ 専門	③COC事業との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	☒ 要 ☐ 不要	⑤ 受講対象者	小学5・6年生
⑥ 開催会場	琉球大学 工学部 附属工作工場内					⑦ 募集人数	8人
⑧ 共催など							
⑨受講料の希望額	無料	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	ただし、材料費等(保険料込)300円を頂きます。				
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:もの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている。 内容:鋳物砂で作った型の中に、溶けた合金(比較的低融点の金属)を流し込み風鈴を作る。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○ 大城成栄 技術専門職員		宮城紀良 技術専門職員				
	照屋泰彦 技術専門職員		與那覇敏明 技術専門職員				
	山里將史 技術職員		我如古将斗 技術職員				
	重信華乃 技術職員						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
2018年	13:00～						
	17:00	合金を溶かして風鈴作り					上記全講師
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	ホワイトメタル(融点300℃程度の低融点合金)等 20, 000円						
	合 計						20,000 円
⑭ 備考	当日、材料費等300円(保険料込)を徴収します。 ※当日は床上の作業がありますのでズボン着用、鋳物砂で汚れてもいい服装をお願いします。 熱中症対策として、各自で飲み物をご持参ください。						

① 講座名	夏休み工作教室－まわりつつけるコマ						
② コース	一般・専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	小学校4-6年生
⑥ 開催会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)					⑦ 募集人数	10 人
⑧ 共催など							
⑨受講料の希望額	無料	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	材料費(保険料込)として受講者から500円を徴収する。				
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや, 不思議さ等の体験を通して, 子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容:偏光板を用いて万華鏡を作ります。「ひかり(光)はなみ(波)である」ことを遊びながら勉強しましょう。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○ 勢理客 勝則(工学部技術部 技術職員)						
	長田 克之(工学部技術部 技術専門職員)						
	玉那覇 厚雄(工学部技術部 技術専門職員)						
	淵脇 秀晃(工学部技術部 技術専門職員)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月4日(土)	13:00～17:00	電磁石, 磁石コマの作製					勢理客 勝則 長田 克之 玉那覇 厚雄 淵脇 秀晃
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材):10, 000円						
	合 計						10,000 円
⑭ 備考	当日, 材料費500円(保険料込)を徴収します。 ※熱中症対策として、各自で飲み物をご持参ください。						

① 講座名	夏休み工作教室 ー紙コップで作るポータブルスピーカーー												
② コース	☒ 一般	・	専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	☒ 可	・	否	④修了証の発行について	☒ 要	・	不要	⑤ 受講対象者	中学生
⑥ 開催会場	工学部2号館217-2号室「ものラボ」										⑦ 募集人数	8人	
⑧ 共催など	なし												
⑨受講料の希望額	無料		理由 (単価表によらない 場合のみ記入)										
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや, 不思議さ等の体験を通して, 子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている. 内容:身近な紙コップを使用して, スマートフォン等に接続し音楽を楽しむことのできるアンプ内蔵スピーカーを製作します.												
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○渡慶次 高也(琉球大学工学部技術部 技術職員)												
	翁長 竜盛(琉球大学工学部技術部 技術職員)												
	大城 諒士(琉球大学工学部技術部 技術職員)												
⑫ プログラム													
実施日	時間	講座内容										担当講師	
8月4日(土)	13:00~17:00	紙コップを使用したアンプ内蔵スピーカーの製作										上記全講師	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	消耗品等(材料及び指導するにあたり必要な資材):15,000円												
	合 計										15,000 円		
⑭ 備考	・ 当日, 材料費200円(保険料込)を徴収します. ※熱中症対策として, 各自で飲み物をご持参ください。												

① 講座名	真空管アンプの製作						
② コース	☒ 一般・ ☐ 専門	③COC事業の後継事業(予定)との連携の可否	可・ ☒ 否	④修了証の発行について	☒ 要・ ☐ 不要	⑤ 受講対象者	一般市民
⑥ 開催会場	琉球大学工学部2号館226室(実験室)					⑦ 募集人数	8人
⑧ 共催など	なし						
⑨受講料の希望額	0円	理由 (単価表によらない場合のみ記入)	材料費として徴収するため				
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	現在の電子機器には、半導体素子が使われています。半導体素子が使われる以前は、真空管が使用されていました。オーディオアンプでは今でも人気のある真空管、その構造や動作原理、回路について学び(座学)、真空管の測定実験を行い回路を設計します(実習)。その後2週でステレオアンプを製作します。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	○ 長田克之 (工学部技術部 技術専門職員)						
	玉那覇厚雄(工学部技術部 技術専門職員)						
	伊舎堂義昭(元工学部技術部技術長)						
⑫ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
9月1日(土)	13:00～17:00	真空管の原理、回路について(座学)					上記3名
9月8日(土)	13:00～17:00	測定実験及び回路の設計(実習)					上記3名
9月15日(土)	13:00～17:00	アンプの製作					上記3名
9月22日(土)	13:00～17:00	アンプの製作、試聴、特性測定					上記3名
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	◎真空管アンプ試作部品及びその他消耗品(15,000円) 内訳・真空管(2本):3,000円 ・ケース:1,000円 ・電源トランス(1個):2,000円 ・コテ先及びその他消耗品:3,000円 ・出力トランス(2個):3,000円 ・抵抗、コンデンサー、ダイオード:1,500円 ・スイッチ、RCAジャック、ヒューズホルダ:1,500円						
	合 計						15,000 円
⑭ 備考	材料費として第1回の9月1日(土)に11,000円を徴収致します。 問合先:工学部技術部 長田克之(nagata@eee.u-ryukyu.ac.jp) 電話(098)895-8647 申込期間:2018年6月1日(金)～8月10日(金) ※申込期間内でも定員に達し次第締め切ります。						

① 講座名	クリスマスイルミネーション工作教室 ―メロディ付クリスマスツリー―												
② コース	☒ 一般	・	専門	③COC事業の後継事業 (予定)との連携の可否	☒ 可	・	否	④修了証の発行について	☒ 要	・	不要	⑤ 受講対象者	小学生高学年
⑥ 開催会場	工学部2号館217-2号室「ものラボ」										⑦ 募集人数	8人	
⑧ 共催など	なし												
⑨受講料の希望額	無料		理由 (単価表によらない 場合のみ記入)										
⑩ 講座の開設 趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや, 不思議さ等の体験を通して, 子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている. 内容:メロディICやLEDを使用し, 音楽が流れてLEDが光るクリスマスツリーを製作する.												
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	○渡慶次 高也(琉球大学工学部技術部 技術職員)												
	山下 大輔(琉球大学工学部技術部 技術職員)												
	山里 將史(琉球大学工学部技術部 技術職員)												
	廣瀬 孝三郎(琉球大学工学部技術部 技術職員)												
	重信 華乃(琉球大学工学部技術部 技術職員)												
⑫ プログラム													
実施日	時間	講座内容										担当講師	
2018年12月8日(土)	13:00～17:00	メロディ付クリスマスツリーの製作										上記全講師	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	消耗品等(材料及び指導するにあたり必要な資材):10,000円												
	合 計										10,000 円		
⑭ 備考	当日, 材料費500円 (保険料込) を徴収します.												

① 講 座 名	シニアのための健康サッカー講座						
② コ ー ス	一般・専門	③COC事業との連携の可否	可・否	④修了証の発行について	要・不要	⑤ 受講対象者	40歳以上のサッカー愛好者
⑥ 開 催 会 場	学 内（琉球大学サッカー場）					⑦ 募集人数	30 人
⑧ 共 催 な ど	琉球大学（ 共催;琉大女子サッカー部、沖縄県シニアサッカー連盟 ）						
⑨受講料の希望額	0 円	理由 (単価表によらない 場合のみ記入)	生涯スポーツを支援するため				
⑩ 講 座 の 開 設 趣 旨 ・ 内 容 等	中高年の健康づくりの一環として40歳以上のサッカー愛好者をつどい、生涯スポーツの習慣化を図る。毎週2回(水、金)グランドにてサッカーの仲間とゲームを楽しみ、語り合う機会を提供し健康づくりを第一義とする。交流のためのケーム運営は自主運営とする。						
⑪ 担当講師 (代表者に ○をつける)	姜 東植○						
	笹澤 吉明						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8/10,15,17,22,24,29,31	19:00-21:00	交流試合およびケーム運営					姜 東植 笹澤 吉明
9/5,7,12,14,19,21,26,28,10/3,5,12/2	19:00-21:00	交流試合およびケーム運営					姜 東植 笹澤 吉明
1/2,4,2/6,8,13,15,20,22,27	19:00-21:00	交流試合およびケーム運営					姜 東植 笹澤 吉明
3/1,6,8,13,15,20,22,27,29,4/3,5	19:00-21:00	交流試合およびケーム運営					姜 東植 笹澤 吉明
⑬ 必要経費希望額の 積 算 内 訳	特になし						
	合 計						円
⑭ 備 考	■共催／琉大女子サッカー部、沖縄県シニアサッカー連盟 ■備考／万一の事故に備えて各自で任意の傷害保険等に参加してください。(必須)						

●専門コース											
新規・継続	公開講座番号	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講者数	受講料	対象者	開催期間	会場	備考
継続講座	1	医学部	遠藤 由美子(医学部保健学科 准教授)	看護職の研究力アップ講座	15	11	¥3,180	臨床看護研究を実施予定または実施中の看護職	初回開講日5月20日(土) 5月、6月、9月、11月、1月(土曜日)	琉球大学医学部保健学科棟213室(2階)	H28年度も開講
継続講座	5	法学部	伊藤 義徳(法学部 准教授)	「支援者」のためのマインドフルネス認知療法	15	14	¥15,000	教育・医療・福祉等の現場で人の支援に携わる方	9月5日(火)・6日(水)～ 12月26日(火)	教育学部105室	H28年度も開講
継続講座	10	観光産業科学部	荒川雅志(琉球大学観光産業科学部教授)	ヘルスツーリズム地域創生フォーラム ～次世代ヘルスケア産業創出とウェルネスまちづくり～	60	63	無料	ヘルスケア産業従事者、観光産業従事者、行政職	9月開講予定 7月21日(金)	琉球大学法文新棟215教室	サテライト配信予定
新規講座	11	観光産業科学部	荒川雅志(琉球大学観光産業科学部教授)	美と健康医療の産業創造フォーラムOKINAWA	100	確認中	無料	ヘルスケア産業従事者、観光産業従事者、行政職	7月開講予定	琉球大学法文新棟215教室	サテライト配信予定
継続講座	35	農学部	森山 克子(琉球大学農学部健康栄養科学コース 准教授) 堀屋 誠子(琉球大学教育学部 附属小学校 栄養教諭)	栄養教諭等のための食育推進の実践講座	10	0(中止)	¥0	栄養教諭、学校栄養職員	5月開始 第2水曜日、全9回	琉球大学教育学部本館306教室	H28年度も開講 ※受講者なしのため、担当教員の申出による中止。
継続講座	61	工学部	比嘉 晃(工学部電気電子工学科 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(筆記・上期)	20	40	¥3,700 (大学生は¥1,850)	市民一般並びに工学系大学生	5月6日(土)～ 6月3日(土)	琉球大学工学部4号館111室	H28年度も開講
継続講座	62	工学部	比嘉 晃(工学部電気電子工学科 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(筆記・下期)	20	5	¥3,700 (大学生は¥1,850)	市民一般並びに工学系大学生	8月26日(土)～ 9月23日(土)	琉球大学工学部4号館111室	H28年度も開講
継続講座	63	工学部	比嘉 晃(工学部電気電子工学科 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(技能・上期)	20	44	¥4,730 (大学生は¥2,300)	市民一般並びに工学系大学生	6月10日(土)～ 7月22日(土)	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)	H28年度も開講
継続講座	64	工学部	比嘉 晃(工学部電気電子工学科 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(技能・下期)	20	9	¥4,730 (大学生は¥2,300)	市民一般並びに工学系大学生	10月7日(土)～ 11月25日(土)	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)	H28年度も開講
継続講座	65	保健管理センター	古川 卓(保健管理センター教授)	心理リハビリテーション・ボランティア養成講座	50	99	¥0	教育・福祉・医療従事者、障がい児(者)の家族、学生等	4月22日(土)	琉球大学大学会館3階 特別会議室	各サテライトキャンパスへ配信 H28年度も開講
継続講座	66	保健管理センター	古川 卓(保健管理センター教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 石垣島	(有料)10人 (無料)30人	48	¥5,000	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	7月15日(土)～ 7月17日(月)	NPO法人 ちゅらハウス	八重山にて実施 H28年度も開講
継続講座	67	保健管理センター	古川 卓(保健管理センター教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 宮古島	(有料)12人 (無料)30人	54	¥5,000	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	7月26日(水)～ 7月28日(金)	沖縄県立宮古特別支援学校(交渉中)	宮古にて実施 H28年度も開講
継続講座	68	保健管理センター	古川 卓(保健管理センター教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 名護	(有料)10人 (無料)20人	延期	¥2,000	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	10月21日(土)、10月22日(日)・ 3月10日(土)、11日(日)(予定)	沖縄県立名護青少年の家(予定)	H28年度も開講 ※台風により延期
継続講座	69	保健管理センター	古川 卓(保健管理センター教授)	心理リハビリテーション(動作法)Ⅰ	(有料)5人 (無料)10人	15	¥9,000	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	5月15日(月)～ 7月4日(木)・24日(月)	琉球大学保健管理センター	H28年度も開講
継続講座	70	保健管理センター	古川 卓(保健管理センター教授)	心理リハビリテーション(動作法)Ⅱ	(有料)5人 (無料)10人	14	¥9,000	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	10月16日(月)～ 12月18日(月)	琉球大学保健管理センター	H28年度も開講
新規講座	71	保健管理センター	古川 卓(保健管理センター教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法) 出前講座 in 鏡が丘特別支援学校	20	22	無料	特別支援学校教員、児童生徒	11月9日、1月 (調整中)	沖縄県立鏡が丘特別支援学校	H28年度も開講
継続講座	72	保健管理センター	古川 卓(保健管理センター教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法) 出前講座 in 那覇特別支援学校	20	54	無料	特別支援学校教員、児童生徒	5月26日(金)、9月25日(月)、 2月2日(金)	沖縄県立那覇特別支援学校	H28年度も開講
継続講座	73	保健管理センター	古川 卓(保健管理センター教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法) 出前講座 in 泡瀬特別支援学校	20	15	無料	特別支援学校教員、児童生徒	11月、1月 (調整中)	沖縄県立泡瀬特別支援学校	H28年度も開講
※専門コース:18講座											

●一般コース											
新規・継続	公開講座番号	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講者数	受講料	対象者	開催期間	会場	備考
継続講座	2	医学部	砂川 洋子(琉球大学医学部 成人・がん看護学・教授)	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際	50	23	無料	市民一般	8月19日(土)	社会医療法人に仁愛会 浦添総合病院 研修室	H28年度も開講
継続講座	3	医学部	尾尻 義彦(医学部保健学科 助教)	市民ランナーのためのランニング科学講座	50	36	無料	市民一般	未定 8月5日(土)、9月2日(土)	琉球大学生涯学習教育研究センター並びに各サテライト(那覇、宮古、石垣、久米島、国頭、大宜見、名護)	琉球大学生涯学習教育研究センターから各サテライトへ配信
継続講座	4	医学部	尾尻 義彦(医学部保健学科 助教)	市民ランナーのためのランニング科学講座 in 久米島	50	中止	無料	市民一般	未定	琉球大学久米島サテライトキャンパス	出前講座(久米島サテライトキャンパス) 担当教員の申出による中止。
新規講座	6	法学部	遠藤 光男(法学部人間科学科 教授)	『沖縄』を心理学する	80	11	無料	一般	10月1日(日)	共通教育棟1号館118教室並びに各サテライト(那覇、宮古、石垣、久米島、国頭、大宜見、名護)	共通教育棟1号館118教室から各サテライトへ配信
継続講座	7	観光産業科学部	大島 順子(観光産業科学部観光科学科 准教授)	ヤンバルクイナを育む畜産の里・国頭村楚洲で学ぶ	20	0(中止)	¥3,180	市民一般(中学生以上対象)	5月20日(土)～5月21日(日)	琉球大学「与那フィールド」、国頭村宇楚洲公民館及び楚洲内の畜産牧場	H28年度も開講 ※ワークショップ実施不可とのことから、担当教員の申出による中止。
新規講座	8	観光産業科学部	大島 順子(観光産業科学部観光科学科 准教授)	やんばるで学ぶ世界自然遺産学習	20	5	¥3,180	市民一般(高校生以上対象)、 教育関係者	9月9日(土)・ 2月17日(土)	琉球大学「与那フィールド」、国頭村内やんばるの森	H28年度も開講
継続講座	9	観光産業科学部	大島 順子(観光産業科学部観光科学科 准教授)	やんばる山学校	20	10	¥3,180	市民一般(中学生以上対象)	11月25日(土)～11月26日(日)	琉球大学「与那フィールド」、国頭村森林公園及び国頭村内の森林	H28年度も開講
新規講座	12	観光産業科学部	荒川雅志(琉球大学観光産業科学部教授)	生涯活躍のまちづくり人材育成講座ーシニア検定講座ー ～福祉・地域包括ケアシステムにおける新たな人材育成～	30	7	無料	市民一般	10月開講予定 12月20日(水)、21日(木)	琉球大学サテライトキャンパス那覇会場 地域国際学習センター301講義室	出前講座 那覇サテライトキャンパス
新規講座	13	観光産業科学部	荒川雅志(琉球大学観光産業科学部教授)	生涯活躍のまちづくり人材育成講座ーシニア検定講座ー in 石垣島 ～福祉・地域包括ケアシステムにおける新たな人材育成～	30	9	無料	市民一般	10月開講予定 12月21日(木)、23日(金)	八重山サテライトキャンパス	出前講座 年度途中にて追加 八重山サテライトキャンパス
継続講座	14	教育学部	松本 由香(教育学部 教授)	オリジナル藍染めワンピスづくりにトライ!	6	6	¥3,180	一般・学生	9月30日(土)～10月1日(日)	琉球大学教育学部333教室	H28年度も開講
継続講座	15	教育学部	清水 洋一(教育学部技術教育教室 教授)	おもちゃ作りを通して学ぶ地球温暖化防止親子講座	10組 (20人)	13	無料	小学校4～6年生 と保護者	7月23日(日)	琉球大学教育学部102教室	H28年度も開講
継続講座	16	教育学部	笹澤 吉明(琉球大学教育学部 准教授)	琉大生がサッカーと勉強を教えます!	100	126	2000円 (兄弟で複数の場合2人目から1000円)	小学生	5月～3月	琉球大学サッカー場及び講義室(夏季は西原きらきらビーチの時もある)	H28年度も開講
継続講座	17	教育学部	田中 敦士(教育学部障害児教育学 准教授)	琉球大学と琉球文化体験	80	60	無料	知的障害のある高校生	1月17日(水)	50周年記念館	H28年度も開講
継続講座	18	教育学部	浦崎 武(教育学部附属発達支援教育実践センター教授)	気になる子どもの理解・子育て・支援ー日常・保育・教育のトータルな支援ー in 八重山	60	30	無料	一般・教員・保育士	6月11日(日)	八重山サテライトキャンパス、	出前講座 八重山サテライトキャンパス
継続講座	19			気になる子どもの理解・子育て・支援ー日常・保育・教育のトータルな支援ー in 宮古	60	15	無料	一般・教員・保育士	7月2日(日)	宮古サテライトキャンパス	出前講座、サテライト配信講座 宮古島サテライトキャンパス
新規講座	20	教育学部	下地 敏洋(琉球大学大学院教育学研究科 教授)	老年学への招待ー主観的幸福感をいかに高めるかー	25	6	無料	一般市民	7月1日(土)、7月8日(土)、 7月22日(土)	琉球大学生涯学習教育研究センター301講義室	サテライト配信予定
新規講座	21	教育学部	藏満 逸司(琉球大学大学院教育学研究科 准教授)	琉球切手で学ぶ沖縄	20	9	無料	市民一般・教員	2月3日(土)	琉球大学 (会場未定) 地域国際学習センター301講義室	
継続講座	22	教育学部	三輪 一哉(琉球大学教育学部生涯健康教育コース 教授)	児童・生徒・指導者のためのハンドボール教室	200	実施中	無料	ハンドボール愛好者	4月8日(土)～3月11日(日)	琉球大学第一体育館	H28年度も開講
継続講座	23	理学部	前野 昌弘(理学部物質地球科学科物理系准教授)	琉大生による理科実験教室	100	198	無料	小中高校生、一般	12月23日(土)	琉球大学理系複合棟	H28年度も開講
継続講座	24	理学部	前野 昌弘(理学部物質地球科学科物理系准教授)	～物理の魅力を教えます2017～	50	65	無料	中学生以上	8月6日(日)	琉球大学理系複合棟	H28年度も開講
継続講座	25	理学部	漢那 洋子(理学部 海洋自然科学科 化学系 准教授)	理系女子・理系男子の世界ー進路選択とキャリア形成ー	20	0(中止)	無料	一般(高校・大学生、指導者・保護者も可)	12月16日(土)	琉球大学理系複合棟207講義室(予定)	H28年度も開講 ※開講したが、受講者の出席がなかった
継続講座	26	理学部	中川 鉄水(理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)	水素のチカラ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～	30	11	無料	市民一般・小～高校生	4月～12月6月4日(日) (具体的な日時は未定)	地域国際学習センター301講義室	出前講座 年度途中にて追加 各サテライトキャンパスにて実施予定
継続講座	27	理学部	中川 鉄水(理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)	水素のチカラ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～ in 名桜大学	30	4	無料	市民一般・小～高校生	1月21日(日)	名桜大学 総合研究所 研修会議室	出前講座 年度途中にて追加
継続講座	28	理学部	中川 鉄水(理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)	水素のチカラ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～ in 宮古サテライトキャンパス	30	15	無料	市民一般・小～高校生	1月28日(日)	宮古サテライトキャンパス	出前講座
継続講座	29	理学部	堀内 敬三(理学部 海洋自然科学科 化学系 教授)	化学への招待	50	11	無料	一般・中高生	7月15日(土)	琉球大学理学部複合棟207室	サテライト配信
新規講座	30	理学部	堀内 敬三(理学部 海洋自然科学科 化学系 教授)	化学への招待2ーソフトマターと超分子の化学ー	50	2	無料	一般 (高校生以上)	7月22日(土)	琉球大学 共通教育棟1号館118教室	サテライト配信
新規講座	31	理学部	須田 彰一郎(理学部海洋自然科学科 生物系 教授)	池のプランクトンの観察～身近な微生物の世界を覗いてみよう	15	未開講	¥1,000	中学生以上	3月3日(土)	理学部棟4階427室 および千原池	H27年度に開講実績あり
新規講座	32	理学部	中川 鉄水(琉球大学理学部海洋自然科学科化学系助教)	身近な化学 Part ①	30	25	無料	高校生以下	5月8月19日(土) (具体的な日時は未定)	琉球大学内 共通教育棟1号館118教室 (会場未定)	サテライト配信
新規講座	33	理学部	中川 鉄水(琉球大学理学部海洋自然科学科化学系助教)	身近な化学 Part ②	30	35	無料	高校生以下	8月12月10日(日) (具体的な日時は未定)	琉球大学内 地域国際学習センター301講義室 (会場未定)	サテライト配信
新規講座	34	理学部	中川 鉄水(琉球大学理学部海洋自然科学科化学系助教)	身近な化学 Part ③	30	26	無料	高校生以下	10月8月3日(土) (具体的な日時は未定)	琉球大学内 地域国際学習センター301講義室 (会場未定)	サテライト配信
継続講座	36	農学部	森山 克子(琉球大学農学部健康栄養科学コース 准教授)	包丁をもてない女子のためのビューティライフクラブ	5	1	¥3,000	ビューティをめざす包丁をもてない女子	5月～7月の第二・第四金曜日 初回のみ第三木曜日 5月18日(木)	琉球大学教育学部本館306教室 他	H28年度も開講
継続講座	37	農学部	森山 克子(琉球大学農学部健康栄養科学コース 准教授)	巣立のための子どもシェフクラブ(中高校生)	6	中止	無料 (ただし、材料費の徴収あり)	児童施設のこども達	平成29年2月中旬～3月(3回)	琉球大学教育学部本館306教室	H28年度も開講 ※担当教員の申出による中止。
継続講座	38	農学部	森山 克子(琉球大学農学部健康栄養科学コース 准教授)	3歳児からの子どもシェフクラブ(中学生・第2期生) ラクラク簡単栄養満点! 部活動生徒のお弁当づくり!	8	0(中止)	¥2,000	中学生	8月12日(木)	琉球大学教育学部本館306教室	H28年度も開講 ※開催したが、受講者の出席がなかった。

新規・継続	公開講座番号	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講者数	受講料	対象者	開催期間	会場	備考
継続講座	39	農学部	森山 克子(琉球大学農学部健康栄養科学コース 准教授)	3歳児のための子どもシェフクラブ	6	12	¥3,000	3歳児とその保護者	5月7日 7日 28日(日) 、6月4日 4日 11日(日) 7月2日 2日 9日(日) 、8月11日(金)	琉球大学教育学部本館306教室	H28年度も開講
継続講座	40	農学部	森山 克子(琉球大学農学部健康栄養科学コース 准教授)	シニアのための肥満を防ぐ栄養講座・クッキング part1～3	8～10	4	¥2,670	60歳以上の男女	11月18日(土)、11月25日(土)	琉球大学教育学部本館306教室、309教室	今年度は受講者なしのため中止
継続講座	41	農学部	宮城 一菜(農学部 講師)	沖縄県産農産物の調理と加工～県産品のミラクルパワー～	30～40	21	無料	市民一般 琉球大学学生	9月19日(火)	琉球大学農学部209教室	H28年度も開講
継続講座	42	農学部	鹿内 健志(農学部地域農業工学科 准教授)	発酵食品学	20	21	¥1,000	市民一般	8月19日(土)	琉球大学農学部 パソコン実習室(222室)	H28年度も開講
継続講座	43	農学部	外山 博英(農学部 教授)	発酵学	70	50	無料	市民一般	9月14日(木) ～ 9月22日(金)	農学部本館207教室	H28年度も開講
新規講座	44	農学部	外山 博英(農学部 教授)	発酵食品学	70	36	¥10,000	市民一般	10月7日(土) ～ 12月14日 14日 23日(土)	農学部本館207教室	H27年度に開講実績あり
継続講座	45	工学部	金城 光永(工学部電気電子工学科 准教授)	電子工作教室(ミニ四駆とLEDを題材に)	12	11	無料	小学5・6年生	7月23日(日)	琉球大学工学部2号館2階226教室 (電気基礎実験室)	H28年度も開講
継続講座	46	工学部	宇座 俊吉(琉球大学工学部技術部 技術長) 厘比久 祐盛(琉球大学工学部技術部 技術専門職員)	夏休み工作教室 ― 折り紙建築	8	8	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	小学5、6年生	7月29日(土)	工学部 2号館 技術部室	H28年度も開講
継続講座	47	工学部	宇座 俊吉(琉球大学工学部技術部 技術長) 野原 幸則(琉球大学工学部技術部 技術専門職員)	夏休み工作教室 ― 固形燃料で走る船	14	13	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	小学5、6年生	7月29日(土)	工学部1号館1-122室 (学生学習室)	H28年度も開講
継続講座	48	工学部	山下 大輔(工学部 技術職員)	夏休み工作教室 ― 電子回路の製作	14	13	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	小学5、6年生	7月29日(土)	琉球大学工学部2号館2階226教室 (電気基礎実験室)	H28年度も開講
新規講座	49	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部教務職員)	夏休み工作教室 ― ミラクル万華鏡	15	13	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	小学1～3年生	7月29日(土)	琉球大学工学部2号館2階226教室 (電気基礎実験室)	
継続講座	50	工学部	渡慶次 高也(工学部 技術職員)	夏休み工作教室 ― 紙コップで作るポータブルスピーカー	8	6	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	中学生	8月5日(土)	琉球大学工学部2号館118教室(電力実験室)	H28年度も開講
継続講座	51	工学部	大城 成栄(工学部 技術専門職員)	夏休み工作教室 ― 合金を溶かして風鈴づくり	8	6	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	小学5、6年生	8月5日(土)	琉球大学工学部 附属工作工場内	H28年度も開講
継続講座	52	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部教務職員)	夏休み工作教室 ― まわりつづけるコマ	10	10	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	小学5、6年生	8月5日(土)	琉球大学工学部2号館2階226教室 (電気基礎実験室)	H28年度も開講
継続講座	53	工学部	長田 克之(工学部技術部 技術専門職員)	真空管アンプの製作	8	5	無 料 (ただし、材料費の徴収あり)	一般市民	9月9日(土)、16日(土)、23日(土)	琉球大学工学部2号館226室(実験室)	H28年度も開講
継続講座	54	工学部	姜 東植(工学部 准教授)	シニアのための健康サッカー講座	30	実施中	無料	40歳以上のサッカー愛好者	8月16日～3月30日	琉球大学サッカー場	H28年度も開講
新規講座	55	農学部	金城 和俊(農学部 亜熱帯農林環境科学科 准教授)	マングローブを知ってみよう	20	24	無料	小学校5・6年生	5月16日、6月20日、7月18日	石垣市立野底小学校	※年度途中追加
新規講座	56	農学部	金城 和俊(農学部 亜熱帯農林環境科学科 准教授)	ダンボールでゴミから資源に	20	24	無料	小学校3・4年生	5月16日、6月20日、7月18日	石垣市立野底小学校	※年度途中追加
新規講座	57	地域連携推進機構	小島 肇(地域連携企画室 特命准教授 准教授)	社会人のためのオンライン活用講座	20 (各20人)	37	無料	市民一般	4月14日(金) ～ 6月9日(金)	那覇サテライトキャンパス	※年度途中追加 那覇サテライトキャンパスにて実施 各サテライトキャンパスに配信予定
新規講座	58	医学部付属病院	清水 雄介(医学部付属病院形成外科 特命教授)	形成外科での「かたらの治療」	100	50	無料	市民一般	8月19日(土)	沖縄県立博物館・美術館 講座室	※年度途中追加
新規講座	59	地域連携推進機構	空閑 睦子(生涯学習推進部門 特命准教授)	思考力を鍛えて文章力をアップ～情報発信の基礎力を高めよう～	12	12	無料	市民一般	11月18日(土)	琉球大学生涯学習教育研究センター 301講義室	※年度途中追加
新規講座	60	地域連携推進機構	空閑 睦子(生涯学習推進部門 特命准教授)	『編集者の情報収集術』を教えます	20	26	無料	市民一般	11月18日(土)	琉球大学生涯学習教育研究センター 301講義室	※年度途中追加
※一般コース:65講座											

	募集人員	受講者数	収入	
※合計 73講座(中止講座含む)	2,552人	1668人	¥1,307,864	※平成30年2月1日時点

【参考】過去3年間の公開講座実施状況			
	件数	受講者数(人)	収入額
平成28年度	109	3,489	¥1,007,270
平成27年度	55	3,623	¥1,155,150
平成26年度	58	3,828	¥1,248,880

平成30年度公開授業一覧

※黄色セルはサテライト配信予定

授業 番号	分類	授業科目名	学期	曜日 時限	開講学部	担当教員	担当教員の所属学部・学科等
1	共通教育等科目	現代社会のしくみ	前学期	木2	人文社会学部	野入 直美	人文社会学部人間社会学科 准教授
2	共通教育等科目	平和論	前学期	火4	人文社会学部	星野 英一 他	人文社会学部国際法制学科 教授 他
3	共通教育等科目	環境と文学	前学期	火2	国際地域創造学部	山城 新	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
4	共通教育等科目	総合環境学概論	前学期	金3	国際地域創造学部	山城 新 他	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授 他
5	共通教育等科目	環境エネルギー計画	前学期	火5	工学部	堤 純一郎	工学部工学科 教授
6	共通教育等科目	運動・スポーツ科学演習(マラソン)	前学期	月5	医学部	尾尻 義彦	医学部保健学科 助教
7	共通教育等科目	海洋地質学	前学期	月3	理学部	古川 雅英	理学部物質地球科学科 教授
8	共通教育等科目	海洋の科学	前学期	火1	理学部	松本 剛	理学部物質地球科学科 教授
9	共通教育等科目	海洋の科学	前学期	水7	理学部	松本 剛	理学部物質地球科学科 教授
10	共通教育等科目	天体観測を通して学ぶ宇宙	前学期	集中講義	理学部	松本 剛	理学部物質地球科学科 教授
11	共通教育等科目	インドネシア語基礎Ⅰ	前学期	火・木6	共通教育	與那城 常和子	共通教育外国語科目 非常勤講師
12	共通教育等科目	インテンシブドイツ語Ⅰ	前学期	火・金6	共通教育	Till Webar、吉井 巧一	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授 他
13	共通教育等科目	インテンシブフランス語Ⅰ	前学期	火・金2	国際地域創造学部	デルバール・フランク、宮里 厚子	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授 他
14	共通教育等科目	フランス語会話入門Ⅰ	前学期	火3	国際地域創造学部	デルバール・フランク	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授
15	共通教育等科目	インテンシブフランス語Ⅲ	前学期	木2	国際地域創造学部	宮里 厚子	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授
16	共通教育等科目	インテンシブスペイン語Ⅰ	前学期	火・金2	国際地域創造学部	酒井アルベルト清、福地恭子	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授 他
17	共通教育等科目	食料・農村・環境概論	前学期	木6	農学部	中野 拓治	農学部地域農業工学科 教授
18	共通教育等科目	沖縄の農業・農村と農地水環境	前学期	木2	農学部	中野 拓治	農学部地域農業工学科 教授
19	共通教育等科目	情報科学演習	前学期	木1	理学部	中川 鉄水	理学部海洋自然科学科 助教
20	共通教育等科目	物理学Ⅰ	前学期	金2	理学部	福岡 毅	理学部物質地球科学科 教授
21	共通教育等科目	化学Ⅰ	前学期	月5	理学部	漢那 洋子	理学部海洋自然科学科 准教授
22	共通教育等科目	物理学入門Ⅰ	前学期	火2	理学部	安田 千寿	理学部物質地球科学科 准教授
23	共通教育等科目	地域企業(自治体)お題解決プログラム	前学期	火5	地域連携推進機構	松本 剛、宮里 大八	理学部物質地球科学科 教授 他
24	共通教育等科目	海外キャリア形成入門	前学期	集中講義	グローバル教育支援機構	遠藤 聡志 他	グローバル教育支援機構キャリア教育支援部門 センター長・教授 他
25	専門教育科目	人間関係論	前学期	月1	人文社会学部	田中 寛二	人文社会学部人間社会学科 准教授
26	専門教育科目	カウンセリング	前学期	木1	人文社会学部	田中 寛二	人文社会学部人間社会学科 准教授
27	専門教育科目	基礎労働法	前学期	火4	人文社会学部	戸谷 義治	人文社会学部国際法制学科 准教授
28	専門教育科目	琉球史概論Ⅰ	前学期	月2	人文社会学部	豊見山 和行	人文社会学部琉球アジア文化学科 教授
29	専門教育科目	琉球民俗学概論Ⅰ	前学期	水2	人文社会学部	赤嶺 政信	人文社会学部琉球アジア文化学科 教授
30	専門教育科目	経済学概論	前学期	木2	国際地域創造学部	越野 泰成	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
31	専門教育科目	社会人類学概論Ⅰ	前学期	木5	国際地域創造学部	稲村 務	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
32	専門教育科目	マクロ経済学	前学期	火・木3	国際地域創造学部	堀 勝彦	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授
33	専門教育科目	社会科学のためのゲーム論入門	前学期	水5	国際地域創造学部	堀 勝彦	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授
34	専門教育科目	社会科学のためのゲーム論入門	前学期	水7	国際地域創造学部	堀 勝彦	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授
35	専門教育科目	口頭英語表現Ⅰ	前学期	月3	国際地域創造学部	宮平 勝行	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
36	専門教育科目	英米文学概論	前学期	月7	国際地域創造学部	石川 隆士	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
37	専門教育科目	エコソールイズム入門	前学期	木3	国際地域創造学部	大島 順子	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授
38	専門教育科目	広告論	前学期	月2	国際地域創造学部	王 怡人	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
39	専門教育科目	ギターⅠ	前学期	金3	教育学部	服部 洋一	教育学部音楽教育専修 教授
40	専門教育科目	合唱ⅠA	前学期	金4	教育学部	服部 洋一	教育学部音楽教育専修 教授
41	専門教育科目	総合舞台芸術演習	前学期	木5	教育学部	服部 洋一 他	教育学部音楽教育専修 教授 他
42	専門教育科目	民族音楽学	前学期	月4	教育学部	岡田 恵美	教育学部音楽教育専修 准教授
43	専門教育科目	授業技術	前学期	月5	教育学部	吉田 安規良 他	教育学研究科高度教職実践専攻 教授 他
44	専門教育科目	理科教育法A〔1組〕	前学期	木6	教育学部	吉田 安規良	教育学研究科高度教職実践専攻 教授
45	専門教育科目	物理数学Ⅰ	前学期	火3	理学部	福岡 毅	理学部物質地球科学科 教授
46	専門教育科目	熱力学	前学期	火4	理学部	前野 昌弘	理学部物質地球科学科 准教授
47	専門教育科目	熱帯生物科学概論	前学期	火5	理学部	広瀬 裕一	理学部海洋自然科学科 教授
48	専門教育科目	海洋無機化学	前学期	月2	理学部	土岐 知弘	理学部海洋自然科学科 准教授
49	専門教育科目	フィジカルアセスメント	前学期	金3～4	医学部	眞榮城 千夏子 他	医学部保健学科 講師 他
50	専門教育科目	生態学・環境学	前学期	木1	農学部	辻 瑞樹	農学部亜熱帯農林環境科学科 教授
51	専門教育科目	作物学	前学期	水2	農学部	諏訪 竜一	農学部亜熱帯農林環境科学科 准教授
52	専門教育科目	土壌環境科学	前学期	金3	農学部	金城 和俊	農学部亜熱帯農林環境科学科 准教授

授業 番号	分類	授業科目名	学期	曜日 時限	開講学部	担当教員	担当教員の所属学部・学科等
53	専門教育科目	森林微生物学	前学期	水2	農学部	亀山 統一	農学部亜熱帯農林環境科学科 助教
54	大学院	生活科教育研究	前学期	火5	教育学研究科	白尾 裕志	教育学研究科高度教職実践専攻 准教授
55	共通教育等科目	環境の哲学	後学期	月3	人文社会学部	寺石 悦章	人文社会学部人間社会学科 教授
56	共通教育等科目	平和論	後学期	火4	人文社会学部	星野 英一 他	人文社会学部国際法制学科 教授 他
57	共通教育等科目	インドネシア語基礎Ⅱ	後学期	火・木6	共通教育	與那城 常和子	共通教育外国語科目 非常勤講師
58	共通教育等科目	インテンシブドイツ語Ⅱ	後学期	火・金6	共通教育	Till Webar、吉井 巧一	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授 他
59	共通教育等科目	インテンシブフランス語Ⅱ	後学期	火・金2	国際地域創造学部	デルバール・フランク、宮里厚子	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授 他
60	共通教育等科目	フランス語会話入門Ⅱ	後学期	火3	国際地域創造学部	デルバール・フランク	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授
61	共通教育等科目	インテンシブフランス語Ⅳ	後学期	木2	国際地域創造学部	宮里 厚子	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授
62	共通教育等科目	インテンシブスペイン語Ⅱ	後学期	火・金2	国際地域創造学部	酒井アルベルト清、福地 恭子	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授 他
63	共通教育等科目	琉球の自然保護	後学期	木5	理学部	横田昌嗣 他 8名	理学部海洋自然科学科 生物系 教授 他
64	共通教育等科目	物理学Ⅱ	後学期	金2	理学部	稲岡 毅	理学部物質地球科学科 教授
65	共通教育等科目	物理学入門Ⅱ	後学期	火2	理学部	安田 千寿	理学部物質地球科学科 准教授
66	共通教育等科目	運動・スポーツ科学演習(マラソン)	後学期	月5	医学部	尾尻 義彦	医学部保健学科 助教
67	共通教育等科目	環境影響評価概論	後学期	木5	工学部	堤 純一郎	工学部工学科 教授
68	共通教育等科目	教育政策史	後学期	火2	地域連携推進機構	柴田 聡史	地域連携推進機構生涯学習推進部門 准教授
69	共通教育等科目	地域企業(自治体)お題解決プログラム	後学期	火5	地域連携推進機構	松本 剛、宮里 大八	理学部物質地球科学科 教授 他
70	専門教育科目	心の科学	後学期	月1	人文社会学部	田中 寛二	人文社会学部人間社会学科 准教授
71	専門教育科目	非行と犯罪の心理学	後学期	水1	人文社会学部	田中 寛二	人文社会学部人間社会学科 准教授
72	専門教育科目	展開労働法	後学期	未定	人文社会学部	戸谷 義治	人文社会学部国際法制学科 准教授
73	専門教育科目	琉球民俗学概論Ⅱ	後学期	水2	人文社会学部	赤嶺 政信	人文社会学部琉球アジア文化学科 教授
74	専門教育科目	琉球史概論Ⅱ	後学期	月2	人文社会学部	大浜 郁子	人文社会学部琉球アジア文化学科 准教授
75	専門教育科目	口頭英語表現Ⅱ	後学期	木3	国際地域創造学部	宮平 勝行	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
76	専門教育科目	現代イギリス文学	後学期	木4	国際地域創造学部	石川 隆士	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
77	専門教育科目	イギリス文学演習Ⅱ	後学期	木7	国際地域創造学部	石川 隆士	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
78	専門教育科目	英米文学概論	後学期	木3	国際地域創造学部	石川 隆士	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
79	専門教育科目	ことばの構造と意味	後学期	木2	国際地域創造学部	吉本 靖	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
80	専門教育科目	マーケティング概論	後学期	火7	国際地域創造学部	王 怡人	国際地域創造学部国際地域創造学科 教授
81	専門教育科目	環境教育論	後学期	金2	国際地域創造学部	大島 順子	国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授
82	専門教育科目	天文学序説	後学期	火3	理学部	松本 剛	理学部物質地球科学科 教授
83	専門教育科目	物理数学Ⅳ	後学期	水2	理学部	稲岡 毅	理学部物質地球科学科 教授
84	専門教育科目	物理化学Ⅳ	後学期	火1	理学部	漢那 洋子	理学部海洋自然科学科 准教授
85	専門教育科目	物性物理化学	後学期	火2	理学部	玉城 喜章	理学部海洋自然科学科 准教授
86	専門教育科目	熱帯生物生産学概論	後学期	火5	理学部	竹村 明洋	理学部海洋自然科学科 教授
87	専門教育科目	生活援助看護技術Ⅰ	後学期	火・金3～5前半	医学部	豊里 竹彦 他	医学部保健学科 教授 他
88	専門教育科目	マルチメディア情報処理	後学期	木3	工学部	長山 格	工学部工学科 准教授
89	専門教育科目	確率及び統計	後学期	水1	工学部	小野 尋子	工学部工学科 准教授
90	専門教育科目	進化生態学	後学期	水1	農学部	辻 瑞樹	農学部亜熱帯農林環境科学科 教授
91	専門教育科目	熱帯エネルギー作物学	後学期	木2	農学部	諏訪 竜一	農学部亜熱帯農林環境科学科 准教授
92	専門教育科目	環境土壌学	後学期	金1	農学部	金城 和俊	農学部亜熱帯農林環境科学科 准教授
93	専門教育科目	森林保護学	後学期	木3	農学部	亀山 統一	農学部亜熱帯農林環境科学科 助教
94	専門教育科目	環境情報学	後学期	木5	農学部	中野 拓治	農学部地域農業工学科 教授
95	専門教育科目	農村・農地環境概論	後学期	金4	農学部	中野 拓治	農学部地域農業工学科 教授
96	専門教育科目	農村農地整備学	後学期	木2	農学部	中野 拓治	農学部地域農業工学科 教授
97	専門教育科目	教育の社会史	後学期	火4	地域連携推進機構	背戸 博史	地域連携推進機構生涯学習推進部門 教授

平成30年度公開授業部局別開講数

	全科目	人文社会学部	国際地域創造学部	教育学部	教育学研究科	理学部	工学部	医学部	農学部	生涯学習推進部門	グローバル教育支援機構 共通教育運営部門	グローバル教育支援機構 キャリア教育部門
共通教育科目	33	4	12	0	0	11	2	4	0	1	1	1
専門科目	54	10	16	6	1	9	2	3	13	1	0	0
合計	97	14	28	6	1	20	4	7	13	2	1	1

平成29年度公開授業実施状況

※黄色はサテライト配信予定

授業番号	分類	授業科目名	学期	曜日 時限	開講科目・学科	担当教員	担当教員の所属学部・学科等	受講者数	定員
1	共通教育等科目	環境の哲学	前期	木3	共通教育等科目 人文系科目	寺石 悦章	法文学部人間科学科 教授	3 名	5 名
2	共通教育等科目	人間関係論	前期	月1	共通教育等科目 人文系科目	田中 寛二	法文学部人間科学科 准教授	4 名	5 名
3	共通教育等科目	現代社会のしくみ	前期	木2	共通教育等科目 社会系科目	野入 直美	法文学部人間科学科 准教授	7 名	10 名
4	共通教育等科目	海洋の科学	前期	火1	共通教育等科目 自然系科目	松本 剛	理学部物質地球科学科 教授	0 名	10 名
5	共通教育等科目	海洋の科学	前期	水7	共通教育等科目 自然系科目	松本 剛	理学部物質地球科学科 教授	67 名(うちサテライト65人)	10 名
6	共通教育等科目	天体観測を通して学ぶ宇宙	前期	集中講義	共通教育等科目 自然系科目	松本 剛	理学部物質地球科学科 教授	42 名(うちサテライト32人)	10 名
7	共通教育等科目	食料・農村・環境概論	前期	木6	共通教育等科目 自然系科目	中野 拓治	農学部地域農業工学科 教授	0 名	10 名
8	共通教育等科目	運動・スポーツ科学演習(マラソン)	前期	月5	共通教育等科目 健康運動系科目	尾尻 義彦	医学部保健学科 助教	2 名	5 名
9	共通教育等科目	総合環境学概論	前期	金3	共通教育等科目 総合科目	山城 新、他	法文学部国際言語文化学科 教授	6 名	5 名
10	共通教育等科目	環境エネルギー計画	前期	月5	共通教育等科目 総合科目	堤 純一郎	工学部工学科 教授	1 名	10 名
11	共通教育等科目	琉球語入門Ⅰ	前期	木7	共通教育等科目 琉大特色科目	狩俣 繁久	国際沖縄研究所言語学・日本語学・琉球語学 教授	80 名(うちサテライト76人)	10 名
12	共通教育等科目	沖縄の農業・農村と農地水環境	前期	木2	共通教育等科目 琉大特色科目	中野 拓治	農学部地域農業工学科 教授	2 名	10 名
13	共通教育等科目	情報科学演習	前期	木1	共通教育等科目 情報関係科目	中川 鉄水	理学部海洋自然科学科 助教	2 名	20 名
14	共通教育等科目	インテンシブドイツ語Ⅰ	前期	火2・金2	共通教育等科目 外国語科目	Till Weber、吉井 巧一	法文学部国際言語文化学科 教授 他	2 名	5 名
15	共通教育等科目	フランス語会話入門Ⅰ	前期	木2	共通教育等科目 外国語科目	フランク・デルバール	法文学部国際言語文化学科 准教授	5 名	5 名
16	共通教育等科目	インテンシブフランス語Ⅰ	前期	火2・金2	共通教育等科目 外国語科目	フランク・デルバール	法文学部国際言語文化学科 准教授	1 名	5 名
17	共通教育等科目	インテンシブフランス語Ⅲ	前期	火3	共通教育等科目 外国語科目	宮里 厚子	法文学部国際言語文化学科 准教授	3 名	5 名
18	共通教育等科目	フランス語圏文化入門	前期	木3	共通教育等科目 外国語科目	宮里 厚子	法文学部国際言語文化学科 准教授	3 名	5 名
19	共通教育等科目	インテンシブスペイン語Ⅰ	前期	火2・金2	共通教育等科目 外国語科目	鈴木 正士、酒井 清	法文学部国際言語文化学科 准教授 他	5 名	5 名
20	共通教育等科目	海外キャリア形成入門	前期	集中講義	共通教育等科目 キャリア関係科目	遠藤 聡志	理学部物質地球科学科 教授	2 名(うちサテライト0人)	10 名
21	共通教育等科目	物理学Ⅰ	前期	金2	共通教育等科目 先修科目	稲岡 毅	理学部物質地球科学科 教授	0 名	5 名
22	共通教育等科目	化学Ⅰ	前期	月5	共通教育等科目 先修科目	漢那 洋子	理学部海洋自然科学科 准教授	0 名	10 名
23	共通教育等科目	物理学入門Ⅰ	前期	火2	共通教育等科目 転換科目	安田 千寿	理学部物質地球科学科 准教授	1 名	5 名
24	専門科目	マクロ経済学	前期	水3・木3	法文学部 総合社会システム学科	堀 勝彦	法文学部総合社会システム学科 准教授	1 名	5 名
25	専門科目	経済学概論	前期	火1	法文学部 総合社会システム学科	越野 泰成	法文学部総合社会システム学科 教授	2 名	10 名
26	専門科目	ゲーム理論	前期	木7	法文学部 総合社会システム学科	堀 勝彦	法文学部総合社会システム学科 准教授	1 名	5 名
27	専門科目	環境経済学	前期	火4	法文学部 総合社会システム学科	藤田 陽子	国際沖縄研究所環境経済学 教授	3 名	5 名
28	専門科目	財政学	前期	火3・金3	法文学部 総合社会システム学科	瀬口 浩一	法文学部総合社会システム学科 教授	1 名	5 名
29	専門科目	国際政治学	前期	火2・金2	法文学部 総合社会システム学科	我部 政明	法文学部総合社会システム学科 教授	1 名	10 名
30	専門科目	カウンセリング演習	前期	木1	法文学部 人間科学科	田中 寛二	法文学部人間科学科 准教授	3 名	3 名
31	専門科目	社会人類学概論Ⅰ	前期	木4	法文学部 人間科学科	稲村 務	法文学部人間科学科 教授	9 名	10 名
32	専門科目	口頭英語表現Ⅰ(英語スピーチ)	前期	月3	法文学部 国際言語文化学科	宮平 勝行	法文学部国際言語文化学科 教授	5 名	5 名

平成29年度公開授業実施状況

授業 番号	分類	授業科目名	学期	曜日 時限	開講科目・学科	担当教員	担当教員の所属学部・学科等	受講者数	定員
33	専門科目	談話の構造	前期	金2	法文学部 国際言語文化学科	高良 宣孝	法文学部国際言語文化学科 准教授	4 名	5 名
34	専門科目	ライティングⅠ	前期	木6	法文学部 国際言語文化学科	高良 宣孝	法文学部国際言語文化学科 准教授	5 名	5 名
35	専門科目	琉球史概論Ⅰ	前期	月2	法文学部 国際言語文化学科	豊見山 和行	法文学部国際言語文化学科 教授	21 名	20 名
36	専門科目	琉球民俗学概論Ⅰ	前期	水2	法文学部 国際言語文化学科	赤嶺 政信	法文学部国際言語文化学科 教授	10 名	10 名
37	専門科目	ヘルスツーリズム論	前期	金4・金5	観光産業科学部 観光科学科	荒川 雅志	観光産業科学部観光科学科 教授	3 名	5 名
38	専門科目	エコツーリズム入門	前期	木3	観光産業科学部 観光科学科	大島 順子	観光産業科学部観光科学科 准教授	1 名	5 名
39	専門科目	サービスマネジメント論	前期	火5	観光産業科学部 産業経営学科	橋本 俊作	観光産業科学部産業経営学科 教授	0 名	5 名
40	専門科目	経営学特殊講義Ⅰ	前期	水5	観光産業科学部 産業経営学科	橋本 俊作	観光産業科学部産業経営学科 教授	1 名	5 名
41	専門科目	広告論	前期	月2	観光産業科学部 産業経営学科	王 怡人	観光産業科学部産業経営学科 教授	0 名	5 名
42	専門科目	マーケティング概論	前期	火7	観光産業科学部 産業経営学科	王 怡人	観光産業科学部産業経営学科 教授	1 名	5 名
43	専門科目	観光マーケティング論	前期	月5・木5	観光産業科学部 産業経営学科	桑原 浩	観光産業科学部産業経営学科 准教授	0 名	5 名
44	専門科目	授業技術	前期	月5	教育学部 学部共通	吉田 安規良 他	教育学部大学院教育学研究科 教授 他	0 名	5 名
45	専門科目	合唱ⅠA	前期	金4	教育学部 音楽教育専修	服部 洋一	教育学部音楽教育専修 教授	4 名	5 名
46	専門科目	ギターⅠ	前期	金3	教育学部 音楽教育専修	服部 洋一	教育学部音楽教育専修 教授	2 名	5 名
47	専門科目	総合舞台芸術演習	前期	木5	教育学部 音楽教育専修	服部 洋一 他	教育学部音楽教育専修 教授 他	3 名	10 名
48	専門科目	理科教育法A	前期	水6	教育学部 理科教育専修	吉田 安規良	教育学部大学院教育学研究科 教授	0 名	5 名
49	専門科目	確率及び統計	前期	火1	工学部 工学科	岡崎 威生	工学部工学科 准教授	1 名	5 名
50	専門科目	作物学	前期	水2	農学部 亜熱帯農林環境科学科	諏訪 竜一	農学部亜熱帯農林環境科学科 准教授	3 名	10 名
51	専門科目	生態学・環境学	前期	木1	農学部 亜熱帯農林環境科学科	辻 瑞樹	農学部亜熱帯農林環境科学科 教授	1 名	5 名
52	専門科目	森林微生物学	前期	水2	農学部 亜熱帯農林環境科学科	亀山 統一	農学部亜熱帯農林環境科学科 助教	1 名	5 名
53	専門科目	自然科学のための数学I	前期	木1	理学部 学部共通	前野 昌弘	理学部物質地球科学科 准教授	0 名	5 名
54	専門科目	熱帯生物科学概論	前期	火5	理学部 学部共通	横田 昌嗣	理学部物質地球科学科 教授	1 名	5 名
55	専門科目	海洋地質学	前期	月3	理学部 物質地球科学科	古川 雅英	理学部物質地球科学科 教授	0 名	10 名
56	専門科目	物理数学Ⅰ	前期	火3	理学部 物質地球科学科	稲岡 毅	理学部物質地球科学科 教授	0 名	5 名
57	専門科目	熱力学	前期	火4	理学部 物質地球科学科	前野 昌弘	理学部物質地球科学科 准教授	1 名	5 名
58	専門科目	フィジカルアセスメント	前期	水1・水2	医学部 保健学科	豊里 竹彦 他	医学部保健学科 教授 他	1 名	3 名
59	専門科目	精神看護学	前期	火1・火2	医学部 保健学科	與古田 孝夫、高原 美鈴	医学部保健学科 教授、助教授	3 名	5 名
-	大学院	国際政治学特論	前期	木6	大学院 法科大学院	我部 政明	法文学部総合社会システム学科 教授	1 名	-
60	共通教育等科目	人間観と教育	後期	月3	共通教育等科目 人文系科目	寺石 悦章	法文学部人間科学科 教授	2 名	5 名
61	共通教育等科目	心の科学	後期	月1	共通教育等科目 人文系科目	田中 寛二	法文学部人間科学科 准教授	3 名	5 名
62	共通教育等科目	人間関係論	後期	火1	共通教育等科目 人文系科目	加藤 潤三	法文学部人間科学科 准教授	0 名	5 名
63	共通教育等科目	ことばの構造と意味	後期	木2	共通教育等科目 人文系科目	吉本 靖	法文学部国際言語文化学科 教授	3 名	5 名
64	共通教育等科目	戦争と平和の諸問題	後期	水2	共通教育等科目 社会系科目	我部 政明	法文学部総合社会システム学科 教授	5 名	10 名
65	共通教育等科目	大学教育論	後期	火1	共通教育等科目 社会系科目	天野 智水	グローバル教育支援機構授業支援部門 准教授	0 名	5 名

平成29年度公開授業実施状況

授業 番号	分類	授業科目名	学期	曜日 時限	開講科目・学科	担当教員	担当教員の所属学部・学科等	受講者数	定員
66	共通教育等科目	教育政策史	後期	火2	共通教育等科目 社会系科目	柴田 聡史	地域連携推進機構生涯学習推進部門 講師	0 名	5 名
67	共通教育等科目	運動・スポーツ科学演習(マラソン)	後期	月5	共通教育等科目 健康運動系科目	尾尻 義彦	医学部保健学科 助教	0 名	5 名
68	共通教育等科目	環境と文学	後期	水2	共通教育等科目 総合科目	山城 新	法文学部国際言語文化学科 教授	2 名	5 名
69	共通教育等科目	環境影響評価概論	後期	木5	共通教育等科目 総合科目	堤 純一郎	工学部工学科 教授	1 名	5 名
70	共通教育等科目	先端情報工学概論	後期	月5	共通教育等科目 総合科目	玉城 史郎 他	工学部工学科 教授	1 名	5 名
71	共通教育等科目	平和論	後期	火4	共通教育等科目 琉大特色科目	星野 英一 他	法文学部総合社会システム学科 教授	3 名	10 名
72	共通教育等科目	琉球語入門Ⅱ	後期	木7	共通教育等科目 琉大特色科目	狩俣 繁久	国際沖縄研究所言語学・日本語学・琉球語学 教授	開講中止	10 名
73	共通教育等科目	琉球の自然保護	後期	木5	共通教育等科目 琉大特色科目	横田 昌嗣 他	理学部海洋自然科学学科 教授	1 名	10 名
74	共通教育等科目	インテンシブドイツ語Ⅱ	後期	火2・金2	共通教育等科目 外国語科目	Till Weber、吉井 巧一	法文学部国際言語文化学科 教授 他	1 名	5 名
75	共通教育等科目	インテンシブフランス語Ⅳ	後期	火3	共通教育等科目 外国語科目	宮里 厚子	法文学部国際言語文化学科 准教授	3 名	5 名
76	共通教育等科目	フランス語会話入門Ⅱ	後期	木2	共通教育等科目 外国語科目	フランク・デルバール	法文学部国際言語文化学科 准教授	3 名	5 名
77	共通教育等科目	インテンシブフランス語Ⅱ	後期	火2・金2	共通教育等科目 外国語科目	フランク・デルバール	法文学部国際言語文化学科 准教授	0 名	5 名
78	共通教育等科目	インテンシブスペイン語Ⅱ	後期	火2・金2	共通教育等科目 外国語科目	鈴木 正士、酒井 清	法文学部国際言語文化学科 准教授 他	5 名	5 名
79	共通教育等科目	物理学Ⅱ	後期	金2	共通教育等科目 先修科目	稲岡 毅	理学部物質地球科学科 教授	0 名	5 名
80	共通教育等科目	化学Ⅱ	後期	月4	共通教育等科目 先修科目	堀内 敬三	理学部海洋自然科学学科 教授	0 名	10 名
81	共通教育等科目	物理学入門Ⅱ	後期	火2	共通教育等科目 転換科目	安田 千寿	理学部物質地球科学科 准教授	0 名	5 名
82	専門科目	ゲーム理論	後期	金3	法文学部 総合社会システム学科	堀 勝彦	法文学部総合社会システム学科 准教授	4 名	5 名
83	専門科目	非行と犯罪の心理学	後期	水1	法文学部 人間科学科	田中 寛二	法文学部人間科学科 准教授	3 名	10 名
84	専門科目	教育の社会史	後期	火4	法文学部 人間科学科	背戸 博史	地域連携推進機構生涯学習推進部門 教授	0 名	5 名
85	専門科目	口頭英語表現Ⅱ(英語ディベート)	後期	木3	法文学部 国際言語文化学科	宮平 勝行	法文学部国際言語文化学科 教授	2 名	5 名
86	専門科目	イギリス文学研究Ⅱ	後期	木5	法文学部 国際言語文化学科	石川 隆士	法文学部国際言語文化学科 教授	0 名	5 名
87	専門科目	イギリス文学演習Ⅱ	後期	木7	法文学部 国際言語文化学科	石川 隆士	法文学部国際言語文化学科 教授	0 名	5 名
88	専門科目	英語の多様性と文化	後期	木5	法文学部 国際言語文化学科	高良 宣孝	法文学部国際言語文化学科 准教授	1 名	5 名
89	専門科目	リーディングⅡ	後期	金7	法文学部 国際言語文化学科	高良 宣孝	法文学部国際言語文化学科 准教授	1 名	5 名
90	専門科目	異文化理解	後期	月4	法文学部 国際言語文化学科	加瀬 保子	法文学部国際言語文化学科 准教授	1 名	3 名
91	専門科目	琉球史概論Ⅱ	後期	木2	法文学部 国際言語文化学科	大浜 郁子	法文学部国際言語文化学科 准教授	13 名	30 名
92	専門科目	琉球民俗学概論Ⅱ	後期	水2	法文学部 国際言語文化学科	赤嶺 政信	法文学部国際言語文化学科 教授	10 名	10 名
93	専門科目	環境教育論	後期	金2	観光産業科学部 観光科学科	大島 順子	観光産業科学部観光科学科 准教授	5 名	5 名
94	専門科目	社会科教育研究	後期	火1	教育学部 社会科教育専修	白尾 裕志	教育学部大学院教育学研究科 准教授	0 名	10 名
95	専門科目	自然科学のための数学Ⅱ	後期	木2	理学部 学部共通	前野 昌弘	理学部物質地球科学科 准教授	0 名	5 名
96	専門科目	熱帯生物生産学概論	後期	火5	理学部 学部共通	田中 厚子	理学部海洋自然科学学科 助教	0 名	5 名
97	専門科目	物理数学Ⅳ	後期	水2	理学部 物質地球科学科	稲岡 毅	理学部物質地球科学科 教授	0 名	5 名
98	専門科目	物理化学Ⅳ	後期	火3	理学部 海洋自然科学科	漢那 洋子	理学部海洋自然科学科 准教授	0 名	10 名
99	専門科目	物性物理化学	後期	火2	理学部 海洋自然科学科	玉城 喜章	理学部海洋自然科学科 准教授	1 名	5 名

平成29年度公開授業実施状況

授業 番号	分類	授業科目名	学期	曜日 時限	開講科目・学科	担当教員	担当教員の所属学部・学科等	受講者数	定員
100	専門科目	生活援助看護技術Ⅰ	後期	火3～5前 3～5前	医学部 保健学科	豊里 竹彦 他	医学部保健学科 教授 他	1 名	6 名
101	専門科目	自然言語工学	後期	月3	工学部 工学科	高良 富夫	工学部工学科 教授	1 名	5 名
102	専門科目	確率及び統計	後期	水1	工学部 工学科	小野 尋子	工学部工学科 准教授	0 名	5 名
103	専門科目	マルチメディア情報処理	後期	木3	工学部 工学科	長山 格	工学部工学科 准教授	0 名	10 名
104	専門科目	食料生産と環境	後期	火2	農学部 亜熱帯農林環境科学科	鬼頭 誠	農学部亜熱帯農林環境科学科 教授	4 名	10 名
105	専門科目	進化生態学	後期	水1	農学部 亜熱帯農林環境科学科	辻 瑞樹	農学部亜熱帯農林環境科学科 教授	1 名	5 名
106	専門科目	環境土壌学	後期	金1	農学部 亜熱帯農林環境科学科	金城 和俊	農学部亜熱帯農林環境科学科 准教授	2 名	10 名
107	専門科目	熱帯エネルギー作物学	後期	木2	農学部 亜熱帯農林環境科学科	諏訪 竜一	農学部亜熱帯農林環境科学科 准教授	1 名	10 名
108	専門科目	森林保護学	後期	木3	農学部 亜熱帯農林環境科学科	亀山 統一	農学部亜熱帯農林環境科学科 助教	3 名	7 名
109	大学院	日米関係	後期	木6	大学院 法科大学院	我部 政明	法文学部総合社会システム学科 教授	1 名	5 名
-	共通教育等科目	大学で何を学ぶか	後期	水3	共通教育等科目 総合科目	狩俣 繁久 他	グローバル教育支援機構 副機構長	68 名(うち サテライト 68人)	5 名
-	共通教育等科目	地域企業(自治体)お題解決プログラム2	後期	火5	共通教育等科 キャリア関係科目	宮里 大八 他	地域連携推進機構 地域連携企画室 特命准教授	2 名	10 名
-	専門科目	地域経営基礎	後期	火4	教育学部 社会科教育専修	島袋 純、宮里 大八	教育学部 教授 他	3 名	10 名
-	共通教育等科目	キャリア特別講義Ⅳ(グローバルキャリアデザイン)	後期	金5	共通教育等科目 キャリア関係科目	宮里 大八	地域連携推進機構 地域連携企画室 特命准教授	3 名	10 名
-	専門科目	スパマネジメント	後期	集中講義	観光産業科学部 観光科学科	荒川 雅志	観光産業科学部 観光科学科 教授	9 名	10 名
							合計	505 名	792 名

【参考】過去3年間の公開授業実施状況			
	科目数	受講者数(人)	収入額
平成28年度	125	348	¥876,940
平成27年度	88	319	¥734,840
平成26年度	101	375	¥884,750

受講者数	受講料収入
前期: 332名 (うちサテライト173名)	前期: 468,630円
後期: 173名 (うちサテライト68名)	後期: 83,250円 (2/21現在)
合計: 505名 (うちサテライト241名)	合計: 551,880円(※2/21現在)
科目数	
前期: 60科目 (うちサテライト4科目)	
後期: 54科目 (うちサテライト1科目)	
合計: 114科目 (うちサテライト5科目)	

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構生涯学習推進部門研究紀要 『生涯学習フォーラム』投稿規程

(2018年〇月〇日改正)

1 投稿資格

- ① 生涯学習・社会教育・人材育成に関する研究を行う大学・研究所等の研究者
- ② 社会教育主事、公民館主事、司書、学芸員等の社会教育関係行政職員
- ③ 地域人材育成等に取り組む行政職員
- ④ 学校教育関係者
- ⑤ 生涯学習・社会教育関係団体の職員
- ⑥ 生涯学習・社会教育関係学会の会員
- ⑦ その他生涯学習・社会教育・人材育成に関心のある者で、国立大学法人琉球大学地域連携推進機構生涯学習推進部門長が認める者

2 投稿原稿

(1) 原稿の内容

沖縄県における生涯学習・社会教育・人材育成を取り巻く諸課題の解決に資するもので、刊行時において未発表のものであること（ただし、口頭発表及びその配布資料はこの限りではない）。

(2) 原稿の種類

- ① 研究論文
- ② 研究ノート（研究の中間報告など）
- ③ 報告（調査報告、実践報告など）

(3) 原稿の構成要素

原稿の構成要素は、次のとおりとする。

- ① 標題（邦文及び英文）
- ② 著者名（邦文及び英文）
- ③ 著者の所属・職名（邦文及び英文）
- ④ キーワード（3～5個程度の邦文）
- ⑤ 本文（邦文）
- ⑥ 注記・引用文献、参考文献

(4) 原稿の分量

原稿の分量は、図・表、写真を含め5ページ（8,000字）～13ページ（20,000字）程度とする。なお、原稿の分量の算定にあたっては、句読点・括弧・各種記号等は1文字として扱うとともに、図・表・写真はA4版1ページを約1,600字として換算し、本文から相当分減じること。

3 執筆要領

(1) 原稿の書式

- ①原則、ワープロ原稿とすること。
- ②原稿の書式は横書きとする。A 4 版縦、40字×40行とし、上下左右に各2～2.5cmの余白をとること。

(2) 見出しの番号付け

見出しにおける章・節・項の展開は原則として、I－1－(1)の順で表示すること。

(3) 図・表、写真等について

図・表、写真はハードコピーの文中に組み込むか、あるいは本文に挿入箇所を指定した上で別に添付すること。その場合は図1、表1の要領により一連番号を付けること（写真については通し番号は不要）。なお、各図・表・写真に必要な応じてキャプションを付けること。

(4) 注記・引用文献、参考文献

注記・引用文献は、本文中の該当箇所の右肩に(1)、(2)の順で一連番号を付け、本文の最後に番号順にまとめて記載する。引用文献の注記は原則として以下の要領による。

- ①論文の場合：著者、論文名、掲載紙誌、巻、号、発行年、頁。
- ②単行本の場合：著者、書名、出版社、発行年、頁。
- ③ウェブサイトの場合：著者、記事名、アドレス、最終アクセス日。

ただし、注記・引用文献、参考文献について、本文中で一貫した記載がなされている場合にはこの限りではない。

4 原稿の査読及び採否等の決定

投稿された原稿については、琉球大学地域連携推進機構生涯学習推進部門研究紀要編集委員会委員又は編集委員会が適当と認める2名ないしそれ以上の専門家による査読を行い、その採否を決定する。なお、査読の結果によっては、投稿者の投稿カテゴリー（①研究論文②研究ノート③報告）の変更を提案する場合がある。

5 原稿料等

原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。

6 原稿の校正

原稿の校正は執筆者に依頼する。校正は1回のみで、その際の内容上の修正は原則として認められない。

7 著作権

- ①本紀要に掲載された原稿の著作権は投稿者自身に帰属する。
- ②本紀要に掲載された原稿の著作権は、国立大学法人琉球大学に帰属する。

なお、紀要発刊後は、琉球大学学術リポジトリにて公開する。

8 原稿の提出

(1) 募集期間および提出日

原稿は随時募集する。但し、各年度の締切は5月31日（消印有効）とする。

(2) 提出方法

原稿はA4用紙に印刷したものとし、併せてデータ（原稿）を記録したデジタルディスク等も提出すること。写真等については原稿送付の際に添付すること。なお、印刷原稿及びデジタルディスク等は採否にかかわらず、原則として返却しない。また、投稿時には原稿とは別の用紙に標題、氏名、所属、職名と連絡先住所及び電話番号（ファクシミリもあればそれも）、E-mailアドレスを明記すること。

(3) 問合せ先及び提出先

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構生涯学習推進部門

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話 098(895)8019 ファックス 098(895)8185

E-mail: kntikis@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構生涯学習推進部門研究紀要編集規程

2018年〇月〇日

生涯学習推進部門会議決定

- 1 国立大学法人琉球大学地域連携推進機構生涯学習推進部門研究紀要（「生涯学習フォーラム」）は国立大学法人琉球大学地域連携推進機構生涯学習推進部門の機関誌であり、1年に1回発行する。
- 2 紀要の編集は、紀要編集委員会が行う（以下、「編集委員会」）。
- 3 編集委員会は地域連携推進機構生涯学習推進部門会議において、部門の構成員より3名以内、学内外より2名以内の計5名以内を選出し、部門長が委嘱する。編集委員の任期は一年度とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 編集委員長は編集委員による互選で選出する。編集委員長は、編集委員会を代表し、編集委員会会務をつかさどる。編集委員長に事故ある時は、編集委員の互選により、編集委員の一人がその職務を代行する。
- 5 編集委員長は、必要に応じ、学内外の専門家に編集の協力を委嘱することができる。委嘱された学内外の専門家を編集協力者と呼称する。
- 6 本紀要には、研究論文、研究ノート（研究の中間報告や萌芽的研究など）、報告（調査報告や実践報告など）の他、編集委員会の企画による特別論稿などを掲載することができる。
- 7 投稿原稿については編集委員会及び編集委員会が委嘱した編集協力者による査読を行い、掲載の採否の決定、修正の提案、および改善のための助言を行う。査読者は、原稿1本につき学内外の専門家2名以上とする。
- 8 研究論文及び研究ノートについては、下記1)～4)の観点から査読を行う。報告については1)、4)の観点から査読を行う。
 - 1)テーマの重要性・独自性
 - 2)構成の論理性
 - 3)論証や実証方法の妥当性
 - 4)理論や実践への有意性
- 9 編集委員会は、査読の結果によって、投稿者が指定した投稿カテゴリー（論文、研究ノート、報告）の変更を求めることができる。投稿者が承諾した場合、カテゴリーを変更して掲載することができる。報告については当該原稿の性質に鑑み、編集委員会において調査報告、実践報告などの分類をする。

付則 本規程は2009（平成21）年12月15日実施

2012（平成24）年12月11日改正

国立大学法人琉球大学生涯学習教育研究センター研究紀要 『生涯学習フォーラム』投稿規程

(2012年12月11日改正)

1 投稿資格

- ① 生涯学習・社会教育・人材育成に関する研究を行う大学・研究所等の研究者
- ② 社会教育主事、公民館主事、司書、学芸員等の社会教育関係行政職員
- ③ 地域人材育成等に取り組む行政職員
- ④ 学校教育関係者
- ⑤ 生涯学習・社会教育関係団体の職員
- ⑥ 生涯学習・社会教育関係学会の会員
- ⑦ その他生涯学習・社会教育・人材育成に関心のある者で、国立大学法人琉球大学生涯学習教育研究センター長が認める者

2 投稿原稿

(1) 原稿の内容

沖縄県における生涯学習・社会教育・人材育成を取り巻く諸課題の解決に資するもので、刊行時において未発表のものであること（ただし、口頭発表及びその配布資料はこの限りではない）。

(2) 原稿の種類

- ① 論文
- ② 研究ノート（研究の中間報告など）
- ③ 報告（調査報告、実践報告など）

(3) 原稿の構成要素

原稿の構成要素は、次のとおりとする。

- ① 標題（邦文及び英文）
- ② 著者名（邦文及び英文）
- ③ 著者の所属・職名（邦文及び英文）
- ④ 要旨（邦文）
- ⑤ キーワード（3～5個程度の邦文）
- ⑥ 本文（邦文）
- ⑦ 注記・引用文献、参考文献

(4) 原稿の分量

原稿の分量は、要旨（150字～400字程度）、図・表、写真を含め5ページ（8,000字）～13ページ（20,000字）程度とする。なお、原稿の分量の算定にあたっては、句読点・括弧・各種記号等は1文字として扱うとともに、図・表・写真はA4版1ページを約1,600字として換算し、本文から相当分減じること。

3 執筆要領

(1) 原稿の書式

- ① 原則、ワープロ原稿とすること。
- ② 原稿の書式は横書きとする。A4版縦、40字×40行とし、上下左右に各2～2.5cmの余白をとること。

(2) 見出しの番号付け

見出しにおける章・節・項の展開は原則として、I－1－(1)の順で表示すること。

(3) 図・表、写真等について

図・表、写真はハードコピーの文中に組み込むか、あるいは本文に挿入箇所を指定した上で別に添付すること。その場合は図1、表1の要領により一連番号を付けること（写真については通し番号は不要）。なお、各図・表・写真に必要な応じてキャプションを付けること。

(4) 注記・引用文献、参考文献

注記・引用文献は、本文中の該当箇所の右肩に(1)、(2)の順で一連番号を付け、本文の最後に番号順にまとめて記載する。引用文献の注記は原則として以下の要領による。

- ① 論文の場合：著者、論文名、掲載紙誌、巻、号、発行年、頁。
- ② 単行本の場合：著者、書名、出版社、発行年、頁。
- ③ ウェブサイトの場合：著者、記事名、アドレス、最終アクセス日。

4 原稿の査読及び採否等の決定

投稿された原稿については、琉球大学生涯学習教育研究センター研究紀要編集委員会委員又は編集委員会が適当と認める2名ないしそれ以上の専門家による査読を行い、その採否を決定する。なお、査読の結果によっては、投稿者の投稿カテゴリー（①論文②研究ノート③報告）の変更を提案する場合がある。

5 原稿料等

原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。

6 原稿の校正

原稿の校正は執筆者に依頼する。校正は1回のみで、その際の内容上の修正は原則として認められない。

7 著作権

- ① 本紀要に掲載された原稿の著作権は投稿者自身に帰属する。
- ② 本紀要に掲載された原稿の著作権は、国立大学法人琉球大学に帰属する。
なお、紀要発刊後は、琉球大学学術リポジトリにて公開する。

8 原稿の提出

(1) 募集期間および提出日

原稿は随時募集する。但し、各年度の締切は1月31日（消印有効）とする。

（２）提出方法

原稿はA4用紙に印刷したものとし、併せてデータ（原稿）を記録したデジタルディスク等も提出すること。写真等については原稿送付の際に添付すること。なお、印刷原稿及びデジタルディスク等は採否にかかわらず、原則として返却しない。また、投稿時には原稿とは別の用紙に標題、氏名、所属、職名と連絡先住所及び電話番号（ファクシミリもあればそれも）、E-mailアドレスを明記すること。

（３）問合せ先及び提出先

国立大学法人琉球大学生涯学習教育研究センター

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話 098(895)8019 ファックス 098(895)8185

E-mail: kntikis@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

国立大学法人琉球大学生涯学習教育研究センター研究紀要編集規程

2012年12月11日

生涯学習教育研究センター運営委員会決定

- 1 国立大学法人琉球大学生涯学習教育研究センター研究紀要（「生涯学習フォーラム」）は国立大学法人琉球大学生涯学習教育研究センターの機関誌であり、1年に1回発行する。
- 2 紀要の編集は、紀要編集委員会が行う（以下、「編集委員会」）。
- 3 編集委員会は生涯学習教育研究センター運営委員会において運営委員より選出し、センター長が委嘱する。編集委員会は原則として5名以内とし、任期は運営委員の任期に準ずる。ただし、再任を妨げない。
- 4 編集委員長は編集委員による互選で選出する。編集委員長は、編集委員会を代表し、編集委員会会務をつかさどる。編集委員長に事故ある時は、編集委員の互選により、編集委員の一人がその職務を代行する。
- 5 編集委員長は、必要に応じ、学内外の専門家に編集の協力を委嘱することができる。委嘱された学内外の専門家を編集協力者と呼称する。
- 6 本紀要には、論文、研究ノート（研究の中間報告や萌芽的研究など）、報告（調査報告や実践報告など）の他、編集委員会の企画による特別論稿などを掲載することができる。
- 7 投稿原稿については編集委員会及び編集委員会が委嘱した編集協力者による査読を行い、掲載の採否の決定、修正の提案、および改善のための助言を行う。査読者は、原稿1本につき学内外の専門家2名以上とする。
- 8 論文及び研究ノートについては、下記1)～4)の観点から査読を行う。報告については1)、4)の観点から査読を行う。
 - 1)テーマの重要性・独自性
 - 2)構成の論理性
 - 3)論証や実証方法の妥当性
 - 4)理論や実践への有意性
- 9 編集委員会は、査読の結果によって、投稿者が指定した投稿カテゴリー（論文、研究ノート、報告）の変更を求めることができる。投稿者が承諾した場合、カテゴリーを変更して掲載することができる。報告については当該原稿の性質に鑑み、編集委員会において調査報告、実践報告などの分類をする。

付則 本規程は2009（平成21）年12月15日実施

2012（平成24）年12月11日改正

第2回ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果等検証委員会

次第

1 日程：平成30年2月23日（金）14：00～16：00

2 場所：琉球大学 大学本部管理棟 第二会議室（2階）

資料番号

3 議題

（1）有識者からのヒアリング

資料1

（2）検証委員会報告書のとりまとめ

資料2～資料3

（3）その他

【配布資料】

第1回ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果等検証委員会議事概要（案）

資料1 離島における高校教育の可能性

資料2 ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果等検証委員会報告書（案）

資料3 達成度テストの集計結果

参考1 ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果等検証委員会設置要項

参考2 ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果等検証委員会委員一覧

平成30年度地域創生総合研究棟共用研究室等使用許可一覧(平成30年4月1日～)

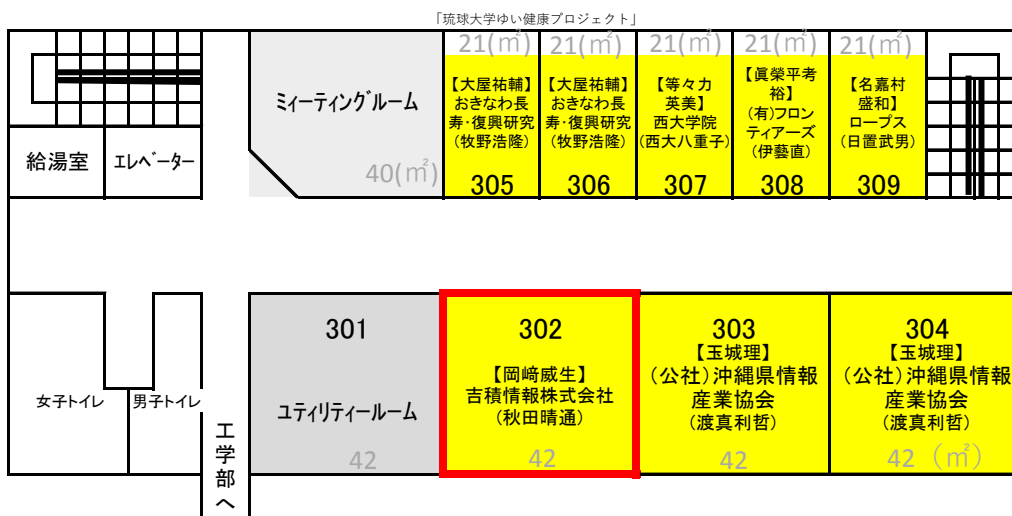
	区分	申請者	学部学科	共同研究先企業	利用目的	利用スペース	許可・不許可	年額使用料(円)	備考
1	継続	石井 貴広	農学部亜熱帯生物資源科学科 内線8744	(有)バイオシステムコンサルティング 多和田 真吉 TEL:098-892-7120	沖縄産生物資源からPAK阻害剤の探索	研究棟 203号室 (20㎡)	許可	381,600	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×20㎡×12月 支払方法:一括・請求書(多和田 真吉)
3	継続	照屋 俊明	教育学部自然環境科学教育コース 内線8356	(株)沖縄リサーチセンター Tel:098-989-0504	天然資源から有用天然有機化合物を探索し、その薬理活性を評価する	研究棟 204号室 (20㎡)	許可	381,600	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×20㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(株式会社沖縄リサーチセンター)
2	継続	石井 貴広	農学部亜熱帯生物資源科学科 内線8744	(有)バイオシステムコンサルティング 多和田 真吉 TEL:098-892-7120	沖縄産生物資源からPAK阻害剤の探索	研究棟 206号室 (41㎡)	許可	782,280	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×41㎡×12月 支払方法:一括・請求書(多和田 真吉)
2	継続	清水 雄介	医学部 付属病院 形成外科 特命准教授 内線1768	(株)Grancell 野村 紘介 TEL:098-917-5705	医薬品・医薬部外品・化粧品の開発研究	研究棟 207号室 (41㎡)	許可	782,280	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×41㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(株式会社Grancell)
10	継続	照屋 俊明	教育学部 理科教育専修 内線8356	琉球ボーテ(株) 島田 邦男 TEL:090-5587-2800	大学発ベンチャー企業の事務所として	研究棟 208号室 (21㎡)	許可	400,680	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×21㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(琉球ボーテ株式会社)
4	継続	玉城 理	地域連携推進機構 内8599	公益社団法人沖縄県情報産業協会 渡真利 哲 TEL:098-859-2677	産学官連携による高度IT人材育成及び先端的システム開発拠点の構築	研究棟 303号室 (42㎡)	許可	801,360	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×42㎡×12月 支払方法:請求書毎月払い・公益財団法人沖縄県情報産業協会
5	継続	玉城 理	地域連携推進機構 内8599	公益社団法人沖縄県情報産業協会 渡真利 哲 TEL:098-859-2677	産学官連携による高度IT人材育成及び先端的システム開発拠点の構築	研究棟 304号室 (42㎡)	許可	801,360	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×42㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(公益財団法人沖縄県情報産業協会)
6	継続	大屋 祐輔	大学院医学研究科循環器 ・腎臓・神経内科学 内線8314	(一社)おきなわ長寿・復興医療イノベーション研究所 牧野 浩隆 TEL:098-963-5390	地域健康増進エコシステム構築事業(仮)の実施スペースについて	研究棟 305号室 (21㎡)	許可	400,680	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×21㎡×12月 支払方法:一括・寄附金(請求書:大学院医学研究科循環器・腎臓・神経内科学)
6	継続	大屋 祐輔	大学院医学研究科循環器 ・腎臓・神経内科学 内線8314	(一社)おきなわ長寿・復興医療イノベーション研究所 牧野 浩隆 TEL:098-963-5390	地域健康増進エコシステム構築事業(仮)の実施スペースについて	研究棟 306号室 (21㎡)	許可	400,680	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×21㎡×12月 支払方法:一括・寄附金(請求書:大学院医学研究科循環器・腎臓・神経内科学)
7	継続	等々力 英美	地域連携推進機構 客員准教授 内8549	西大学院 西大八重子 TEL:098-948-1900 産創研 玉城昇 TEL:098-988-8655	①チャンプルースタディの研究成果に基づいたレシビ普及と評価。 ②沖縄特産野菜の機能性評価のためのヒト介入試験の検討	研究棟 307号室 (21㎡)	許可	400,680	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×21㎡×12月 支払方法:一括・寄附金・補助金
13	継続	眞榮平孝裕	理学部 地質地球科学科 内8508	(有)フロンティアーズ 伊藝 直 TEL:098-934-6701	沖縄型ゼロエネルギーハウスの学内設置に関わる性能・分析・評価並びに県内建設関係企業向けのZEH普及に向けた取り組み。併せて、省・造エネルギーや新しい住まいの形を基礎とした環境教育・教材の開発を目指す。	研究棟 308号室 (21㎡)	許可	400,680	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×21㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書()
9	継続	名嘉村盛和	工学部情報工学科 内線8715	ロープス(株) 日置 武男 TEL:080-3692-5256	e-learningによる効果的な英語学習についての研究	研究棟 309号室 (21㎡)	許可	400,680	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×21㎡×12月 支払方法:一括・請求書(ロープス株式会社)
12	新規	岡崎 威生	工学部情報工学科 内8903	吉積情報株式会社 代表取締役 秋田 晴通 TEL:03-6280-5940	クラウドを活用したデータサイエンスのビジネス適用の共同研究及び事業創出	研究棟 302号室 (42㎡)	許可	801,360	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 利用料 :㎡／1,590円(光熱水費申請者負担) 1,590円×42㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(吉積情報株式会社 秋田 晴通)
								7,135,920	

平成30年度 産学官連携棟共用研究室等使用許可一覧(平成30年4月1日～)

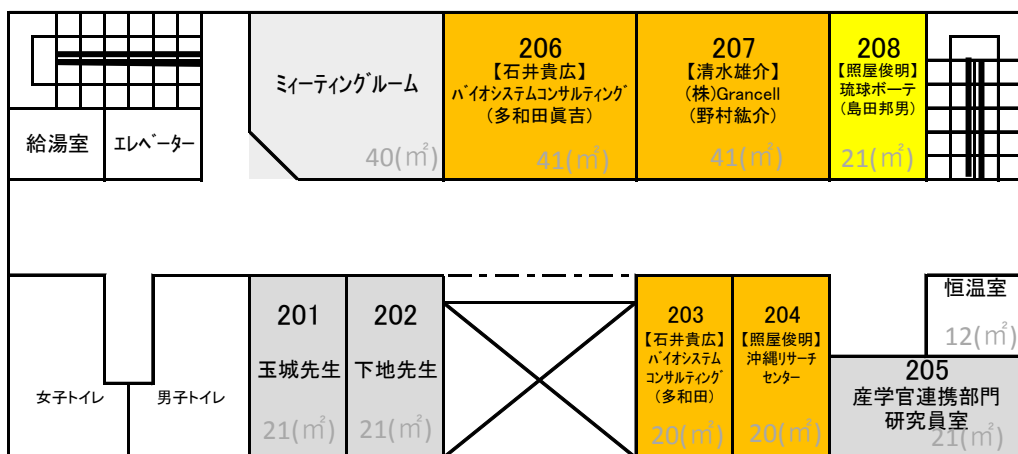
	区分	申請者	学部学科	共同研究先企業	利用目的	利用スペース	許可・不許可	年額使用料(円)	備考
1	継続	川満 芳信	農学部亜熱帯農林環境科学科 内線8754	NTCインターナショナル(株) 安中 正実 TEL:03-5354-3621	バガス炭等地域資源の有効利用技術に関する共同研究のため	産学棟 104-1号室 (16.75㎡)	許可	309,540	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×16.75㎡×12月 支払方法:一括・請求書(NTCインターナショナル株式会社)
2	継続	上野 正実	農学部地域農業工学科 内線8769	NPO亜熱帯バイオマス利用研究センター 田崎 厚也 TEL:098-943-1872	バイオマス利用に関する研究調査及びさとうきび品質取引に関する業務	産学棟 104-2号室 (16.75㎡)	許可	309,540	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×16.75㎡×12月 支払方法:一括・請求書(NPO法人亜熱帯バイオマス利用研究センター)
3	継続	金城 和光		(株)沖縄ヒューマンキャピタル 代表取締役 金城 和光 TEL:098-895-1702	グローバル人材育成業務(海外若年者グローバルジョブチャレンジ事業)	産学棟 106号室 (23㎡)	許可	425,040	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×23㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(株式会社沖縄ヒューマンキャピタル)
4	継続	遠藤 聡志	工学部 工学科 内線8714	LiLz株式会社 大西 敬吾 TEL:080-8582-9457	人工知能分野における機械学習および深層学習の社会応用に関する共同研究	産学棟 202号室 (37㎡)	許可	683,760	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×37㎡×12月 支払方法:一括・共同研究費
5	継続	岡崎 威生	工学部情報工学科 内線 8903	(株)タップ 沖縄事務所ホテル研究所 横田 敏明 TEL:098-982-6161	宿泊産業におけるデータ分析及びロボット活用の共同研究開発	産学棟 203号室 (30㎡)	許可	554,400	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×30㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(株式会社 タップ)
6	継続	長田 智和	工学部情報学科 内線8719	(株)オキット 代表取締役 立石 聡明 TEL:050-3521-7131	事務所として	産学棟 204-1号室 (33㎡)	許可	609,840	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×33㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(株式会社オキット)
7	継続	有住 康則	工学部環境建設工学科 内線8664	社会基盤施設耐候・耐久性研究会 主宰:矢吹 哲哉 TEL:098-895-8701 一般財団法人 沖縄しまて協会 研究員:玉城喜章 TEL:098-879-2091	沖縄の社会基盤施設の維持管理に関する本学、社会基盤施設耐候・耐久性研究会、沖縄総合事務局、沖縄県、しまて協会及び民間企業との共同研究で使用	産学棟 205号室 (17㎡)	許可	314,160	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×17㎡×12月 支払方法:一括・共同研究費
8	継続	小山 聡宏	大学院 理工学研究科 総合知能工学環境情報工学 博士後期課程 堤研究室	(一社)沖縄県環境・エネルギー研究開発機構 代表理事 小山聡宏 TEL:080-2795-0616 (有)朝電気 代表取締役 屋良朝秋 TEL:098-867-3232	平成29年度に受託した本学連携事業の30年度継続および平成30年度新規事業獲得と推進のための共同研究室利用	産学棟 301室 (35㎡)	許可	646,800	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×35㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構)
9	継続	玉城 昇		(株)沖縄TLO 代表取締役社長 玉城 昇 Tel:098-895-1701	事務所として	産学棟 302号室 (35㎡)	許可	646,800	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×35㎡×12月 支払方法:一括払い・請求書(株式会社沖縄TLO)
10	継続	玉城 昇		(株)沖縄TLO 代表取締役社長 玉城 昇 Tel:098-895-1701	事務所として	産学棟 303号室 (25㎡)	許可	462,000	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×25㎡×12月 支払方法:一括払い・請求書(株式会社沖縄TLO)
11	継続	野口 隆	工学部電気電子工学科 内線8680	琉球オルコム株式会社 黒木 寿和 TEL:050-6964-6883	(ガラス、フレキシブルパネル上)エコ(資源)対応型薄膜光電素子および機能薄膜素子の研究推進	産学棟 305B号室 (10.5㎡)	許可	194,040	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×10.5㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(琉球オルコム株式会社)
12	継続	玉城 昇		(株)沖縄TLO 代表取締役社長 玉城 昇 Tel:098-895-1701	事務所として	産学棟 306号室 (66㎡)	許可	1,219,680	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×66㎡×12月 支払方法:一括払い・請求書(株式会社沖縄TLO)
13	継続	野口 隆	工学部電気電子工学科 内線8680	琉球オルコム株式会社 黒木 寿和 TEL:050-6964-6883	(ガラス、フレキシブルパネル上)エコ(資源)対応型薄膜光電素子および機能薄膜素子の研究推進	産学棟 307号室 (23㎡)	許可	425,040	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×23㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(琉球オルコム株式会社)
14	新規	福本 晃造	教育学部 内線8339	有限会社 共栄コントロールズ 巴月 和利 TEL:070-984-5123	海水の水質改善システムの開発	産学棟 204-2号室 (23㎡)	許可	425,040	利用期間:平成30年4月1日～平成31年3月1日 利用料 :㎡/1,540円(光熱水費含む) 1,540円×23㎡×12月 支払方法:毎月払い・請求書(有限会社共栄コントロールズ)
								7,225,680	

地域創生総合研究棟（平成30年度配置図）

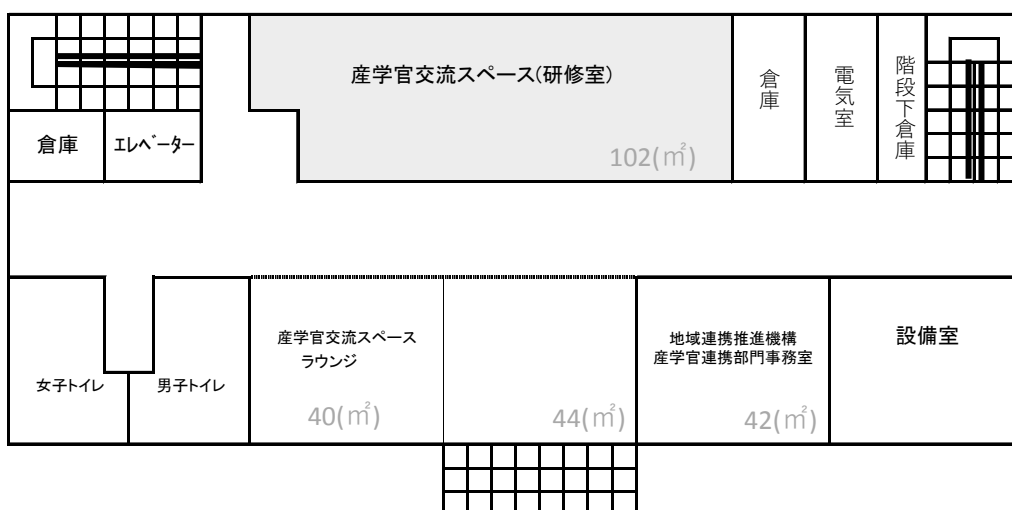
3階



2階



1階

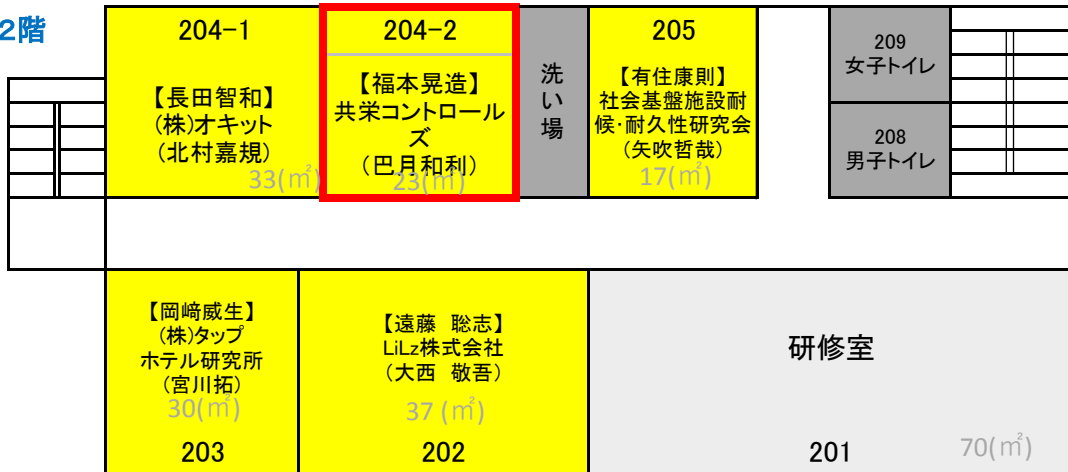


産学官連携棟 (平成30年度配置図)

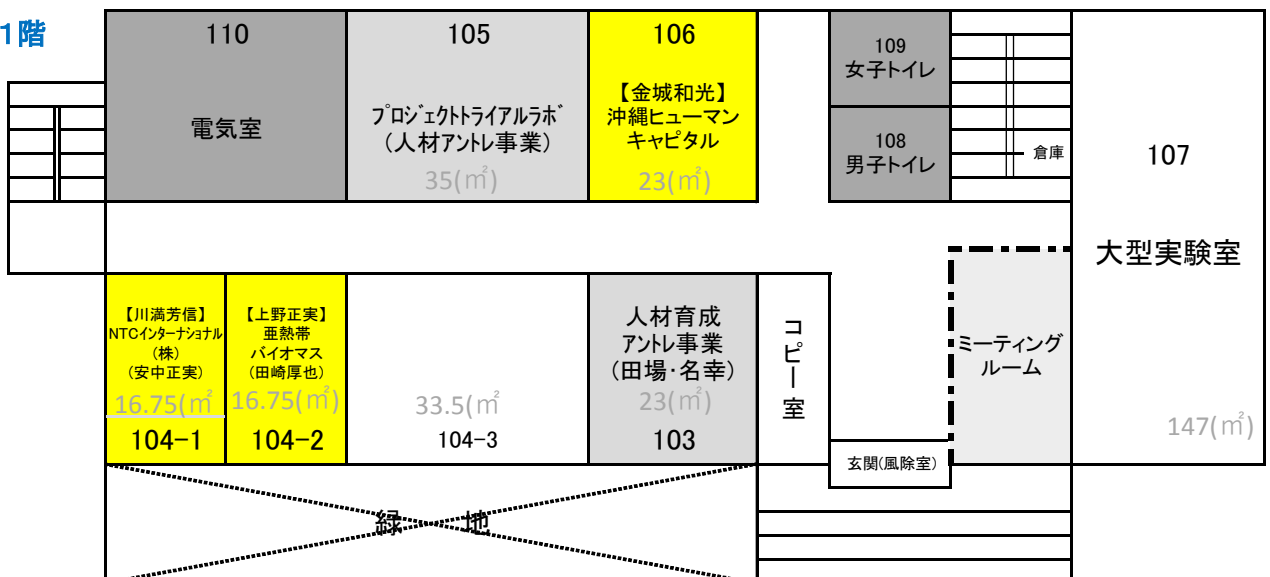
3階



2階



1階



国立大学法人琉球大学地域連携推進機構共用研究室等使用内規

平成29年1月18日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、国立大学法人琉球大学土地・建物貸与要領（以下「要領」という。）

第2条第6号及び第5条第4項の規定に基づき、国立大学法人琉球大学地域連携推進機構（以下「機構」という。）の共用研究スペース（以下「共用研究室等」という。）の使用に 関し、必要な事項を定める。

(使用の目的)

第2条 機構の長は、国立大学法人琉球大学（以下「本学」という。）における産学官連携活動に資する目的に限り、共用研究室等を学内外の者に使用させることができる。

(使用できる者の資格)

第3条 共用研究室等を使用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 本学の教員、非常勤講師及び非常勤研究員
- (2) 本学の学部学生、大学院学生及び研究生
- (3) 民間機関等の共同研究員
- (4) 本学の有する研究成果、技術及びノウハウを用いたベンチャー企業の構成員
- (5) その他本学の産学官連携活動に資するものと機構の長が認めた者

(使用の手続)

第4条 共用研究室等の使用を希望する者（以下「申請者」という。）は、別紙1「使用申請書」により機構の長に申請しなければならない。

2 機構の長は、前項の申請に対し、機構共用研究室等使用審査会の議を経て、許可又は不許可を決定し、別紙2「決定通知書」により申請者に通知する。

3 機構の長は、前項の通知をしたときは、機構運営会議に報告するものとする。

(使用期間)

第5条 共用研究室等を使用することができる期間は、本学の事業年度内とする。ただし、機構の長が特に必要があると認めた場合は、事業年度を超えて使用することができる。

2 第4条第2項の規定により許可された使用期間経過後も引き続き共用研究室等の使用を希望する者は、前条の手続きにより機構の長の許可を得なければならない。

(申請内容の変更)

第6条 第4条の手続きにより許可を得た者(以下「使用者」という。)は、別紙1「使用申請書」の記載事項を変更する場合には、速やかに機構の長に申請し、承認を得なければならない。

(使用者の遵守事項)

第7条 使用者は、要領第10条の規定に定めるもののほか、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 機構の施設及び設備等の保全に努めること。
- (2) 許可された目的にのみ使用すること。
- (3) 使用の許可を得た者以外に使用させないこと。
- (4) 機構の長の許可を得ずに共用研究室等の改造、模様替え、その他の工事を行わないこと。
- (5) 別紙3「使用要項」に従い機構の施設を利用し、事故防止に努めること。
- (6) その他定めのない事項は本学職員の指示に従うこと。

(設備等の搬入及び搬出)

第8条 使用者が必要な設備等を搬入するときは、あらかじめ機構の長の許可を得なければならない。

- 2 前項の許可を得た使用者は、設備等の使用を終了したときは、速やかに当該設備等を搬出しなければならない。
- 3 設備等の搬入、据付け及び搬出に要する経費は、使用者が負担するものとする。

(使用の報告)

第9条 機構の長は、必要に応じて使用者に対し、使用状況について報告を求めることができる。

- 2 使用者は、共用研究室等を使用して行った研究等の成果を公表する場合は、その論文等の写しを機構の長に提出するものとする。

(使用許可の取消し等)

第10条 機構の長は、使用者がこの内規及び別紙3「使用要項」に違反したとき、又は機構の運営に支障を来したとき、若しくはそのおそれがあると認めたときは、その使用許可を取消し、又は使用を一定期間停止させることができる。

(使用料及び徴収方法)

第11条 共用研究室等の使用料は、国立大学法人琉球大学料金規程(以下「料金規程」という。)の定めるところによる。ただし、学長が特に必要があると認めたときは、使用料の一部又は全部を免除することができる。

- 2 使用料の徴収方法は、料金規程に定める方法を原則とする。ただし、別紙1「使用申請書」において半年払い又は毎月払い等の申請があり、これを許可した場合はその方法によることができる。
- 3 既納の使用料は、返還しない。ただし、天災地変等真にやむを得ない理由により使用を中止した場合は、使用しない期間に係る使用料を返還することができる。

(原状回復及び損害賠償)

第12条 使用者は、使用期間が終了したとき、又は第10条の規定により使用許可を取り消されたときは、共用研究室等を原状に回復しなければならない。

- 2 使用者は、故意又は過失により機構の施設及び設備等を滅失又は毀損したときは、その損害を賠償しなければならない。

(補則)

第13条 この内規に定めるもののほか、共用研究室等の使用に関し必要な事項は、機構運営会議の議を経て、機構の長が別に定める。

附 則

- 1 この内規は、平成29年1月18日から実施し、平成28年4月1日から適用する。
- 2 琉球大学産学官連携推進機構施設利用内規（平成20年10月1日制定）は、廃止する。

平成 年 月 日

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構共用研究室等 使用申請書

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構長 殿

使用申請代表者

学部・学科:

職名・氏名:

内線()

印

地域連携推進機構の共用研究室等を使用したいので申請いたします。

なお、使用にあたっては機構の使用内規及び使用要項(別紙3)等を遵守します。

使用申請者記入欄

使 用 目 的	
使 用 期 間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
使 用 者 (本学使用責任者)	所属: 氏名: 電話:
(共同研究先の企業等)	所属: 氏名: 電話:
使用希望の建物・面積 等	☐ 産学官連携棟 ☐ 地域創生総合研究棟 ☐ 10 m ² ☐ 15 m ² ☐ 20 m ² ☐ 30 m ² ☐ 40 m ² ☐ 60 m ² ☐ そ の 他
搬入機器名及び目的	
使用料の請求先 支払方法・時期	☐ 共同研究費 ☐ 受託研究費 ☐ 寄附金 ☐ 補助金・基金 ☐ その他() ☐ 請求書(宛名:) (送付先:) ☐ 毎月払い ☐ 一括払い ☐ その他()
活動計画及び活動報告	※活動計画書及び活動報告書を添付する。
備 考	

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構共用研究室等 活動計画書

学部・学科：

職名・氏名：

共用研究室等棟名室号：

1. 共同研究等の成果(進捗の状況・今後の展開・新事業創出の可能性等)
① 共同研究のテーマや内容等が新産業の創出に貢献する可能性
② 共同研究の進捗状況及び今後の進展可能性
2. 研究開発プロジェクトの創出(研究費確保の状況、本学への資金導入額、知財の活用等)
① 研究開発プロジェクト創出
② 本学の知財等活用
③ 外部資金導入の可能性
3. 波及効果(本学及び地域(企業)等での産学官連携推進への貢献等)
① 本学の産学官連携への貢献
② 地域への波及効果
4. 使用頻度(使用日数、使用人数等)、利用方法、必要性
① 使用頻度(使用日数、使用人数等)
② 使用方法
③ 必要性
5. その他・特記事項

【使用内規第5条第2項により継続使用を申請する場合は、活動報告を行うこと。】

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構共用研究室等 活動報告書

学部・学科：

職名・氏名：

共用研究室等棟名室号：

1. 共同研究等の成果(進捗の状況・今後の展開・新事業創出の可能性等)
①共同研究のテーマや内容等が新産業の創出に貢献する可能性
②共同研究の進捗状況及び今後の進展可能性
2. 研究開発プロジェクトの創出(研究費確保の状況、本学への資金導入額、知財の活用等)
①研究開発プロジェクト創出
②本学の知財等活用
③外部資金導入の可能性
3. 波及効果(本学及び地域(企業)等での産学官連携推進への貢献等)
①本学の産学官連携への貢献
②地域への波及効果
4. 使用頻度(使用日数、使用人数等)、利用方法、必要性
①使用頻度(使用日数、使用人数等)
②使用方法
③必要性
5. その他・特記事項

平成 年 月 日

殿

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構長

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構共用研究室等の使用について(通知)

平成 年 月 日付けで申請のあった標記のことについて、申請書に基づき下記のとおり使用を許可します。

使用にあたっては、使用内規及び使用要項(別紙3)等を遵守願います。

記

1. 使用期間 :平成 年 月 日～平成 年 月 日
2. 共用研究室等: 棟 号室(m²)
3. 使用料 : 円(円× m²× 月)
4. 支払方法 :
5. その他 :

平成 年 月 日

殿

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構長

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構共用研究室等の使用について(通知)

平成 年 月 日付けで申請のあった標記のことについて、下記のとおり使用を不許可とします。

記

1. 不許可の理由:
2. その他 :

産学官連携棟 使用要項

1. 開館時間

- ①産学官連携棟の開館時間は月曜日から金曜日の8：30～17：00です。
土日祝祭日の正面玄関利用は原則、控え下さい。
- ②開館時間外に正面玄関を利用したい場合は、事前に地域連携推進機構産学官連携部門事務室まで相談下さい。

2. 使用上のお願い

- ①産学官連携棟玄関は17：00に施錠します。17：00以降の使用者は、1階裏口を利用下さい。2階3階非常口は緊急用です。通常は利用しないで下さい。
裏口及び非常口はオートロックとなっております。
- ②館内は禁煙です。居室や会議室内での喫煙もお止めください。
- ③共用部（廊下、階段、トイレ、会議室）は週一回、清掃業者が清掃します。
- ④各居室の清掃は使用者で行って下さい。ゴミは使用者が責任を持って分別し、
火曜日の午前9：00までに1階トイレ横に出して下さい。こちらで回収できる
のは燃えるゴミ・燃えないゴミ・資源ゴミのみです。西原町の専用ゴミ袋を利用下さい。
- ⑤各居室の管理責任は使用者にあります。安全かつ清潔に利用して下さい。
- ⑥退出時は照明・空調を消し、火気の始末、水道の蛇口、薬品等の密閉等を確認
の上、各自で居室ドアを施錠して下さい。
- ⑦試薬類や備品等を持ち込むときは必ず事前に連絡し、許可を受けて下さい。特
に危険物・毒物・劇物の場合は、使用簿に使用量を記載する等、法令を遵守した
適正な管理、廃棄等を使用者で責任を持って行って下さい。
- ⑧電気・水道等の節約に協力お願いします。居室を長時間離れるときは照明・空
調のスイッチを切って下さい。
- ⑨施設に異常があるときは自分で直さずに、下記連絡先へご連絡下さい。
- ⑩各居室のスペアキーを作成する際は、スペアキー申請書(任意様式)を事前に産
学官連携部門事務室に提出した上で作成願います。また、退去の際はスペアキー
も含め使用した鍵はすべて産学官連携部門事務室まで返却願います。
- ⑪電話回線やネット環境につきましては、使用者で業者と手続きをして下さい。
工事業者が決まりましたら、「設備設置工事のご提案・設置承諾書依頼」を産学官
連携部門事務室まで提出願います。決裁終了後承諾通知が届きますので、その後
工事を進めて下さい。電話回線・ネット回線につきまして、産学官連携部門事務
室が仲介することはありませんので了承願います。
- ⑫産学官連携棟 1階風除室にポストを設置しております。各居室の企業名を貼っ
ておきますので利用下さい。郵便物に関しましては産学官連携部門事務室が預か

ることは一切しませんので了承下さい。また、郵便物の宛名は必ず企業名明記で届けるよう周知願います。

- ⑬産学官連携部門事務室は、使用者と外部の方との窓口ではありませんので、問合せは各使用者へ直接連絡がいくよう配慮願います。
- ⑭駐車場につきましては、使用者用に確保することは出来ません。各自周辺の駐車場を利用下さい。お車を利用の場合は入構許可証を発行する必要がありますので、所定の様式にて申請願います。また、産学官連携棟及び地域創生総合研究棟周辺の来客者用駐車スペースへの駐車は控え下さい。
- ⑮産学官連携棟 2 階 204 室隣の洗い場について、洗い物などで利用なさった後は、周辺の水滴などを拭き取り、ゴミは水気を切ってしっかり封をし持ち帰って下さい。また、食器や洗剤などの使用者の私物は置かないようにして下さい。

3. 会議室使用につきまして

地域連携推進機構が保有している会議室は以下のとおりになります。

- ①産学官連携棟 2 階 201 室 70 m²
- ②産学官連携棟 1 階ミーティングルーム A・B オープンスペースタイプ
- ③地域創生総合研究棟 2 階ミーティングルーム 40 m²
- ④地域創生総合研究棟 3 階ミーティングルーム 40 m²
- ⑤地域創生総合研究棟 1 階産学官交流フロア 102 m²※要相談

機構の運営に対する要望・苦情・ご意見等については、下記にご連絡下さい。

連絡先

地域連携推進機構産学官連携部門事務室

TEL : 098-895-8597

E-mail : iicc@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

総合企画戦略部地域連携推進課産学連携推進係

TEL : 098-895-8031

地域創生総合研究棟 使用要項

1. 開館時間

- ①地域創生総合研究棟の開館時間は月曜日から金曜日の8：30～17：30です。土日祝祭日の正面玄関利用は原則、控え下さい。
- ②開館時間外に正面玄関を利用したい場合は、事前に産学官連携部門事務室まで相談下さい。

2. 使用上のお願い

- ①地域創生総合研究棟正面玄関は平日17：30に施錠します。17：30以降の利用者は、1階休日夜間出入口を利用下さい。休日夜間出入口はオートロックとなっており暗証番号で開閉するタイプのドアです。暗証番号は産学官連携部門事務室より一企業につき使用責任者にお伝え致します。外部の方へ暗証番号が漏れることのないよう運用につきましては十分注意し利用下さい。
- ②館内は禁煙です。居室や会議室内での喫煙もお止めください。
- ③共用部（エントランスホール、廊下、階段、トイレ、会議室）は週一回、清掃業者が清掃します。
- ④各居室の清掃は使用者で行って下さい。ゴミは使用者が責任を持って分別し、西原町専用ゴミ袋を利用し、木曜日の午前9：00までに1階トイレ前倉庫内に出して下さい。こちらで回収できるのは燃えるゴミ・燃えないゴミ・資源ゴミのみです。
- ⑤各居室の管理責任は使用者にあります。安全かつ清潔に利用して下さい。
- ⑥退出時は照明・空調を消し、火気の始末、水道の蛇口、薬品等の密閉等を確認の上、各自で窓・居室ドアを施錠して下さい。
- ⑦試薬類や備品等を持ち込むときは必ず事前に連絡し、許可を受けて下さい。特に危険物・毒物・劇物の場合は、使用簿に使用量を記載する等、法令を遵守した適正な管理、廃棄等を使用者で責任を持って行って下さい。
- ⑧電気・水道の節約にご協力お願いします。光熱費、水道ガス代(研究ラボのみ)につきましては、各使用者負担となりますので了承願います。料金が発生する場合は毎月請求書を発行致しますので、所定の口座へお振り込み下さい。自動引き落としなどの対応は出来ませんので了承願います。
- ⑨施設に異常があるときは自分で直さずに、産学官連携部門事務室まで連絡下さい。
- ⑩居室の鍵(カードキー)につきまして
最大5枚までお渡しします。産学官連携部門事務室にてカードに使用者情報を入力後お受け取りください。5枚以上必要となっても産学官連携部門事務室では追加配布致しません。紛失の際は必ず産学官連携部門事務室まで連絡願います。カード情報を抹消致します。また、紛失された場合でもカードの追加配布はござ

いませので紛失にはお気を付け願います。紛失の場合はカード作成料を弁償して頂きますのでご了承願います。

退去の際は使用した全てのカード情報を抹消します。産学官連携部門事務室に返却下さい。

- ⑪電話回線やネット環境につきましては、使用者で業者と手続きをして下さい。
工事業者が決まりましたら、「設備設置工事のご提案・設置承諾書依頼」を産学官連携部門事務室まで提出下さい。決裁終了後承諾通知が届きますので、その後工事を進めて下さい。電話回線・ネット回線につきましては、産学官連携部門事務室が仲介することはありませんのでご了承願います。
- ⑫地域創生総合研究棟 1 階風除室にポストを設置しております。各居室の部屋番号・企業名を貼っておきますので利用下さい。郵便物に関しましては産学官連携部門事務室が預かることは一切しませんのでご了承下さい。また、郵便物の宛名は必ず企業名明記で届けるよう周知願います。
- ⑬産学官連携部門事務室は、使用者と外部の方との窓口ではありませんので、お問合せは各使用者へ直接連絡がいくよう配慮願います。
- ⑭駐車場につきましては、使用者用に確保することは出来ません。各自周辺の駐車場を利用下さい。車を利用の場合は入構許可証を発行する必要がありますので、所定の様式にて申請願います。また、産学官連携棟及び地域創生総合研究棟周辺の来客者用駐車スペースへの駐車は控え下さい。
- ⑮地域創生総合研究棟 2 階 3 階の給湯室について、洗い物などご利用なさった後は、周辺の水滴などを拭き取り、ゴミは水気を切ってしっかり封をしゴミ箱にお捨て下さい。また、食器や洗剤など給湯室には使用者の私物は置かないようにして下さい。

3. 会議室利用につきまして

地域連携推進機構が保有している会議室は以下のとおりになります。

- ①産学官連携棟 2 階 201 室 70 m²
- ②産学官連携棟 1 階ミーティングルーム A・B オープンスペースタイプ
- ③地域創生総合研究棟 2 階ミーティングルーム 40 m²
- ④地域創生総合研究棟 3 階ミーティングルーム 40 m²
- ⑤地域創生総合研究棟 1 階産学官交流フロア 102 m²※利用については要相談
機構の運営に対する要望・苦情・ご意見等については、下記にご連絡下さい。

連絡先

地域連携推進機構産学官連携部門事務室

TEL : 098-895-8597

E-mail : iicc@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

総合企画戦略部地域連携推進課産学連携推進係

TEL : 098-895-8031

地域創生科目の全学履修体制の構築に向けた今後の調整事項
～学部訪問（H30.2月）をうけて～

＜学部訪問で出された意見＞

理学部 2/14	・本検討依頼に関しては、（過去に地域創生科目の調査などあったが）印象が薄い。 ・学部の委員会で正式な検討ラインに乗るよう、正式に検討依頼をいただきたい。その際、依頼は理事名で発出してほしい。 ・今回の依頼の目的（何を狙っているのか）を明示してほしい。 ・「このようにしてほしい」といった認定基準のようなものを提示してほしい。また、「ここまでできたらなおよい」という努力目標のようなものも併せて提示してはどうか。
農学部 2/20	・本件については、「説明不足」という認識。丁寧に説明すれば達成できると思われる。現在、他学部から農学部の授業を受講しにくることが懸念されている事情もあったと思われる。 ・農学部には講義系の科目だけでなく、フィールドに出る授業もある。学部共通の科目で対応できる見込みである。中には学部長が初回に地域貢献について語る授業もある。
工学部 2/23	・時期的に早めに依頼いただきかった。 ・改組を経ているので、科目内容について改めて地域創生科目にふさわしいか考える必要がある（過去の調査結果に対して）。 ・学部共通必修科目の「キャリアデザイン入門」に地域志向の要素を入れる形で対応可能ではないか。

＜本依頼の趣旨と内容＞

（趣旨）

- ・本学学生の地域に関する理解及び地域課題の解決に向けて自ら主体的に思考し活動・実践する能力を高める。

（依頼内容）

- ・本学の全ての正規の学生（学士課程の学生）に対して、卒業までに、学生が所属する任意の教育組織の単位（例えば、「学士教育プログラム」）が選定する地域創生科目を最低1科目以上履修させる体制を構築する。（平成30年度～）

※地域創生科目として専門教育科目を選定することは、当該科目を全学への提供科目とすることを意味しない。

＜地域創生科目の定義＞

主として地域社会の維持・発展・活性化や地域社会への貢献を志向し、地域における特徴や課題に関する知識の理解及び課題解決に向けて自ら主体的に思考し活動・実践する能力を育成する科目。

＜必修化する地域創生科目の認定基準＞

- ・授業科目名に「地域に関する語」が入っていること、もしくはシラバスに地域を志向する教育内容が明示されていること。
- ・1科目以上（1単位科目でも可）を設定すること。
- ・授業の中で1回以上「地域に関する内容」を扱っていること。

※「地域」の地理的範囲については、各専門分野により考え方が異なると想定されることから、特に定めない。

＜望ましい認定基準（努力目標）＞

- ・授業科目全体が地域創生をテーマとする科目 であることが望ましい。
- ・アクティブ・ラーニング形式の科目であることが望ましい。（フィールドワーク型の演習も可）

【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。
（文部科学省『用語集』より）



2018年2月27日

報道機関各位

ダイキン工業株式会社
琉球放送株式会社

第31回 ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント
～ Ever Onward with OKINAWA ～

沖縄県の芸術・文化・スポーツ・教育・研究等の振興を支援するオーキッドバウンティ

琉球大学「知のふるさと納税」など
11の個人・団体に総額640万円を贈呈

ダイキン工業株式会社（本社：大阪市）、琉球放送株式会社（本社：那覇市）は、1988年より毎年、沖縄で女子プロゴルフツアー開幕戦「ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント」を開催しています。＜今年は3月1日（木）～4日（日）まで開催＞

本大会では、1995年にプロアマ大会参加者の浄財と両主催者の寄付金による「オーキッドバウンティ」を設け、沖縄県の芸術・文化・スポーツ・教育・沖縄固有の研究等の振興支援を継続して行っています。24回目となる今回は、沖縄県の11の個人・団体を選定し、総額640万円を贈呈することになりました。これまでの贈呈先とあわせて支援先は、のべ212件を数え、支援総額は累計で1億4,260万円となります。

2018年「オーキッドバウンティ」贈呈先（全11の個人・団体）

- | | |
|---------------------------------|------------|
| ① 琉球大学「知のふるさと納税」 | 100万円（初） |
| ② ありんこ文庫 | 50万円（初） |
| ③ 沖縄の離島の学校にカメラを贈るプロジェクト | 50万円（初） |
| ④ 国頭村安田（くにがみそんあだ）「シヌグ」安田古文化財保存会 | 50万円（初） |
| ⑤ 上与那原 寛和（うえよなばる ひろかず）[車いす陸上] | 30万円（初） |
| ⑥ 比嘉 聡（ひが さとし）[組踊音楽太鼓] | 30万円（初） |
| ⑦ 仲里 優力（なかざと ゆうり）[レスリング] | 30万円（初） |
| ⑧ 沖縄県内市町村海外短期留学実行委員会 | 100万円（5回目） |
| ⑨ 珊瑚舎スコーレ[夜間中学校] | 100万円（5回目） |
| ⑩ 沖縄ジュニアゴルファー育成会 | 50万円（18回目） |
| ⑪ 琉球交響楽団 | 50万円（13回目） |

2018年（第31回大会）贈呈先の概要

① 琉球大学「知のふるさと納税」（初）

<100万円>

大学のない県内の離島では、生徒が大学生や大学生活のイメージがなく、大学進学を見ずえた将来展望を持ちにくいという課題を抱えている。琉球大学は、県内に数多くある離島への学習支援を通じて、その発展に貢献することをめざしている。離島出身の学生や教員が中心となって、離島の生徒や保護者向けに進路相談や大学生活の様子を伝え、模擬授業を実施するなどの交流事業を行い、大学で学ぶイメージを分かりやすく伝えている。この交流事業に参加した生徒の中から、琉球大学へ進学し、卒業後に離島の教員になるケースも出てくるなど、循環型で離島地域の発展に貢献している。

② ありんこ文庫（初）

<50万円>

代表：池城 かおり（いけしろ かおり）

宮古島市子どもたちが本に親しめる環境をつくるための活動を行う。趣旨に賛同する保育園や商店などに絵本や児童書の本棚を置く「分室」を島内に6箇所開設するほか、大型書店のない離島で絵本選びに悩む保護者の選書サポートや、新生児のいる家庭へ絵本を活用したコミュニケーションを啓蒙する「はじめまして絵本プロジェクト」を開催している。これまで800名以上の赤ちゃんへ絵本を贈っている。

③ 沖縄の離島の学校にカメラを贈るプロジェクト（初）

<50万円>

代表：比嘉 良治（ひが よしはる）

2012年、比嘉良治氏ら写真家によるよびかけで宮古島市立来間小中学校・伊良部高校にカメラが寄贈され、写真を通しての学びと交流が始まる。カメラは「使えるけど使っていないデジタルコンパクトカメラ」を国内外に呼びかけて、無償で提供されている。写真家や写真関係者がボランティアで離島の学校を訪れて撮影の指導や創造教育を行っている。子どもたちが自由に、島の人々や自然、学校生活や行事を撮影し、子どもたちと地域が一緒になって「ぼくたちの場所」と題した写真展を開催。写真を通して故郷・島を見つめ、子どもたちが生きる力を育めるようにとの思いで活動を続けている。

④ 国頭村安田（くにがみそんあだ）「シヌグ」安田古文化財保存会（初）<50万円>

会長：大城 盛雄（おおしろ もりお）

人口170人余りの国頭村安田地区で400年余り続く五穀豊穡と無病息災を願う伝統祭事「シヌグ」。つる草や草木を身にまとった男性が「一日神」となり、山に登って邪気を払う「山ヌブイ」のほか、女性らが独特な神踊りを披露する「ウシンデーク」などが行われる。山に入れるのは男性のみで、花やわらで編んだ冠をかぶった男性たちが、集落の「メーバ」「ヤマナス」「ササ」の三つの山にそれぞれ入り、大太鼓のリズムに合わせ、悪霊を集めて退散させる意味を込めた「エーヘーホーイ」の掛け声を繰り返し、集落を練り歩く。集落で待ち構えていた女性たちは男性につる草や草木で頭をはたかれて邪気払いをする。

過疎化が進み、祭りの継承が課題となっているなか、安田のシヌグは県内でも古来の姿をそのまま残している伝統的な行事。国重要無形文化財に認定されている。

⑤ 上与那原 寛和（うえよなばる ひろかず）〔車いす陸上〕（初） <30万円>

頸椎を損傷する事故にあった後、リハビリの一環として友人の勧めで陸上競技を始める。地元の仲間の支援を受けながら競技に励み、記録を出していった。競技用車いすの改良や国内外の遠征費を自費で賄うこともありながら、2017年7月、世界パラ陸上選手権大会で男子1,500メートル（車いすT52）に出場し4分1秒56で3位に入賞、銅メダルを手にした。またリオデジャネイロ・パラリンピックでは同種目4位と、今後のパラリンピックでの活躍にも期待がかかる。

⑥ 比嘉 聰（ひが さとし）〔組踊音楽太鼓〕（初） <30万円>

1971年琉球大学郷土芸能研究クラブで三線と太鼓を始める。1972年、太鼓を島袋光史氏（故人）、歌三線を棚原忠徳氏に師事。2001年に県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」保持者、2015年に重要無形文化財「組踊」（総合認定、太鼓）保持者、2017年に重要無形文化財「組踊音楽太鼓」（各個認定、人間国宝）に認定、及び、重要無形文化財「琉球舞踊」（総合認定、太鼓）保持者となる。

「組踊音楽太鼓」の人間国宝は島袋光史氏に次いで2人目であり、戦後生まれでは初めて。伝統的な組踊音楽太鼓の技法を高度に体現し、積極的な舞台活動を行うほか、沖縄県立芸術大学教授及び国立劇場おきなわ組踊研修講師として後進の育成に力を入れている。

⑦ 仲里 優力（なかざと ゆうり）〔レスリング〕（初） <30万円>

2017年10月、国体レスリンググレコローマンスタイルの少年男子120キロ級で優勝。2016年10月から「国内主要大会五冠」を目標に掲げ、2017年3月の全国高校選抜大会、4月のJOCジュニアオリンピックカップ、8月の全国高校総体、全国高校生グレコローマン選手権大会と優勝街道を走り抜け、国体で5つ目の栄冠を手にした。5冠は県勢初の快挙。

⑧ 沖縄県内市町村海外短期留学実行委員会（5回目） <100万円>

委員長：瑞慶覧 長敏（ずけらん ちょうびん）

県内4市村（南城市、中城村、北中城村、東村）で構成されている実行委員会。中・高校生に海外で学習する機会を与えることにより、心の豊かさと国際感覚を養うとともに、国際性豊かな人材育成を目的として海外短期留学事業を行っている。また、県内研修所において米国より講師を招聘しての英語学習プログラムも実施している。

⑨ 珊瑚舎スコーレ〔夜間中学校〕（5回目） <100万円>

理事長：星野 人史（ほしの ひとし）

沖縄戦終結の前後の混乱期に学齢期をむかえ、学校に通えず就学できなかった人が多く在籍する。これまで「クラスメート」を持ったことが無い人や、字が書けなくて悔しい思いをしてきた人など、様々な理由から憲法で保障されている学ぶ権利を保障されなかった人々が、自分の居場所たる「学校」を初めて持ち、生き生きと通うコミュニティー。

⑩ 沖縄ジュニアゴルファー育成会（18回目） <50万円>

会長：仲間 洋一（なかま ひろかず）

ジュニアゴルファー育成を目的として活動している県内唯一の団体であり、競技レベルの向上に

加えて健全な人格形成やマナー教育にも力を入れている。多くのプロを輩出している上に、将来有望なアマチュアが多く所属している。父母が手弁当で活動しており、本大会のボランティアにも毎年多くの児童生徒を派遣していただいている。

⑪ 琉球交響楽団（13回目）

<50万円>

副理事長：岩崎 セツ子（いわさき せつこ）

沖縄県立芸術大学卒業生が中心となって2001年に結成以来、沖縄クラシック音楽界を代表する活動をしている。定期演奏会や出張コンサートなど積極的な演奏活動を行うとともに、音楽鑑賞教室を充実させ、子どもたちに生のクラシック音楽に触れてもらい、身近に感じてもらう活動も続けている。若い演奏家の育成に努めるとともに、地元演奏家との共演の機会を作る等、クラシック音楽の普及に努めている。

[本リリースに関するお問い合わせ]

オーキッドバウンティ事務局：(TEL) 098-860-2055

【テーマ】

「パラオのサンゴ礁島嶼生態系における危機とその対策」 ～パラオにおけるJST/JICA SATREPSプロジェクト成果報告～

日時

平成30年3月19日(月)
9:00～12:00

会場

琉球大学
50周年記念館
多目的室AB

本学教員らが中心となり、豊かなサンゴ礁生態系を有する太洋州のパラオを舞台に、科学技術振興機構(JST)と国際協力機構(JICA)によるSATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力)プログラムにて、共同研究・人材育成支援を平成25年から、5年間にわたって進めてきました。

本講演では、プログラムの概要説明、パラオでのサンゴ礁環境調査や生物多様性評価、観光的評価や経済学的評価等の成果報告とともに、パラオでの先進的なサンゴ礁保全体制などについて報告します。

発表者【テーマ】

★中村 崇(プロジェクトリーダー 理学部海洋自然学科生物系 准教授)
& Yuen YeongShyan(理学部ポスドク研究員)

【サンゴ群集:パラオと沖縄の違いとは?】

★栗原 晴子(理学部海洋自然学科生物系 助教)
& 本郷 宙軌(理学部ポスドク研究員)

【気候変動下におけるパラオサンゴ礁】

★Reimer J.D. (理学部海洋自然学科生物系 准教授)
& 喜瀬浩輝(理学部産学官連携研究員)

【パラオのサンゴ礁生物多様性】

★宮国 薫子(観光産業科学部 産業経営学科 講師)

【パラオにおける観光のキャリングキャパシティ
:日本人観光客のマリンツーリズムにおける満足度調査より】

★藤田 陽子(国際沖縄研究所 教授)

【パラオのサンゴ礁保全の経済的価値評価】



お問い合わせ ※要事前申込

琉球大学総合企画戦略部 地域連携推進課 産学連携推進係

TEL: 098-895-8031

FAX: 098-895-8185



首里駅琉大快速線

94 番線 >>> 琉大南口／北口方面

那覇バス モノレール首里駅から琉大北口まで(平日のみ運行)

経路 首里駅前⇒汀良三丁目⇒城東小学校前⇒石嶺二丁目⇒
橋原⇒キリスト教短大入口⇒琉大附属病院前⇒
琉大附属小学校⇒琉大法学部前(琉大北口行きのみ)⇒
琉大北口(終点)

空港から琉球大学

〈高速バス〉

※1時間に1本程度／所要時間:45分

111 番線

琉球バス・沖縄バス・那覇バス・東陽バスの4社が交互運行

113 123 番線

琉球バス

経路 空港⇒沖縄自動車道⇒琉大入口下車
(琉大入口にて下車、琉大北口まで徒歩約4分)

那覇バスターミナルから琉球大学

〈路線バス〉

※各20～40分に1本程度／所要時間:40～50分

97 番線 >>> 琉大東口／北口方面

那覇バス

経路 バスターミナル⇒国際通り(牧志)⇒備保(首里)⇒
琉大附属病院⇒琉大東口⇒琉大北口(終点)

98 番線 >>> 琉大北口方面

琉球バス

経路 バスターミナル⇒国際通り(牧志)⇒バイパス⇒
真栄原⇒沖国大前⇒琉大北口(終点)



琉球大学 千原キャンパス



	企業・団体名	氏名
1		
2		
3		
4		
5		

当日受付にて混雑を避けるため、事前申込みにご協力ください。

ご参加予定の企業・団体名、参加者氏名をご記載の上、3月15日(木)までに下記まで、FAXもしくはメールにてお申込みください。

【個人情報について】

本フォーラム申込み等で取得した個人情報については、本学の個人情報管理規則に基づき適切に管理し、本フォーラムの参加者への案内・運営以外の目的には使用いたしません。

平成30年3月2日以降 各室・部門の当面の活動予定（主要事項）について

※前回からの追記事項は赤字

組織名	主要事項
地域連携企画室	○地域連携推進機構の機能強化に向けた体制整備についての検討 （地域連携に関するワンストップ窓口機能の整理含む） ○交流人材バンク設置に向けた検討（機能、体制、規則等） ○目的別人材育成プログラムの開発・実施 ○地域貢献活動に関する情報収集および広報の在り方についての検討 ○内閣府「沖縄型産業中核人材育成事業」の遂行 ・修了証授与式 3月22日（木） 於：沖縄総合事務局 2号館 2階DE会議室 ○沖縄県「知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）」の遂行 ○与那国町「離島教育環境改善事業」の遂行 ・第3回検証委員会の開催 3月予定 ○「地域貢献大学としてのブランド確立に向けた地域貢献事業循環型モデルに関する 具体的方策等について（第二次答申）」の策定 ・検討WG 3月5日（月） ・学長調整 3月6日（火） ○包括連携協定締結に向けた検討・調整 ・沖縄市 3月26日（月） 於：沖縄市役所 ・沖縄県中小企業家同友会 ※調整中
産学官連携部門	○沖縄県「成長分野リーディングプロジェクト創出事業研究委託業務 （沖縄の有用生物資源を活用したヒト介入試験モデルの構築）」の遂行 ○沖縄県「次世代アントレプレナー人材育成事業」の遂行 ・第2回有識者委員会 3月5日（月） 於：地域創生総合研究棟 1階 ○沖縄県「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」の遂行 ○琉球大学産学官金スタートアップ支援事業の遂行 ○琉球大学ブランド商品開発支援事業の遂行 ・開発商品記者会見（調整中） 3月末
生涯学習推進部門	○COC+ 自治体との雇用創出・若者定着に係る協定締結に向けた検討・調整 （宜野湾市、西原町、中城村、金武町） ○地域創生科目の全学必修化に向けた取組

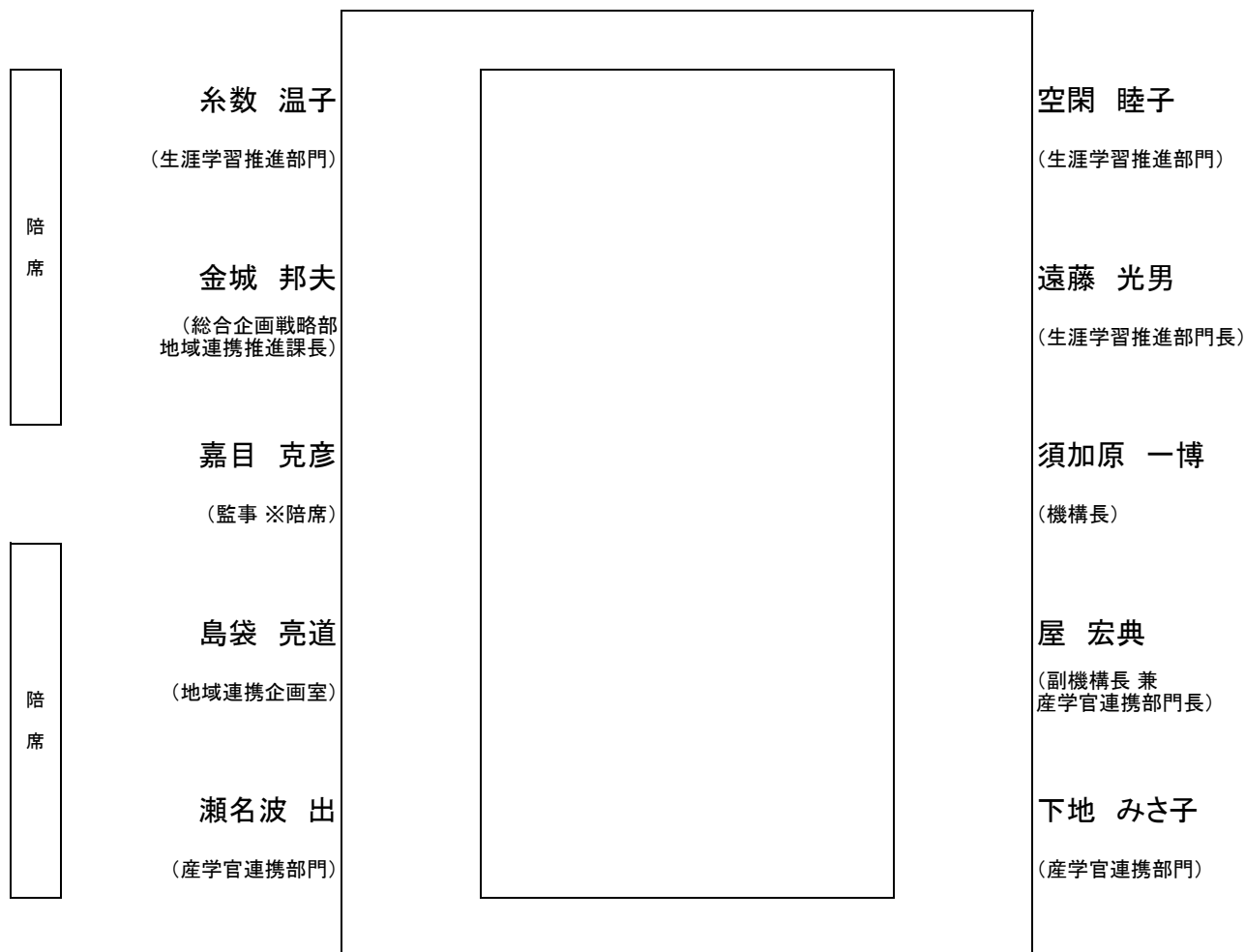
地域連携推進機構運営会議 委員名簿

(平成30年1月1日時点)

	所属・職名	氏名	区分	備考
1	機構長 (理事・副学長 (地域連携・地域医療・ キャンパス移転担当))	す が はら かずひろ 須加原 一博	1号委員	議長
2	副機構長 兼 産学官連携部門長 (副学長 (産学官連携担当))	おく ひろすけ 屋 宏典	2号委員	議長代行
3	地域連携企画室長 (生涯学習推進部門 教授)	せ と ひろふみ 背戸 博史	3号委員	
4	生涯学習推進部門長 (法文学部 教授)	えんどう みつお 遠藤 光男	4号委員	
5	産学官連携部門 准教授	たまき おさむ 玉城 理	5号委員	専任教員
6	生涯学習推進部門 准教授	しばた さとし 柴田 聡史	5号委員	専任教員
7	地域連携企画室 特命准教授	こじま はじめ 小島 肇	6号委員	特任教員
8	地域連携企画室 特命准教授	しまぶくろ あきみち 島袋 亮道	6号委員	特任教員
9	地域連携企画室 特命准教授	みやざと だいや 宮里 大八	6号委員	特任教員
10	産学官連携部門 特命准教授	しもじ みさ子 下地 みさ子	6号委員	特任教員
11	生涯学習推進部門 特命准教授	く が むつこ 空閑 睦子	6号委員	特任教員
12	生涯学習推進部門 特命助教	いとかず あつこ 糸数 温子	6号委員	特任教員
13	産学官連携部門 教授 (熱帯生物圏研究センター)	あらかわ たけし 新川 武	7号委員	併任教員 (任期:平成29年4月1日～平成30年3月31日)
14	産学官連携部門 教授 (工学部)	せ な は いずる 瀬名波 出	7号委員	併任教員 (任期:平成29年4月1日～平成30年3月31日)
15	総合企画戦略部長	につた きなえ 新田 早苗	9号委員	
16	総合企画戦略部 地域連携推進課長	きんじょう くにお 金城 邦夫	10号委員	

平成29年度第13回 地域連携推進機構運営会議 座席表

平成30年3月2日(金) 10:00～12:00 (本部管理棟 2階 第2会議室)



入 口

(欠席)			
背戸 博史 (地域連携企画室長)	玉城 理 (産学官連携部門)	柴田 聡史 (生涯学習推進部門)	小島 肇 (地域連携企画室)
宮里 大八 (地域連携企画室)	新川 武 (産学官連携部門)	新田 早苗 (総合企画戦略部長)	